摯田神宮献詠集

特260
975

始

昭和十五年献詠

寄劔祝

公爵母堂　一條悅子

みつるきの光はひろくかかやかむわか日の本のあらんかぎりは

宮中顧問官正三位勳二等子爵　日野西資博

すめくにの大みたからのみつるきの光はとはによもにかかやく

子爵夫人　日野西廣子

神代よりいまもつたはるみつるきのくもらぬみよをあふく民草

京都帝國大學名譽教授文學博士從三位勳二等　吉澤義則

もえせまるほのほきりかへす御劍の稜威輝やく御代のすかたか

判事從三位勳三等　岩本以明

まかかやくみつるきの如あふかれぬ海陸そらにつくすみいくさ

檢事從三位勳二等　吉良辰次郎

かしこしや神のみつるき神なからさかえゆくよを守りますらむ

やしま國をさめたまひしみつるきの光はいまやひかしあしあに　臺北帝國大學教授從三位勳三等　植松安

顧問

いつきまつるこの大宮のみつるきのくもらぬみよそ貴かりける　御歌所參候正二位勳四等伯爵　清閑寺經房

點者

まつろはぬ者のことごとなきふせて國守らするみつるきたふと　御歌所寄人正四位勳四等　鳥野幸次

つたはれる神のつるきのめくみにてとよあし原に風そさわかぬ　御歌所參候正三位伯爵　冷泉爲系

もののふのたましひとなるつるきたち萬代までも國まもるなり　故伯爵夫人　油小路順子

曇りなき御代をまもらすみつるきのみいつの光永久にかかやく　伯爵夫人　立花艶子

しこくさをはらひてみ國まもれとやかみは劍をおくりましけむ　正三位勳二等子爵　清岡長言

とこしへに光さやけきみつるきにいや榮えゆく日のもとのくに　從三位勳三等子爵　松平乘統

くはしほこ千足のくにと上つ代ゆ四方にそなひくみつるきの風　從三位子爵　松平直幹

しこくさの根さへたえしは草薙の神のみつるきあれはなりけり　正四位勳四等子爵　梅園篤彦

あまつ日の光とともにくもりなきみよ守りますかみのみつるき　殿掌正四位子爵　唐橋在知

つむかりのたち神さひて皇國を守りますひかりいかしかしこし　正五位子爵　藤井彙誼

みつるきのひかりはとはに輝きてくもりなきよを守りますらむ　故子爵夫人　三室戸房子

大神といつきまつれる草なきのつるきのひかり世をそてらせる　子爵母堂　松井正子

たくひなきとしにあひたる喜ひに光りますらむかみのみつるき　正三位男爵　浅野養長

國こそりことほきかはす此としにひかり添へけり神のみつるき　男爵夫人　淺野登喜子

皇軍の身をもまもれるつるきたちわか日の本のたからなりけり　男爵夫人　德川寛子

大みいつかかやく神のみつるきのひかりはとはに世を照すらむ　從三位勳三等　立花寛篤

くさなきのみつるきあふく武夫の猛きこころそ世にたくひなき　從三位男爵　澁谷隆敎

ことしけき御世に殊更いのるかな御いつ八高きみつるきのみや　從三位勳四等　桑原芳樹

かみ代より皇國まもるみつるきのひかりはいよいよ年にそひゆく　從四位勳四等男爵　杉溪由言

選者

よきあしきたちてさはきて世を守る劒つたへしくにをめてたき　御歌所寄人從四位勳五等　武島又次郎

從四位勳五等　野田菅麿

いつきまつるおほみ劒のみいさをにくにの光もいよよますらむ　御歌所寄人從五位勳五等　遠山英一

選者

大神のはかしきといふみつるきのむかししのへはあやに尊とし　御歌所參候正五位勳五等　東胤德

選者

み劒のふつのみたまのみひかりのいよいよ輝やく世をいはふかな　從五位勳六等　北里闌

選者

神殿にいつきまつれるみつるきはとつ國にまてひかりはなてり　從五位勳六等　本居清造

讀師

草なきしつるきのみいついやちこにくにの光そよもにかかやく　熱田神宮權宮司正七位　慶光院俊

とことはに榮ゆる國のみ守りといつきまつれるいつのみつるき　御歌所參候正七位　栗山直扶

大かみのたからのつるきくもりなきみよにあひてそ光そふらむ　日本女子大學校教授正七位　弘田由己子

大神もよしとおほすらむ御つるきのかかやき渡る國のさかえを

選者、委員、　従七位　長谷部親弘

すめくにはつるきのみくにかみ代よりふつのみたまの霊幸ふ國　従七位　佐藤貢

みいくさの劔のひかりいやましぬ常ならぬ世のこのときにして　御歌所録事　倉石正

國くににもえひろかれるたたかひのほのほをしつめたまふみ劔　坂若榮

しこくさをなきはらひにしみつるきの光かかやくいまの大御代　山本行範

あらき火はもえつきぬともくさなきのみ劔いつく國はとこしへ　中島清作

醜草をなきつくすてふみつるきのみいついよいよしるき御代哉　岡山高蔭

みつるきのひかりあふきてこのころは御くにの大臣皆詣てくる　蜂須賀年子

むらきもの劔のみいつ今もなほあふきたたふるすめらくにたみ　磯部艶子

神寶そのみつるきにことことくほろひこそゆけすめくにのあた　委員　岡田直寛

あたのみか草木もなひくみ劔はすめらみくにのすかたなりけり　選者、委員、　村手陶英

み劔に神のみたまもこもらひてはくくますらむやまとたましひ　選者、委員、　恒川平一

みつるきのいつの御光かかふりてかちこそすすめわか大みくさ　執行、選者、委員、　掛布弓月

親かみもゐみて見まさむますらをかふるふ劔のひかりそふよを　横井祥祐

皇神のみたまといつくみつるきのみいつや國のひかりなるらむ　講師、委員、　近藤美

大御代はいよよさかえて皇國のつるきのひかり四方にかかやく

發歌、委員、

くさなきの大みつるきの神みいつとつ國までもおよふ御代かな　天野良吉

講師、委員、

日の本のくにのみいつはつるきとりたたむそのときいよよ輝く　堀田恒比古

講頌

つはものかはける劒のひかりにもみゆるは國のかかやきにして　桝田新三

熱田神宮禰宜

いつきまつるみ劒あふく人さはにつとふやみ世の榮えなるらむ　篠田康雄

熱田神宮主典從八位

みつるきの光あまねく浦やすのかきりなき代をいはふこのあき　松岡助久

熱田神宮主典

仇は伏しともはあふきて日の本のつるきになひく四方のくに國　吉村龍雄

講頌、役員、

熱田神宮宮掌

唐の野のしこくさなきてみつるきのみいつ輝やくみよいはふ哉　竹川清雄

講頌

鄉社酒見神社社司

北のくにみなみの海のはてまてもつるきのいつは輝やきにけり　野田良夫

○

官幣大社明治神宮權宮司正六位

みつるきのみいつ畏こみ立さわく波もおたひに風けよとそ思ふ　中島正國

別格官幣社菊池神社宮司正六位勳六等

仰かさる國こそなけれ草なきのみつるきとはにくもりなき世は　中島仰

國幣小社駒形神社宮司從七位

來し方にましてさかしき行手にもたのまるるかなみつるきの神　河田晴夫

選歌

岐阜縣

御劒のひかりとともに雲見やまかみの御稜威は永久にかかやく　大島新次郎

京都府　陸軍軍醫中尉從七位勳五等功五級　大前二作

國まもる熱田の宮のみつるきはあふかぬ眼にもまはゆかりけり

愛知縣　内藤庄藏

みたからのつるきのことくすめ國は强く正しくあきらけきくに

愛知縣　村手安磨麿

うみの外にてりこそとほれみつるきの神なからなるくしき光は

山口縣　伊藤勘治郎

いつきまるつおほみつるきの光より生れいてけむ大和たましひ

東京府　東京府立第五高等女學校生徒　沼田裕子

すめ國はとはに榮えむみつるきの草なきしことみちをひらきて

福島縣　會津產婆學校生徒　星姫子

とことはにいはひまつらむ草薙のつるきにこもる神のみたまを

とつ國もおそれかしこむみつるきの稜威輝やくみよそめてたき

神代よりつるきの光かかやきてさかゆくくにそたふとかりける

まかつひのひそみかくれむくまもなし神の劍のひかりさすくに

安國と世を平らけくしつむるはわか日のもとのつるきなりけり

きみかためみかくつるきのかかやきに八紘一宇てりわたるらむ

ちはやふる神のみこころうつります宮のみつるき尊とかりける

大君のみいつとともにしこくさを薙しつるきのひかりいやそふ

みつるきの清きみ光日のもとのさかえ行く世のしるしなるらむ

白鳥の行衛はいつこよろつ代にみいつかかやく草なきのつるき

すめらきの三つの寶のつるき太刀曇らぬみよのさかえをそ思ふ

醜草をなき拂ひてしくさなきのみつるきは世のまもりなりけり

外國の草木もなひくみよなれややまとをの子のうつたちかせに

みつるきの神のみとくに國民はいくさのかちをいはふあきかな

神代よりつたふつるきを民くさのこころとはせめ大和たましひ

みやしろにいつきまつれる草薙のつるきそみよのまもり神なる

東京府　從四位勳三等　山縣初男
正五位勳三等功五級　東島猪之吉
從四位勳五等功五級　松原積之助
從五位勳六等　中村保彦
從六位勳六等　角田傳
正八位勳六等　黑野德三郎
勳八等　鹽井敦
墨冨美惠
井關澤子
吉永秀敦
松倉任子
不島定治
林かつ子
川上郡三
坂元要介

天か下つるきはさわにあるなれと我つむかりそかみやとります
のひてゆくみ國と共に草なきのつるきのひかりいよよかかやく
神代よりとはに傳はるみつるきにすめらみ國のひかりをそ見る
みいくさに召されし吾子を祝はむと祖先の劍を佩刀せつゝ見る
草薙しそのいにしへのみつるきは國のひかりとあふかるるかな
ますらをかたてしいさをやこもるらむ劍のひかり家にかかやく
くさなきのつるきのみいつたかひかりみよは動かし常磐堅磐に
昔より日嗣のみ子のみしるしといつきまつらふみつるきたふと
みつるきの高きみいつに醜草もなひきふしつつみよそさかゆく
皇國につくす利こころみかけとやみつるき世世に輝やきぬらむ
利心をみかかむためのつるき太刀ことある時はひかるやきたち
はたつよくみ國をまもる劍太刀さやかにてりて聖代そあかるき
しこ草を拂ふつるきそくもりなきさかゆく國のひかりみせつゝ
この神のみいつたふとしみつるきにみ魂こもりて世をそ守らむ
切れあちをしめすは今そ日本刀ぬきてかささむくにのほまれと
くさなきのつるきのひかり今もなほみいつかかやく日の本の國

齋藤廣吉
東島季子
坂元憲
大瀧由次郎
戸祭正邦
告森多賀子
祝出布太郎
並河若子
富松聖治
淺田みゝの子
野邊地慶治
森長貞夫
安達松喜
和田梅子
右手重子
北川節子

天の下みいつと共にかかやくはやまとつるきのひかりなりけり
秋晴の空にも似たりくもりなきわか日のもとのかみのみつるき
ひらめきし一むらくものみひかりになひきふしけむ四方の民草
くさなきの神のみつるきとこしへに國の守りとつたはりにけり

京都府

柾丹治
齋田隆治
榎本禮子
北村春子
小笠原太郎吉（功勲従四位三等位）
杉山高三郎（功勲従五位五等位）
關目琴季（従五位勲七等）
速石亮（従七位勲六等）
松尾清之丞（従七位勲六等）
西野龜太郎（正七位勲七等）
樋口源治（勲八等）
市川潔亟（勲八等）
河原林伊三郎
元持とっ子
竹村仲城

外國の野邊にしこくさなき拂ふつるきかかやくみよにもある哉
たまちはふ神のはかししみつるきはみ代の光とともにくもらす
神代よりつたへ來れるみつるきは國のまもりと永久にひかれり
大御世のひかりと共にかかやくは布都の御魂のみいつなりけり
外國にひかり輝やくすめくにをまもりたまへるかみのみつるき
みつるきのみいつのかせのふきたちて仇の醜草なひきふしけり
戰のいのるねかひのみつるきをかみはすてしのめくみたのもし
醜草を刈り拂ひてもすめくにのひかりをあくるつるきたふとし
よにたくひなくて名くはし大神の御靈こもらすみはかしつるき
君か代はいよよかしこし國まもるあらみの太刀の澤にいてきて
何ものかなひかせさらむみつるきの荒野の千草なきしことくに

草薙きてしこのえみしら懲したるそのみつるきの光しおもほゆ　松山松枝

此神のみいつもそひてみつるきのひかり輝やくうみのそとまて　西野治子

むら雲の世にもかしこきみつるきはみいつ榮行くみよの守りか　近藤作次郎

ますらをのかさすつるきに大神のみいつかかやく海の外までも　秋山菊子

たくひなき國のみいつをたふとくも光に見するかみのみつるき　水谷松枝

萬代もくもらぬひかりたふときは神のみたまのこもるみつるき　箭田春子

もののふのつるきの光くもりなきみ國をおかすあたなかりけり　出野幸子

たたかひに勝てかへりしもののふは劔をぬきてまひいはひけり　龜田千巖

國をしつめ民をやすむるみつるきの御德を祝ふけふそうれしき　猪田峯次郎

つむかりの太刀のみいつのかしこさにおそふ仇なき日の本つ國　皆川益範

天地のいたくむほんは代になれて神のみつるきあやにかしこし　長谷川嘉吉

つはものの進み行くよも皇國のつるきにむかふあたなかりけり　福井剛之助

益良夫かみ國をまもるつるきこそたくひなき世に輝やきにけれ　福井道子

ますらをの魂こめしつるき太刀きれあちしめすときはきにけり　波多野靜子

君か代の光とともにくもらぬはかみのはかししみつるき成けり　陶山月夜

靜御代の神の宮居のみつるきはみいつとともにとはにかかやく　伊賀不二男

くもりなき御代のしつめともろ人かあふくも畏こ神のみつるき　山本正彦

大神のみいつもそひてとこしへにつるきのひかり世を照すらむ　永田雅德

みいつさへ神代なからの大君のみよもつるきもくもらさりけり　大谷千賀子

櫻咲くみ國とともに千代までもひかりかかやくかみのみつるき　立本弘三郎

治まれる世にもみたれを忘れしとつるきを常にみかくますら夫　高橋鹿之助

あたはみなうちほろほして劔太刀さやにをさまるみよを目出度　市川純潮

醜草はなきはらはれてみつるきのみいつかしこき君か御代かな　大塚龜若

益良夫の功とともに名をあけてかへりし太刀のたふとさおもふ　安井石柱

くもりなき劔をおひてもののふか月夜にいこふかちいくさかな　林初子

久もりなき御代にひかりそかかやける熱田の宮の神のみつるき　源德明

とこしへに國のしつめのみつるきをいつく宮居そあやに畏こき　堀田末尚

外國にたくひなきよのみひかりとともに輝やくかみのみつるき　高田ぬい子

千早ふる神のみ國をまもる太刀のはなつひかりは天つちのむた　澁谷操子

かきりなくさかゆく君のみしるしとあふくもかしこ熱田の大神　曾根源作

たくひなき熱田の宮のみつるきはきみのみいつと共にかかやく　曾根滿津子

明らけくをさまれる世に仰くかな國のたからとなれるみつるき　池垣幾子

かみ代よりつたはりきつるみつるきのとはに曇らぬ君かみよ哉
大かみのみたまこもれるみつるきはをさまれる世の寶なりけり
神代よりつたはるつるき皇國のひかりとともに世にそかかやく
大八洲日つきのみ子のみたからは世にも尊ときみつるきと聞く
劍太刀はくもはかぬも國たみのこころはひとつおほきみのため
くもりなきあつ田の神のみつるきは君のみいつと共にかかよふ
まつろはぬ仇なかりけり武夫かはけるつるきはかみもやとりて
ものすこくいくさの庭にひかりけりつはものかもつやまと劍は
みたからの大御鏡ともろともにくもらぬものはかみのみつるき
みつるきは大和こころのあらはれといつくみ國そとはに安けき
國のため身はくつるとものこしたるつるきの動かたりつたへむ
事あらはおくれはとらし太刀はきてやまと女のこころしめさむ
天地のむたさかえゆくすめらきのみよの守りのつるきたふとし
はけましし神の劍はくもりなきわかおほみよのまもりなりけり
和みてはくにを治むるうつはなりわか日の本のかみのつるきは

大阪府

大前恵美子　山本和子　福永貞勝　福田美壽子　大澤克泉　松見平次郎　蘭田久枝　富田富太郎　吉川よ泰　瀧内弘章　藪内頼之　藪内勢れ子　松田芳次郎　進藤治子　荒瀬藤吉

尊けれみつるきふるひ醜はらをことむけたまふかみをしおもふ
つるき太刀とこに飾りて亂れ刃の亂れも見えぬみよそめてたき
ぬかて足るみよそめてたき身をまもる劍は腰のさやにをさめて
振りかさすつるきに醜のかけきえてみよ安らかにいよよ榮えむ
しこ草をはらひたまひしみ劍のみいつはいまもかかやきわたる
皇軍のかちをいのりついつきまつる神のみつるき伏をろかみて
心こそとくへかりけれみつるきのみいつ輝やくみよのめくみに
みつるきのみいつはかしこ皇軍はくさなくことく勝すすむなり
熱田なる神にまうててみつるきのひかりをろかみみよ祝ふなり
もののふの心と共にみかきたるつるきはくにのひかりなりけれ
かしこくも支那の醜草なきまさむ熱田のみやのかみのみつるき
みおやよりつたはる太刀も世にいてて動たてむ男子生れたり
もろこしの醜の草原なきはらふわかみいくさのつるきするとき
よろつ民祝ふよき年のたふとさはつるきを寄せむ動きなき世を
皇國のひかりとなりてまもりますあつ田の宮のかみのみつるき
すめろきのみいつと共にかかやきてよよに傳はる神のみつるき

正六位勲六等　藤原欽一
従六位勲六等　宮田茂穂
勲六等　土肥衛
勲七等功七級　山本喜助
眞鍋長夫
松岡つな子
中田作五郎
川本あき子
近藤ふみ
山内兼
横山左馬太郎
金井行圓
豐濱紀
早川榮子
後藤房子
日下とく

草薙の神のつるきはゆるきなきくにのしつめのたからなりけり
君か代はかくてよろつ代たまつるきさやに納まり飾られてのみ
よよ國の仇をひしきしつるきこそ大和をのこのみたまなりけれ
皇國の大みたからとあふかれて永久にかかやくかみのみつるき
ちはやふる熱田の神のつるき風からくさはらひみいつかかやく
天てらす神よりうけし玉つるきひかりいやますきみかおほみよ
楠かをる宮に詣ててみつるきのたかきいさををあふくかしこさ
はく太刀の鞘をはらひて舞ふもありたむろにいこふ皇軍のとも
大君のみいつとともにみつるきのきよきひかりは世にそ輝やく
劔太刀みかきみかきてすめろきのみいつを代代に輝やかしけり
みつるきは熱田のみやにしつまりて大和島根はゆるかさりけり
みたからの一つとあふくみつるきの光とともにくにはさかえむ
家こそり皇國芽出たき年なれはつるきのみやにまうてむと思ふ
みつるきによせてみくにの祝ひ事よろこころ頻りなりけり

神奈川縣

馬場靖一
松井鐵太郎
名子敏雄
山中磯子
城村富子
城村信子
堤元道
堤正道
伊藤きせ
早川自照
北浦一郎
北川松壽
三浦三郎
三浦富子
田沼勝之助

みおやよりつきつきうけしわか太刀の君か御楯とならむ今こそ
神代より國をしつめのみつるきの威德いよいよ四方にかかやく
すめろきのみいつと共にみつるきの光はうみの外までかかやく
たくひなきひのもとまもる御劔はみよのひかりと共にかかやく

兵庫

田沼えん
古田萬龜子
金田喜久子

縣

安藤恒信（勲五等位）
神木亮（從六位勲六等）
佐伯梅治（從七位勲八等）
新海きよの
松田定子
清瀨正作
藤原象二
大原良久子
太田冨子
渡邊千榮
高見正弘
木谷壽子

ちりすゑぬつるきの光かかやきてますら武夫のかかみとそなる
つかのまにあたまつろへてことむけの大御劔のいきほひそとき
ことしあらは死して報いむつはものつるきの光まかかやく國
大神のさつけたまひし草なきのつるきそくにのまもりなりける
大神のみかけとあふくみつるきのひかりはとはに曇らさりけり
みつるきの光の冴えにしこ草のなひきふしけりはむかはすして
薙きはらふ醜草たえてつるきみなさやにをさまる御代そ榮ゆく
もののふのやたけ心をきたへたるつるきのひかり四方に輝やく
かしこみてあふく宮居の御劔はかみ代なからにみいつかかやく
みやしろのしつめとなりて草薙のつるきはいとも尊とかりけり
神代よりうけつきませるみつるきのいよいよ輝やく君かおほ御代
永久に熱田のみやとあふきまつる神なからなるたふとみつるき

石上やき津の野邊のふることをしのへはたふと草なきのつるき
劔太刀くにのたからと仰きつつ千代もさかゆるくにはこのくに
萬代にくもらぬものはみくにもるやまと男子のつるきなりけり
しきしまのみ國肇きしみつるきのいさを輝やくみ代のめてたさ
大八洲あつ田のみやのみつるきをゆるきなき世のためしと仰く

長崎縣

中島義男
金居光子
高橋熊太郎
赤松圓成
佐野眞子

いつくしきおほみ劔のみいつそふ御世の進みそはてなかりける
大みわさひろめます世を祝ひつつとるみつるきにむかふ仇なし
唐土のしこくさなきてみつるきのひかり曇らぬきみかみよかな

新潟縣

勲七等 日野清三郎
泰山米子
川島寅三郎

まつろはぬ仇あらめやもみつるきの神なからなる大御稜威には
仇ともを千草となきてよろつ代にみいつかかよふつるき尊とし
いやちこにあらたなりけりみ劔をいつきまつれる神のみいつは
神なからみくにまもらすみ劔のみいつは世よにあらたかにして
草薙のつるきのひかり外くにのひとさへあふくみよそうれしき
かしこくも神のつるきのみ光はいまそみくにのうへにかかやく

正六位勲五等 田中剛輔
従八位 鈴木嘉内
勲八等 小宮陸
森内重藏
柳田德次郎
須貝健吉郎

醜草もめくみのつゆにうるふなり我太刀かせになひきつくして
とつくにのゆめもさむらむみ劔のひかりはいよよてり輝やきて
日の本の國のまもりのみつるきにもろとつ國はおそれをそする
神代よりあつ田のみやのみつるきはあやにたふとく光ますかな
もののふのはくみつるきの曇りなく光かかやく世をいはふかな
天皇の世よにつたへしみつるきは神代なからのたからなりけれ
もののふか日本刀と身もきたへまもれはいよよみよはさかえむ
太刀風に支那のあら野もなひけつつちよにうるはむみ惠のつゆ
草の如はひこる闇の根をたちて世をしつめますかみのみつるき
額つけは神代にかへるここちしてかしこかりけりみつるきの前
しこくさをはらひたまひてとこしへにみ國まもらすみ劔そこれ
仇をたち皇國をまもるみつるきの奇しきは神のみわさなるへし
外國に何のありてもきれまさるわかつるきよりするときはなし
仇し野の露なきはらふつるき太刀いさをや國のひかりなるらむ
ますらをの魂こめしつるき太刀ひかりかかやくきみかみよかな
大君かとり佩く玉のみつるきのひかりましゆくみよそめてたき

久住喜久治
小林修藏
岸本喜一
岸本花子
竹ノ内金次
親松千勝
高田日雅
澁谷喜久
渡邊常藏
中村柳風生
齋藤鐘太郎
富樫力藏
中村龍吉
本間貞吉
石橋甲
松田直行

むらくもをきりはらはれてみ劍のさやかなりけり國のひかりは　埼玉縣　大塚仲太郎

かみ代より國の承繼みつるきのいさをあまねくみよそさかゆる　新井憲治

とこしへにいや榮えゆく大御代はこのみつるきの光りなりけり　群馬縣　駒場梅五郎

皇國はとはにうこかしみつるきのとこころもてる民のまもりに　千葉縣　荒祐次郎　正八位

天か下しつめたまひしみつるきのひかりは遠くうみへたてても　勲七等　相川和男

寶劍は日のみひかりとあまねきてなひかぬ醜のしこくさそなき　勲八等　吉野一松

皇のみくにをまもるたましひはこつてあつ田のかみのみつるき　勲八等　野口大助

永久にみよもるかみのみつるきをあふき祝はむ今日のよき日に　板倉彌三郎

たたかひのいさをはとはにかをるらん神の寶とのこるつるきに　石毛正作

神劍の稜威かしこしからもくりくにはらとほくいてりとほらす　市川敎生

世とともに光はとはにかかやかむ熱田のみやのかみのみつるき　小澤熊次郎

天照すかみのさつけしみつるきはくにのしつめと治め初めけん　市川一清

皇國をまもるみかみのみつるきは神代なからにかかやきにけり　本城巳之助

神やとる大和つるきのきよき光いよよかかやくきみかみよかな　椎名宗平

大神のはきたまひけんみつるきのひかりは千代も輝やきにけり　川島辨藏

しこくさはなひきふしけりたくひなき日本刀のその太刀かせに　茨城縣　勲七等　長沼成信

もののふのとりはく太刀の光こそやかてみ國のひかりなりけれ　勲八等　長沼成美

やまと魂こもるつるきのするとさを代々につたへて國そ榮ゆく　永長福美

神代よりつたへてくしきみ劍のいつのひかりそみちたらひたる　永長きん子

皇國のまもりは遠しひとふりのつるきにやとるやまとたましひ　大川濟

くもりなきつるきにやとる魂そすめらみくにのほこりなりける　大川逸

劍太刀鞘をはらへはことさへくからのくさ木もなひくみよかな　宮川作藏

ますらをのいさをと共にかかやきて太刀の譽もこよなかるらむ　須田足穗

神代より國をまもりのみつるきのひかりは海の外にもかかやく　方波見杵二

とる人の心もともにかかやくはわかすめくにのつるきなりけり　方波見千年

ときあけて事ある毎にぬく太刀の諸刃にこもるやまとたましひ　須田くに

劍もてからのしこくさうちはらへ大亞細亞建つときそいははむ　栃木縣　秋田吉彌

信仰のつるぎかさしておほきみにあたなす醜をきりはらはなん
日の本にあたなすしこを西ひかしうち鎮めてむみつるぎそこれ

外國のさわたつ時しあることにやかてつるぎそたふとかりける
みつるぎの御稜威の光かかやきててりこそわたれうみの内外に
あなたふといつの靈のみつるぎはすめらみ國のみたからにして
人心ときすましたるみつるぎのたからのくにはとはにさかえむ
つるぎたちををしく強き國ふりにみよは榮えむひかりはなちて
床の間によろひかさりてつはものの道の尊きをいはふみつるぎ
劔もて守りきたれるくにからをおもひていはふますらをのとも
みつるぎのみいつかしこし日の本はかみ代なからに彌榮え行く
草薙のつるぎのひかりあまねくもあしあをてらす時は來にけり
みつるぎの宮のみたまのおほみつるぎいよよ榮えて國そ榮ゆく
大神の伊豆のみたまといつきまつるおほみ劔はくにのしつめそ
大御代の光にいよよかかやけりやまとたましひうちこめし太刀

三

奈良縣

青木義雄
久保井倉吉

正八位 村井幸章
辰市祐嵐
稲田主麿
大倉恭助
大倉弘臣
長野長水
長野清芳
引原石根
植山儀吉
文珠基詞
山本秀雄
森田伸子

重縣

遠つ祖のみたまこもれるみつるぎはかみよなからの寶なりけり
大きみのしこはらはすもやき太刀のとつかのとたち千世萬世に
熱田なる神のみつるぎいやましにみかかれてゆくきみか御代哉
草薙のつるぎのみいつあらはれて四方のたみ草えらきまつらふ
神劔の匂ふしら刃はくにたみのやまとこころのもとゐなるらん
吹きまくる日本男子の太刀かせにちりもとめし支那のくに原
つはものか十握のつるぎぬきつれて國のみいつを輝やかしつつ
敷島の大和たましひこもるてふつるぎはくにの千代のまもりそ
かしこくも學舎おへしつはものに御太刀一ふりくたしたまひぬ
大宮にいつきてまつるみつるぎのひかりは四方の國にかかやく
みいくさのつるぎの光世にしるくかかやく御代をいはふくに民
神代よりたからとあふく御劔のひかりくもらしよろつ代までも
みにあまるよろこひ寄てかちときをあくる劔のひかりめてたき
御寶とつたはるたちのにほひこそ大和こころのひかりなりけれ
敵はみな向はすすかたかくしけりわかみいくさのつるぎの光に
日の本のつるぎの光いちしるくみよのさかえとともにかかやく

従五位勲五等 井上正治
正六位 平松得一
従七位勲七等 岡本孝千代
勲七等 太田太三郎
勲七等 菅谷磋次郎
勲七等 平田力榮
勲八等 矢澤金秋
勲八等 志村源伍
篠田建彦
木崎喜左衛門
豐濱龜藤
川澄きよ子
梶嶋政治
中川赴夫
谷口清一
貝塚みつ子

この宮にしつまりませるみつるきの動はよよにかかやきにけり
しこ草をかりはらへとて皇國にとどめましけむかみのみつるき
たたかひにたてしいさをも思はれて頭さかりぬはこほれの太刀
大神のさつけたまひしみつるきはみたまとなりて千代に輝やく
御劍のひかりはとはにつたはりて千代に動かぬわかおほみくに
しきしまの大和心とみつるきのひかりは千代もくもらさるらむ
熱田なる神のみたまのみつるきのいつのひかりはとはに曇らし
葦原の紫雲は晴れて千木たかくこうあのあつ田輝やくみつるき
あめのしたてりわたるなり雲見山しつまりませる神のみつるき
力つよく亞細亞はたちぬみつるきにしこのを草は薙つくされて
おほきみに命ささくる太刀かせにはむかふてきも靡くみよかな
大亞細亞永久にしつけくなさむまて力かしませかみのみつるき
みつるきの光かしこしまかかやくわか日の本のさまもかくやと
しめはえてうつやみ國のつるきにはは向ふ者もなしとこそきけ
醜草をはらひたまひし大かみのつるきはよよにひかりかかやく
叢雲の名はおふるともみつるきのひかりは今もくもらさりけり

貝塚ひな子
岡村善太郎
五十棲吉次郎
葛谷春太郎
葛谷壽子
島　正浪
諸戸時子
稙村四郎吉
伊藤てい
伊藤ふう
岡田傳男
櫻井政雄
藤内觀一郎
藤内ちづ
伊藤美の子
菅谷ゐね

大君のおほみいくさの太刀かせになひき揃はぬしこくさそなき
長もちにかくれし太刀もみいくさに取いたされてみよに仕ふる
すめらきのみよのしるしのみたからとつたへてひさし神のみ劍
みつるきを見つつささけつ稱へつつ今日も手柄を祝ふつはもの
まつろはぬやつこうちてし御劍のひかりいやますこの大御代に
劍太刀さやにをさまるままにして亂れぬくにはおほやしまくに
大和魂こめてきたへしつるきたち刄にこそにほへ國のひかりは
みくに守る神のこころにかなふ哉わか益良夫のかさすつるきは
つむかりのたちいつくてふ御社のあつ田の杜はすかすかしかり
草薙のつるきの風のををしさにやかてはれ行く四方のむらくも
武士のたましひなりとつたへきてたからなりけり大和つるきは
軍人みなぬきにけりくにのためいへにつたふるかみのみつるき
おこそかに光る劍のみたれ刄にみたれなき世をいはひこそすれ
日の本のかみたからなるみつるきの光かかやく世をいはふかな
ちはやふる神代なからのみつるきは萬代かけてみくにもりますす

中川戒三
森　春人
吉川運雄
民谷勳彦
市川三郎
坂倉廣生
道家きぬ
荒木清次郎
磯田瀧治郎
川北紋一
後藤貞則
種村喜市
吉崎金彌
岡田禎治郎

愛知縣

竹居芳藏（正勳五三五　位勲等）

草をなき醜をつくししみつるきは國をまもりのかみにましま
大神のくたしまたへるみつるきは八百よろつ代の護りなりけり
ゆるきなきみよのしつめと仰くかな神のみつるき齋くやしろは
てりはゆるつるきの光おもふにもくもりはかけし大和たましひ
醜草をなきたまひけむみつるきのひかりあまねき君かみ代かな
ゆるきなき皇御國のみひかりをときみつるきのうへにみるかな
もののふかたてし勳をはく太刀のさやかに見るへき時は來向ふ
むかひたつ草のなきまて大亞細亞わか太刀風になひけとそ思ふ
いくさ人とりはく太刀のつかのまも皇國のさかひ廣くなりつつ
草薙のおほみつるきのひかりにておさまるみよとなりにける哉
日の本の民安かれとかみつるきみやにしつめていのるたふとさ
くさなきのみつるきたふといつきまつる此大宮はいや榮ゆらん
みつるきのくしきみいつは代よをへて彌耀よへり海のうち外に
世を救ひ民をいかさんつるき太刀仇はするとくうちはらへとも
齋ひ奉るつるきのみいついやちこにみくにの光いやひろり行く
千萬の國のしつめとあふきなむあつ田のみやのかみのみつるき

從五位勳四等 大林爲策
正五位勳五等 早川了平
從五位勳五等 鈴木直彦
從五位勳五等 間瀬安一
正六位勳六等 米澤英之
從六位勳六等 磯貝彌一郎
從六位勳八等 森崎順三
從六位 小林爲助
正七位勳六等 河野鈴一郎
從七位勳六等 河邑泰朝
從七位勳六等 鈴木秀吉
正七位勳七等 松井銀造
正七位勳七等 磯部初太郎
正七位勳七等 中野美道
正七位勳七等 山田嘉三郎
正七位勳八等 後藤六郎

身をまもり國をおさむるつるきこそ我日の本のたからなりけれ
まのあたり見るそうれしきみつるきの光のことき人のこころを
いや高き神のみいつをみつるきのひかりと共にあふくかしこさ
仇のほこる砲もたつへくうちふるふ太刀にそ籠る大和こころは
名にたかき大和島根のかみつるきひかりかかやく時はこのとき
みつるきの光を添へて日のもとのあしあを照すみよは來にけり
草薙の太刀のひかりもてりそひていよよかかやく日のもとつ國
今の世にいよよみいつのまさる哉熱田のみやのかみのみつるき
日の本の國のしつめといつきまつる宮居たふとき神のみつるき
神寶おもへまことのつるき太刀ころすはいかすやまとこころを
戰のにはにかかやくつるきたちこれそみくにのひかりなりける
仇共をきりなひけたるつるき太刀千代のほまれを祝ふもののふ
あめの下ひとつになりて皇國のみつるきあふく御代は來にけり
かすかすの勳をたてしこのつるき永久に傳へてたからとはせん
功たて名をもあけよとこのつるき征くつはものに祝きて贈らむ
鋭こころをいよよみかきて武士のはけるつるきはひかり輝やく

正七位 野々山彬
正七位 村上喜内
正七位 後藤善一
從七位勳七等 間瀬常三郎
從七位勳七等 前田哲治
從七位勳七等 日比野健一
從七位勳七等 川口鐐太郎
從七位勳八等 淺野幹夫
從七位勳八等 松澤永雄
從七位勳八等 田島仲高
從七位 大原次郎吉
從七位 車館光隆
從七位 田島仲吉
從七位 富永芳雄
從七位 鈴木一治
正八位 鏡味仙太郎

玉つるきふるれはきらむ大君のみいつかしこむよものくにくに　正八位　金子賢弘
大八洲まもりかみなるみつるきのいつのみひかりいよよ輝やく　勲七等功七級　河合宗七
ぬきつれて進めは四方に仇はなしきそへもろ人おほきみのへに　勲八等功七級　新崎磐
外國にたたかふ人のみまもりのつるきのひかり四方にかかやく　勲七等　加藤銀一
みつるきのみいつかかやく皇國になひかぬ國はあらしとそ思ふ　勲七等　岡田孫三郎
いまの世もしこくさなきて皇軍に幸はひませるみつるきやこれ　勲七等　村瀬市次郎
心なきとつくにひともわかともものつるきの風になひかぬはなし　勲七等　福田實
火ともゆる皇軍のさま聞くなへにみこくさなきのみつるき思ふ　勲七等　安立長次郎
日の本の天業いよよおこるよにくさなきたまふかみのみつるき　勲七等　西田贊治
雲見山いはひまつれるみつるきに事あるけふをねかふもろひと　勲七等　眞野榮五郎
御軍の千代のゆくてにかかやきてほまれもくもりなきつるき哉　勲七等　松本保吉
かしこしや熱田の宮のみたからはみ國をまもるみつるきにして　勲七等　山内嚴雄
武夫の佩けるつるきにこもりけりわか日の本のくにのちからは　勲七等　中村正德
みつ國の和みをきつくたたかひの護りかしこしみつるきのかみ　勲八等　横山國三郎
みつるきの光さやけきおほみよに生れあひたるわれそうれしき　勲八等　柴山鉾三
みつるきのくしき光もかつそひて我おほきみのみいつかかやく　勲八等　田中清雪

日の本のますらたけをの手にもてる劔そくにのひかりなりける　勲八等　青木育青
みつるきのまもりをうけてとこしへに光輝やく日のもとつくに　勲八等　横地辰宜
神代より傳へ來にけるみつるきのひかりや國のひかりなるらむ　勲八等　中田安兵衛
かしこしや熱田の宮のみつるきは千代も八千代もひかり輝やく　勲八等　渡邊民之助
もののふかかさすつるきの光にはしこの諸くさなひかぬはなし　勲八等　松井清次
ますらをのたまとたのめる劔こそすめらみ國のまもりなりけれ　勲八等　酒井宗訣
大御代のちよのさかえをまもりますすめ神のつるきそ尊とかりける　勲八等　木全濱夫
すめ國のとはのさかえを守りますみいつかしこし神のみつるき　勲八等　岡田力
靡かさるしこくさなきてあなかしこみいつかかやくかみの御劔　勲八等　佐藤義泰
戰のかみとしあふくくさなきのつるきのひかりかしこかりけり　勲八等　成田常作
草をなき昔あたをはほろほしし皇子のつるきはくにのみたから　勲八等　伊藤德次郎
あらみたまこもる劔のとこしへにくもらぬみよの上をこそ祝へ　勲八等　江口陣藏
皇國のまもりとあふくみつるきのひかりいやますきみかみよ哉　勲八等　梶村勝太郎
つたへきしつるきたふとし皇國のみいつと共にさえまさるかも　勲八等　山口不二彦
かちいくさつつく光はみつるきのかみの守ますみいつなりけり　勲八等　伊藤慶眞
吾湯市潟沖のかもめもみつるきのひかりかしこくうち仰くらむ　勲八等　岩越金重

いつきます熱田の宮のみつるきのひかりは國のひかりなりけり　勳八等　栗田岩三郎
旭の旗とともにひらめくみつるきはいよいよ國の譽れなりけり　勳八等　奥村玄導
醜草をなきしつるきはさひるともいさをそ光る千代よろつ代に　勳八等　鈴木紫光
まつしとて我も皇國の民なりとつるきのみこそまもりきにけれ　勳八等　長谷川述
大きみのみたてとなれと應召の吾子にさつけぬてんらいの太刀　勳八等　齋木德之進
醜草のしこの夷をなきはらふみつるきのみいついとめてたき　勳八等　竹内秀雄
をろそかに劒佩かしもためしなき國のすかたをたたへまつりて　勳八等　平井寅三郎
御劒のみいつたたへて民くさのいさむこころそたからなりける　丹羽玉邦
二千まり六百年をそほきまつるつるきのまひのいさましくして　安永熊三郎
ゆるきなき國の守とくさなきのつるきのひかりあふくかしこさ　倉地宏
くさなきの名もかしこしな荒みたま事ある如にたけひたまひて　梶野渡
するとさのうちにこもれるみ劒のみうつくしひをあふくみよ哉　丹羽清一
軍人とりしとりてにいはふかなつるきのとくをかたりあひつつ　淺井久
つるき刄のするとき光さなからにかみのみいつの輝やきわたる　生田小平次
ますらをのたてしいさをのあと見えて殘る劒のみたれめてたし　山田清致
天降る布都のみたまにあふくかなはつ國しらすくしきしるしを　大原良一

劒太刀さやにをさめてますら男のかちて歸らむ日こそまたるれ　加藤正安
みつるきのみ德はくさをなくのみか皇國あまねく守り給ふなり　加藤榮之助
みつるきは大和島根のひかりにてうみの外面にかかやきわたる　加藤九兵衛
雲見山國のしつめとみつるきのみいつあまねしかみよなからに　堀清猷
神代よりくもることなきみつるきは代よのまもりと光かかやく　林金次郎
くもみ山とはにくもらしいつきまつる大み劒のくしきひかりに　野々山四方
しこくさをなきたたしけむみ劒はかみの世よりも曇らさりけり　野尻信誓
はるかなる戰の場にかかやきぬくにのしつめとあふくみつるき　中島鶴子
外國の人もうらやむ日のもとのやまとつるきは世にたくひなき　藤井榮臣
仇はなへてひれふすらむか草薙の大みつるきのいつのみいつに　森すゝゑ
あふけ人草薙ましみつるきのたかきみいつをすめくにの上に　深田茂實
萬代にめくみあつたのみつるきのひかり照りそふ天つ日のもと　上遠野國子
みつるきの神の光もそふならんあたのとりてになひくみはたに　大島敦子
年をへていよよかかやく御劒のみいつはみよのひかりなりけり　鈴木重孝
みつるきを神とまつりし昔こそみよのさかゆるはしめなりけれ　奥田亮三
草薙のおほみつるきのみひかりに和こやけき世の春をこそまて　横山文子

いつきまつる熱田の宮のみつるきの光はくにのみいつなりけり
み劔のひかりは世よにてり添ひてわかおほ君のくにはゆるかす
くはしほこ千足の國のみつるきは大和こころのあらみたまなり
あなたふといつのみ劔いや呀えてくにの外までかかやける世や
ゆくところ皇軍勝てり名をなせりつるきの如きひかりはなちて
劔もて神のひらきしわかくにのきみのみいつはいよよさかえむ
宮柱ふとしくたててきみか代のしつめとあふくつるきたふとや
くさなきの御劔のことくもりなきはえあるみよをことほき奉る
大宮にいつきまつれるみつるきのひかりに似たり我みくにから
仇うつと武夫かかさす利つるきにかかやく者はみいつなりけり
あまつ祖のみ靈こもれるつるきとてことある毎にいよよ照はゆ
いかならん仇てふ仇も拂ふへしわか日のもとのかみのつるきは
みつるきの光かかやく日の本の國をこそいはへためしなき世に
かしこくもとはにくもらぬみつるきの輝やくみよに合か嬉しさ
みつるきのいつの光をあふきつつ平和をいのるやまとくにたみ
みつるきの光もそひておほ君のみいつかかやくひかしあしあに

栗田馨　加藤倉三郎　高松定久　榎本とし　栗木宗治　近藤蕃道　渡邊伊吉　松下敎道　古寺千代惠　舘山香　安田德篤　横田芳文　水島千代　中村みち　石黒郷　石黒正子

たたへむに言の葉もなしたふとくも國をまもりの神のみつるき
四方の海に光はなちぬみつるきをかみとまつれる日のもとつ國
かかやきぬ國をしつめし草なきのつるきのひかりよろつ代迄に
皇國のくにのみいつをとこしへに内外にしめすくさ薙のつるき
とこしへにみくにのひかりかかやかむ熱田の宮のみつるきの如
みつるきのひかりのことくかかやけるわかおほ君のみよは萬代
國まもる劔のひかりさしそひてきみのみいつのいよよかかやく
みつるきの光もそひてたくひなきみよのみいつは四方に輝やく
御劔のひかりは四方にかかやきていよよさかえん日のもとの國
日の本の國の仇うつつるき太刀ひかりいやます御代にあひけり
大御稜威かかやく神のみつるきのまもるみ國はやすくにして
たましひをこめてきたへし劔こそわか日の本のほこりなりけれ
しつみます神のみ劔世をてらすひかりのなかのひかりなりけり
みつるきの光りに仇もひれふしてみいつは四方にいよよ輝やく
御劔の舞をささけておほみやにいくさのかちをほきまつるかな
くもりなき大みつるきにみなきりぬ我日の本のくにのひかりは

柳木よね　桝田やゑ　青山景風　間瀬秀太郎　村瀬玄吾　仲本もん　木全淳　岩瀬能登子　伊藤節次郎　加藤彌三　飯野金子　渡邊正三郎　森嘉藏　山本藤吉　野村倫三　栗田茂兵衛

千はやふる神のとらししみつるきの光いやますきみかみよかな　平田鼎
みつるきの光に神のみこころをあふきまつりていはふけふかな　三浦ひつ子
神代よりくもりのあらぬみ劒のひかりいやますきみかみよかな　手塚芳子
大神のみ手にとらししむかしよりつゆも曇らぬいつのみつるき　森勝敏
畏くも神のみたまのこもりますとつかのつるきたふとかりけり　武田琴
いつきまつる伊豆の劒の幸はひていよいよみよは榮えゆくなり　岡部文子
つはものか仇きためむとさやはしる劒にかみのみいつかかやく　笹生弘子
いつきまつる熱田の宮のみつるきのみいつあふくも國民のさち　長谷川源五郎
たたかひて勝たぬ日そなき草薙のつるきのみいつ彌ちこにして　大八木義雄
もろこしに南の洋にみつるきのひかりあまねきみよそかしこき　加藤祐太郎
たたならぬ世にはあれともみ劒のくもらぬひかり仰くかしこさ　小栗哲造
皇軍はかちこそつつけくさなきの大みつるきのくしきひかりに　久留宮覺也
しこくさは生ひも茂らすみ劒のはなつひかりのてらむかきりは　山口昶子
みつるきの光かしこみ大みやにとつくにひともまうて來る世や　日比野恒子
大御代のおほみさかえを祝ふかなくしきつるきの光りあふきて　山口英信
皇軍かかさすつるきのするときになひかぬ仇のいかてあるへき　松本光三

皇祖のくたしたまひしみつるきのひかりいやますきみかみよかな　伊藤辰次郎
劒太刀さやぬけいててみいくさのいさを輝やくきみかみよかな　早川澄治
神代よりうけたる太刀のみ光に日いつるみくにいよいよさかゆく　林要
日の本の守りとなりてかかやきぬ熱田のみやのかみのみつるき　北原柳吉
天地と共にひさしきくさなきのつるきのいつをあふくころかな　土方かす子
益良夫のかかみと千代にあふかれむ譽のいへにのこるつるきは　淺井榮次郎
みやしろのみたまの劒世にたかくみいつ輝やくくにのうち外に　伊藤富之助
日の本の劒の名こそとつくにほまれもたかくひかりかかやく　天野復助
御劒にあさ日まはゆくてりはえて神國のみいつめてたかりけり　横山公信
みつるきの光かかやき日の本はさかえゆくなり千代に八千代に　横山博亘
みつるきにゐやをささけて祝ふ日のとく來よかしと乞願ふかな　鈴木げん
しこくさをなきたまひたるみつるきのみいつかかやく熱田大神　杉本巳之吉
しこくさを薙きはらひにし御劒のひかりは鞘にをさまりの世や　日下慶太郎
醜草をきりはらひつるみつるきのひかりは消しよろつよまても　塚本瑞雲
雲見山しつまりませる御つるきのひかりの如くくにはかかやく　都築嘉弘
草なきの劒のひかりかかやきてみいつあまねき日のもとのくに　相羽順松

正しきを守るみくにのつるきたち世にたくふへき者あらめやも　北村又吉
尾張のやあつたの宮にしつまれるおほみつるきは國のみたから　原千恵緒
我國の代よのまもりといつきまつる熱田の宮のかみのみつるき　都築清音
つるきたち大和天國ひのもとの代よのまもりとなるそたふとき　都築ゑつ子
太刀取りて仇なす敵をたひらけしいさをを今日は祝ひけるかな　小田豊治郎
身をまもる大みこころの劔こそくにのまもりのたからなりけり　野澤友三郎
とこしへに東亞のはるの長閑さをやまと武夫のつるきにそまつ　伊與田光五郎
かけまくもあやにかしこきみつるきのくもる事なき君かみよ哉　山根しけ子
日のみはた仇のとりてにたつことに劔のひかりいよよましゆく　堀場千代子
とこしへに國の守りと仰かれむあつたのみやのかみのみつるき　戸田益次郎
類ひなき國のみたからみつるきのみいつは四方にひかり輝やく　岩本芳治郎
あつ田なるみやにしつまるみつるきは外國人もあふかぬはなし　岩本ゑかを
いにしへも今もかはらぬいさをしをかたりて祝ふ神のみつるき　深津粂治郎
たたかひもをさまりゆかむ草薙の神のみつるきまつるこのくに　川崎光子
神代よりつたはるいつの御劔はやまとのくにをまもりますかみ　藤井和風
みつるきの光とともにおほ君のみいつかかやく日のもとのくに　柴山義雄

草薙のつるきとともによろつ代にひかり輝やく日のもとのくに　服部桂
もののふのうちはく太刀のするときや皇軍人のこころなるらむ　長谷部せん
み國人こころひとつに劔太刀のさやにをさまる御代をこそ祝へ　長谷部廣子
つるきまつる熱田の宮のみさかえを祝ひ奉りぬ今日のよき日に　小河らむ
つるきとる友にしらせのふみやりてゆたけき秋を祝ふけふかな　森下宮一
むつみあふくにとく生れよすめくにのいつの劔の清きひかりに　村瀬友淳
かしこしやかすになきみも歌祭あつたのみやにいはふみつるき　伊藤邦
み劔のたふときひかり仰くかなめくみあつたのかみのみまへに　市川藤五郎
邪をやふるつるきのみひかりのかかやく御代にあへらく嬉しも　太田新之助
あた國にしける醜草なきはらふつるきのひかりさゆるみよかな　河原大信尼
浦安の國をまもりのみつるきのひかりかかやくきみかみよかな　長島ゆさ子
天皇のみことかしこみとる太刀にふれてなかれぬしこ草はなし　山本尙足
神代よりつたはるつるきたふとくもみつる光をいはひますらむ　加藤村子
國民はほきこそまつれみつるきのみいつ輝やくたくひなきよを　土井秀一
みつるきのみいつの光かかやきぬわれにはむかふ國のまほらに　南部康彦
とほつおやのいさをは今もかかやけり家の寶となれるつるきに　青木兵一

みつるきのくしきみいつを仰きつつこよなき年をいはふ今日哉　平林康資
みつるきのみたまのふゆを畏こくもよよかかふりて住める里人　小貝登代子
みいくさのひろこるままにみ劒のみいつのひかりてりわたる哉　貝谷民子
皇國のよよのまもりとあふくかなあつたの宮のかみのみつるき　富田たま
櫻さくわか日の本のみつるきのみとくになひくことくにのひと　鈴木博三
長久にひかりあまねくかかやかむみいくさ人の佩ひしつるきは　竹内熊太郎
しつまれる神のつるきの守りませは四年銃後もゆるかさりけり　高橋照子
古にたちまさりゆくみつるきのかみのみいつのいよよたふとき　若井久三
兵士かつるき佩くことこのかみのみいつ仰かぬたみなかるらむ　恒川平
みつるきをあかめまつれる宮に來てゆえある今年祝ふけふかな　瀬尾鎌次
み軍は勝かつねなりみつるきのあつ田のみやにほきことまをす　三輪野仙助
み世祝へわかみつるきにしこのくにいはらの道も切ひらけゆく　三輪野正志
はなむけの劒ささけて祈るかな征くますらをのさちおほかれと　山路太藏
名所のなのりとなりてみつるきの草なきのあとたふとくひかる　竹田銀太郎
つたはれる神のつるきのみいつこそみよ安らけく守りましけれ　野田色許若
大君のみいつことほきささけたるつるきのはやしさゆる月かけ　市川清

大神といはひまつれるみつるきのみいつはいかに畏こかるらむ　岡部武助
草なきのおほみつるきの光こそかかやくみよのすかたなりけれ　田中俊弐
醜草を神薙きませしみつるきのみいつそいよよ四方にかかやく　土井準平
日の本のつるきは四方にかかやきて幾千代ふとも曇らさらなむ　近藤きむ子
くさなきの大御劒は日のもとのくにのみたからかみのみたから　大須賀恒子
陀武夫山かみのみつるきしのふにも祝ふこころは畏こかりけり　鈴木止一
しこくさをかりしつるきをときあけて世に輝やかせくにの光を　神谷門平
くもりなきみよのひかりは豐なるつるきたのしむ末はるかなり　深澤菊三郎
戰にかちてかへれとますらをかわれをかたりてつるきたへぬ　永坂專太
たたふるもかしこかりけり神代よりみよまもります御劒のみや　鈴木巖
草薙のつるきかしこしむかしよりすめらみ國をみまもりのかみ　野村榮太郎
敷島の大和男の子のたましひとあふくつるきそたふとかりけれ　岡田藤一
數かすのいさををたてしますらをの心あふるるつるきたふとき　清水清十
わかたてし勳も神のまもりますしるきつるきのたまものにして　長谷川佐吉
しこくさをうちなひきけりつはものの志しおとらせて振ふ劒に　長谷川きみ子
神代より今につたはるみつるきと共にくもらすみよのひかりは　杉浦秋雄

天か下千代も八千代もさかゆくにまもりますらむ神のみつるき
いつきまつるみつるきの如海の外にかかやき渡る大御稜威かな
此年に外くにまてもたかひかるくにのみたからつるきいはひぬ
劒をはさやにおさめて大亞細亞むつみあひつつともにさかえむ
みつるきのひかりたふとし仇者のなひくみよこそ嬉しかりけれ
みつるきは熱田の宮にしつまりて民のあらきもきたへますらむ
さやはしり草なき拂ひしみつるきのみいつたたへむ常磐堅磐に
くもりなき熱田のみやのみつるきは御國と共にひかりかかやく
まつろはぬ醜をくまなく大あしあの草薙はらふかみのみつるき
あしあ地のしこなきかるるは草なきの神の劒のみいつなりけり
あまた人神の御前にぬかつきていきをあはしていはへつるきを
やまとたまこめし劒の利こころにむかふかたなき君かみよかな
猛き民むへ生れにけりかみの太刀いつき傳ふるきみかみくにに
つはものぬきはなちたる劒太刀さやにをさめむ時そまたるる
ますらをかかさすつるきにこもるらむかみのみいつとやまと魂
日の本のくにのしつめと仰かれてあつ田の宮のつるきめてたし

後藤龍　古寺研珠　岡部都路　梅村八治郎　杉山武三郎　河部覺三郎　田中磐五郎　坂本長子　外山吉久　森本友一　加藤德之亟　本多德治郎　中神務　岩井正圓　祖父江ゑげ子　片山きみ子

神代よりうらやすのくに御劒のくさきもなひくくしきみいつに
この宮にしつまりませるみつるきは大和島根の魂にそありける
仇をきりはたしてかへる武夫のつるきそまこさたふとかりける
天皇のよろつよとなへつはものかさすつるきに朝日かかやく
くもりなきつるきの光いやちこにあふきて祝ふ今日のもろひと
もののふのいくさのかとて祝きて家のたからのつるきわたさむ
みつるきの神の御稜威はくもみ山高くたふとくかかやきにけり
この神のしこを拂ひしみつるきのさかえめてたき高ひかる御代
くさなきの神のみつるき食國のちよのさかえをまもりますらむ
みつるきの神のみいつはとこしへに瑞穗の國のまもりなりけり
安國のかみと鎮まるますらをのかたみのつるき世にかかやけり
かちときをよろこひあひて强者らつるきを撫してみよ祝ふなり
日の本の仇なすしこを打ち拂ふつるきたふとし四方のしすめに
みつるきをよよにうけつきしろしめすすめら御軍に醜靡きなむ
大前にぬかつきをれはみつるきのひかりわきたつ心地こそすれ
ほきまして分ちたまはむみつるきのかみのひかりをいくさ刀に

新美直　鰐部庄太郎　深谷輝治　山本傳太郎　桑山隆顯　遠山ッヲ　服部セ惠　森忠信　岩田俊春　小川仙吉　野田清　野田りつ子　五藤久三郎　尾關大見　角田ともゑ　富田珍哉

太刀のをのたけきまもりは日の本のいよとさかゆる基なるらむ
大君の御楯となりしますらをのつるきまもりていはふうふすな
かみ代よりつたへきたひし大和魂やとれるつるき尊とかりける
すめくにのみうちのみかは御劔のみいつは海の外にもかかやく
たたかひの場もなひけむ草薙のかみのつるきのたかきみいつに
家の名をあけしみおやのつるきなりいさ佩きゆきて立てよ勳を
大宮にいつきまつりてとこしへに國のしつめとあふくみつるき
代よをへてなほかかやける御劔の神のくにはらしこくさもなし
はこほれの劔も家のたからなりうせしわか子のたまもこもれは
事しあらはさや走りせむ御劔もをさまる世こそめてたかりけれ
はむかひし仇うらかへりまつろふもこの御劔のみいつなりけり
燒太刀のそのとこころはすめ神のすめらみ國をまもるなりけり
日の本の國をまもらすみつるきはやかて亞細亞も鎮めますらん
あたくものたちさわきなは打ちはらひ皇國守りますかみの御劔
いさといへは仇にむくはむ武夫かおもきつるきを腰にはきける
まひのほる人絶えまなし草なきのつるきのみいつ仰きまつりて

小塚司郎　吉川吉一　長谷川庄太郎　加島隆治　加藤秀次　長岡安吉　長岡千代　瀧花隆之助　森岡一良　平野逸三郎　宮松義重　森下石太郎　丹羽正雄　箕浦若榮　尾崎德太郎　今津孫七

みいくさの勝ちすすみゆく皇國のみいつに似たりたちの光りは
萬代とよことささけむみつるきのいます熱田のみやのさかえを
どこしへにあつ田のみやのみつるきの守る皇國のたち榮ゆらむ
まつろはぬものあらめやは大神のみいつこもれる天津みつるき
神代より世よにつたはる草薙のつるきはくにのまもりなりけれ
みつるきのみいつに唐の醜草もなきはらはれてきよくなるらむ
國健ちの神のみつるきいたたきてひらきゆく代そ長こかりけり
みつるきの寄るもかしこみ日の本のたけるの宮へ齋ひ祀つらむ
天照す神のひかりのそひしよりとはにくもらぬむらくもの太刀
みつるきの高きみいつを身にうけて命をしまぬやまとをの子ら
たたへむにことのはもなし尊とくも國を守りのかみのみつるき
しこくさをなきましにける御劔のひかりを仰くみよの目出度さ
あな嬉しみいくさ勝ちてつはものの捧くつるきに朝日かかやく
御劔の神のひかりにてらされてまつろはぬくにこそなかりけれ
くさなきのつるきのさやにおさまれる靜けさみてる君かみよ哉
みつるきのみたま幸はふ皇軍のゆく手なひかぬしこくさもなし

荒井喜久惠　前原鎌太郎　松原芳一　神田久吉　小川五城　二村政武　濱島德五郎　梅村玉模　久留宮石太郎　後藤美那子　柵木よね　宮治信泰　岩瀬逸朗　船戸義實　鈴木喜一　武田光子

雲見山しつまりませるみつるきのひかり輝やくみよそめてたき
なひかぬを振ふつるきにをさめきてみいついやますあきつ島國
神かけてきたひあけたる益良夫のつるきのちから限りしられす
武士の腰におひたるひとふりはあつ田のみやの分身とそおもふ
みつるきの宮の御劔かかやけはわかひのもとにしこは生いなく
外國のはてまてひかりかかやきて大みつるきのいやもたふとき
みつるきのさやかに光さしそひて今あけわたるとうようのそら
北にさち南につるきてりはえていよよかかやく尾はりくにはら
すめ國の光なりけりつはものかあたうちたふすいつのつるきは
みつるきの光かかやくいやちこにすめら御國のさかえゆくらむ
末遂にあたもふすへしあらみたま神のつるきのひかりおそれて
萬世にひかりはさゆれくさなきの大みつるきはくにをまもりて
時にあひていよよ光のかかやくはみかける魂のつるきなりけり
御劔のひかりの如くきよらにもをさまるみよそめてたかりける
いさを立てかへりし吾子のつるきをは床に飾りて祝ふれしさ
みはかしを劔のひかりたふとひてみいつ仰かぬくになかりけり

神田幸太郎　石塚勘三郎　澤田はぎの　岩田佐市　樋口喜久次郎　樋口はつね　横田謙一郎　瀧花やほ子　近藤連　日比野正清　加藤由三　菊池順子　酒井苗樹　寺澤義之　渡邊もゞ子　野中敞

御劔に神のみたまのこもれはややまとしまねによるあたもなし
たたかひの場にふるひし大太刀のはこほれほめていさを稱ふる
國まもる熱田のみやのみつるきは神代なからにいよよたふとし
雲見山千代ふるみやにきみか代のよろつ代まもる天つみつるき
御劔のたかきみいつをかかふりて醜くさなこむもろこしのはら
みつるきのいつの光にしこ草はなひきふすらむよろつ代までも
うひまこの六年のけふの誕生日つるきかさりていはひけるかな
國守るみたてなるらむむら雲のつるきのひかり千代にかかやく
かきりなく我大御代のさかゆくはかみのつるきの守りなるらむ
いつきまつる大み劔のみひかりにかちては進むわかいくさひと
ぬきはなつ劔のひかりいさきよき國はわかくに日のもとつくに
國の爲功のこせしますらをのおひしつるきはまことにかみなれ
つるきたちたれ緒なかくもおたやかに鞘にをさむる時祝ははや
神隨つたへきませるみつるきにわか日のもとのひかりをそしる
三千年のつたはる神のみはかしをみ國のたけきこころとそする
ますらをの眞心こもるつむかりのひかりや國のひかりなるらむ

山中金三郎　稲垣安信　久喜機圓　三輪惠津　吉田新三郎　糟谷常子　瀧本和三郎　若尾静子　長谷川松次郎　野々山正秋　野々山正彦　鰐部甚左衛門　森岡新太郎　海田五百都　山内兼行　生田龍成

しこ草をなきしみつるき千代かけて人のこころにひかり輝やく　生田波枝
遠つ祖のいさをの太刀をぬき放ち一さし舞ふてかと出ことほく　丹羽和喜太郎
みつるきの光とともにかかやかむあつ田の宮は千代に八千代に　脇田豊秋
勝いくさ強くまもれるみつるきのみたまに寄る今日のみまつり　加納綱次郎
いはひまつるいつのみつるき尊としや草薙ましし神をしぬふも　鶴田政
みつるきを神とあかめてまつれるはわか日のもとの姿なりけり　後藤善平
征く士夫も見送るひともおしなへてつるきの光あふくかしこさ　夏目喜平
尾張の國熱田のみやにしつもれるつるきのひかり天つちにみつ　花井芳住
みつるきのみいつは代よにあまねきて幾歳までもひかり有らむ　佐々木亨
事しあらは國のみ楯といさをたて神代なからのみつるきたふと　菅沼豊
かしこくも神といつけるみつるきの光そみよのひかりなりける　小川傳兵衛
大君の御代をまもりのみつるきのかかやく影をあふくうれしさ　倉橋すゞ
神代から國のたからのみつるきをいはふ皇紀のあきそかしこき　水野芳次郎
皇國の永久のまもりそたか倉下とりつきましうつのみつるき　安田滿壽郎
古の神のみたまといまもあふかれてたふとかりけり草なきの劍　伊藤阿易
ぬきはなつ劍のひかりかかやきてたけきちからに國さかえけり　手塚賢文

皇軍のすすむ上にそいちしるきしこくさなきのいつの太刀かせ　安田辰雄
いくさ人かさすつるきのひかりこそやかても國の光りなりけれ　森勇三
よろつ代にみいつも高きむら雲のつるきのひかり四方に輝やく　加藤れい子
新羅人ぬすみかねたるくさなきのつるきのみいつ海もとろに　久野廣成
楓樹はやけしつるきのひかりより熱田の御名そかかやきわたる　久野櫻子
桑の樹はかかやきぬらしみはかしのつるきのひかり寢殿照して　久野稔子
大亞細亞なこめむためにつるき太刀さやを拂ひしみよの尊とさ　久野耐子
神かけてきたえし腕のきれあちをよにこそ示せ日のもとの太刀　江端信次郎
み光に仇くもたたに散りうせむつるきのみいつたたえいははむ　坂野豊作
家の子か黒木造のつるきもてくにのまもりといくさのことしつ　伊藤福吉
事ありていよよ輝やくみつるきのみいつのひかり限りしられす　佐久間かな
つきくすす敵はいくまん武士のこしのつるきはくもらさりけり　柴山泰治
八紘の國のさかえをみつるきはかみのまもりてよよのはてまて　野田謙次郎
なひかさる草はあらしとおもふかな大みつるきのたち風の下に　久野保心
征くわ子に花とちれかし波たちしいさをたてよとはな向の太刀　新海若丸
日の本の國のたからのくさなきのつるきのひかり世にそ輝やく　藤田ゆう子

大神のみたましろなるみつるきの高きみいつをほきたてまつる　太田藤吉
國津民いよいよあふけみつるきのひかり彌ますみよとなりにき　杉浦春吉
かきりなく世にそ輝やく草薙のつるきしつまるみやのたふとさ　原伊三郎
海の外に仇あらさらめ益良夫かみくにのためとなきる太刀こそ　林美智子
いくたひも仇なきふせしみつるきの光やくにのひかりなるらむ　玉井俊尾
みつるきの神の祐にいくさひといさををたつる日のもとのくに　山田ゼく子
功あるつるき奉してかむみやのみよのたからとなすかうれしさ　原守國
ももちちの仇はありとも御劔のまもりてませはなとかひるまむ　松本子郎
兵士のをふるつるきにおほみいつかかやき渡るもろこしのはら　蟹江定正
みつるきの醜草はらふみいつこそいまもむかしも變らさりけれ　蟹江はん
肇國のみことかしこみまつろはぬくにをしつめの大和みつるき　伊藤茂治
くさなきて賊平けしみつるきの威德のいやさかいはふみよかな　江本半助
草薙の神のみつるきよろつ世にくにのまもりといつくたみくさ　武田仁穂
とこしへにはえこそまされみくにもる神の劔のたかきみいつは　山田桂逸
日の本のますら武夫のいさをこそつるきの如くかかやきにけれ　堀尾翠月
みつるきの德をあふきて人みなもみやの熱田にいはふ今朝かな　鬼頭道弘

くさなきてしこ亡せしみつるきは國のはしめのみよのみたから　榊原喜久惠
戰ひのにはにふるへるみつるきに神代なからの血しほなかるる　加藤益男
たたならぬ世のしこ草をなきたふす大和男子のつるきするとし　阪野守言
日の本のしつめとなりてくさなきのかみのみ劔さひんよそなき　野口鎮
君か代は榊にかくるみつるきのよろつ代かけてなにかくもらむ　林貞一
しこくさはなきはらはれてさやかなりかむや劔のみいつ輝やき　原成之
みつるきの大みひかりを力にてあたにむかはむたみなかりけり　杉浦文太郎
うけつける神のたからのみ劔のくもらぬくにを千代といははむ　前田ます
みつるきの二千六百年をかかやきて我大御代のたみまもります　鈴木平兵衛
兵士のいのちまもりしひとふりのつるきは神とあふかれにけり　岩田不二夫
みつるきをみやにをさめて勝軍まつこそいはへおほきみのため　森紋逸
かしこくもみ劔の宮をいはふかなゆたかに稔るあきのまつりに　田中菅二
おとろきの目をはみはりて祝ふ哉つるきにこもる大和こころを　長谷川豊吉
神代より國のたからとあふきたるみいつたふときみつるきの德　白木儀三郎
畏こくもしつまり給ふみつるきはまことの武士のきもに宿らむ　八木德三郎
天地と共にさかゆくおほみよのまもりとあふくかみのみつるき　井上篤治郎

大御代のみいつとともにかかやくは神代なからのむら雲の太刀
よよをへて國のひかりをますかかみ共にたふとき神のみつるき
日の本の國のさかえをいはふかなおほみつるきの神にまうてて
いさをあるいへに傳はるみつるきを興亞の春にいはひまつりぬ
大神のはきてしこくさ拂ひまししこれのみつるき國のみたから
くさなきの神みつるきのみひかりに靡かぬ仇はあらしとそ思ふ
ますらをの眞心こめてたたかひにつるきのいさをかみに祝はむ
み劒のみやゐしつかにひひきけりことほき告る八ひら手のおと
ひのもとのつるきまつりしみやしろに巫子は待をり今日の祭を
いくそたひ敵を切れとも君の爲うちふる太刀は刃こほれもせす
もゆる火のほにきたへたる劒こそすめらみ國のたからなりけり
世の中に一つよりなきみつるきはあつ田の宮にしつまりたまふ
みつるきのみいつ知られてもゆる火に小野の醜草跡かたもなし
世よをへてつゆくもりなきみつるきの吾日の本を守るたふとき
しこなきて平けませしみつるきをまつる宮居そたふとかりける
みつるきの神のいふきにみいくさの勝を常なるみよそめてたき

服部よし　尾關巖　林長三郎　竹内喜章　村上幹　富田とみ枝
加藤一太郎　戸島平左衛門　江端榮一　中野勘吉　家田葉那子
永田桂次郎　山村市藏　淺井健次　齋木密雄　三輪野美好

輝けるつるきのみいつ祝ひつつあつたのみやによするうたこゑ
日の御子のくさなきしてふみつるきは神の御寶くにをしつめの
君か代を千代とことほく宮はしら國をしつめのかみのみつるき
草をかみ征くつはものに幸あれとつるきの前にひれ伏しをかむ
神代よりつたはる伊都のみつるきを熱田の宮にあふくかしこさ
ますらをか研きし劒のををしさはことある時そあらはれにける
くさなきのつるきの光とこしへに曇らぬみよそめてたかりける
みつるきのはなつ光をちはやふる神のみたまとあふくくにたみ
ためしなみ國の光そあふかれて四方にかかやくかみのみつるき
神代よりかしこかれともみつるきは熱田の宮にしつまりましぬ
雨をよひ風を起ししみしるしもかたりつたはるかみのみつるき
神代より國のしつめのみつるきは幾世かはらすたかきみやゐに
きみか代はみいつと共に輝やきてちよ守りますかみのみつるき
あさつく日まはゆく千木に照り映えて泰國守る八つるきのみや
年ふりてみいつと共に輝やきぬめくみあつたのかみのみつるき
雲見山神とましますみつるきのひかりかかやく日のもとのくに

森長松風　水野一郎治　河津鋌造　千賀文男　青山予音
早川忠三郎　坂井田順一　伊藤捻十　那須金三郎　生田種子
岡田石嶺　吉川翠溪　龜井市治　吉川富士　川村熊吉
河村八重

みたからのつるきまつれる大宮のみいつは高く四方にかかやく
たたかへる身の楯とならむみつるきは日本の國の守りなりけり
かみ代より神のみ末のいまのよも守りさきはふみつるきたふと
はこほれにいさを飾りてもののふか家のたからとかさる太刀哉
たたかひにみまもりうけし喜ひのゐやにつるきを宮にをさめぬ
いくはくの仇やきりけむ大太刀ははこほれ多しくもりみえねと
醜草をたたひとなきになきはらひきれ味みせぬ日ほんかたなは
みつるきの尊ときひかりいやまして御典の秋をいはふもろひと
君か代はいやかかやかむちはやふる神代のまままのみつるきの如
ものふのたましひとこそ知られけれ皇らみくにに光つるきは
大君のみいつかしこしみたからのつるきと共にひかりかかやく
あふかさる人やなからむかしこくも神のみつるきたへ奉りて
御社にしつまりませるくさなきのつるきのひかり四方に輝やく
さやぬけは燒刄にほひてみつるきの夏尙さむきこころこそすれ
大神にさつけ給ひしみつるきのみいつかかやくみよそたふとき
醜草を薙き拂ひけるみつるきのみいつかかやくもろこしのはら

岩井寛榮　舟橋節子　鈴木勝尋　鈴木ちゑ　横井初雪　岡田曉雲　鬼頭庸晃　赤尾東馬　戸谷千代子　沼田宇三郎　安田睦彦　山田末吉　山田まゑ　森川菊太郎　瀧澤靖方　坂　正裕

皇軍の日本男の子の太刀かせにからのゑみしもなひきふしけむ
榊葉の枝にかけたるみつるきのにしきのふくろをかむたふとさ
みやしろにつるき一振をさめけりいくさかへりの片身にはして
つはものかいくさの場のはたらきを刄こほれしたる劒にそしる
神寶をさまるくらのみつるきはひとふりことにいはれめてたし
よき年の今日こそ祝へわかかつてはきしこのたち神にささけて
父上のいくさにおひしこのかたな家のたからとあふきまつらん
つるき太刀心にはきてつかのまもみよのめくみは忘れさらまし
日の本のくもらぬひかりあふくかな大和たましひ籠るつるきに
くさなきのかしこし神のみつるきのみいつになひく天か下かも
みつるきの光は四方にかかやきていよよ榮ゆくおほやしまくに
みつるきのひかりあふきて益良夫はしこ草の根も打たやすらん
御光はくにのたからとかかやけりあつ田の宮にまつるみつるき
細戈千たるのくにのいさをしはあまつみつるきの守りなりけり
みつるきのひかりはいよよ輝やきつ祝へたみ草かみのまもりを
みつるきのまことのとくにあしあひと夢よりさむる旭かけかな

佐々木和彦　松本美代子　二村菊左衛門　岩田萩四郎　木村千足　宮崎多一　近藤寛園　岩田奇石　丹羽藤江　大村　力　小西和子　加藤もと　成田祖芳　筧　清澄　筧　千代野　岩崎猶金

奥深くかみのましますつるきみやに祈りは盡ぬあさなゆうなに
草薙きて蝦夷たひらけしみつるきのみこころなからいま戰へる
弓矢守るめくみあつ田のみやはしら御劒のとくかかやきにけり
くもりなき神のつるきのみひかりに變らぬみよを仰くかしこさ
日の本のちとせうこかぬしるしなりここにいまします神の御劒
神苑はいやひろこりてみつるきのひかりも更にそふここちする
日の本のくにのひかりもいやちこの劒のみいつたふとかりけり
唐國のしこくさなきしつるき太刀さやにをさまる時そきむかふ
國思ふつるきのいさをますらをもきたへし人もかはらさりけり
さやはしる正義のつるき朝日うけて天地ともにはゆるもろこし
熱田の宮いつきまつれるみつるきは國を鎮めのいしすゑにして
正しきをまもりたまふるみつるきの神のみいつそ千代に輝やく
戰へは勝つそめてたきくさなきのおほみつるきの奇しき稜威に
皇國のまもりとなりてかかやくは熱田のみやのみつるきにして
つはものの まもりとなりて永久にみいつ輝やくみつるきのみや
草をなき雲をおこししみつるきのみいつあまねしうみの内外に

熊田照子　坪井律三　加藤憲三　大山成昭　成田長裕　山田安兵衛　山田眞太郎　池口安子　岩田千枝子　細川幹　茶谷千代　泉賢次郎　鈴木和磨　雨宮ちとせ　雨宮信子　福田つる

みつるきの光はいよいよさわやかにかかやき渡る四方のくにくに
日の本のくにのしつめといつきます熱田の宮のつるきたふとき
くさなきのつるきのみいつかしこくも醜こと向けて國守ります
敵伏せてあふくつるきのやきはにそみいつの光かかやけるかな
みつるきの光ととかぬはてもなしいくさの場はましにませとも
大神のみたまとあふくみつるきのいつのひかりを祝ふくにたみ
代よつたふ劒をはきてつはものに召されゆく子を祝ふよき日や
大神のみいつこもりてとこしへに國のしつめとなれるみつるき
とこしへにすめらみ國を守りますあつたの宮のみつるき尊とし
皇御子かくさなきまししむかしより劒のみいついやちこにして
わさはひをかもす醜草なきたふすつるきは國のたからなるらん
とこしへにすめらみ神のつるきこそおさめ榮ゆるしるし成らむ
みいくさはいよいよはけしまうて來て光仰かむみつるきのみや
國のため仇なすやつこうちはらひ世をしつめますみつるきの德
やき太刀の光にあたもやはらきて千代に榮ゆくおほやしまくに
神代よりいはひ奉りしつむかりのつるきのみいつ畏こかりける

福田よし子　久野婦久　磯部德丸　戸島武夫　伊藤兼義　今津そう　北川孝造　淺井通政　吉田千町　野々目雅弘　服部芳泉　野々山松次　石垣玄やう子　多和田住太郎　林蘆堂　朝見正臣

これの宮にいつきまつれる神劍のひかりそ國のひかりなりける
皇軍にまつろはせむとみつるきの大御威とくにすかるたみくさ
みいくさへ出て征く人にはなむけん劍はいへのたからなれとも
いさをたてかへりし友の太刀みれは仇の血しほになかは曇れる
神代よりたからなりけり日の本のひかりと仰くいつのみつるき
かみよよりくにの寶とあふくかなめくみ熱田のみやのつるきは
いやちこのみつるきまつる大前につとひて祝ふ二千六百年の秋
久方の天の十つかのつるきかせしこのしこくさ根こしふくらむ
大みいつかしこかりけり都牟刈のかみのみつるき都牟刈の太刀
きたへたるつるきの光とつくにに輝やくいまのはえをこそ祝へ
しこくさをなき拂ひてしみつるきはことある如にいよよ輝やく
こほれたる双にもいさをのしのはるる益良猛男の佩きし都牟刈
征く人も征かさる人もたのみなり國のまもりのみつるきのかみ
國民は一つこころをみつるきにこめてまもらむきみのおほみよ
魔を拂ふ神のみつるきしつまりてすめらみ國はいやさかえゆく
をす國のまもりとなりてとことはにしつまりますか御劍のかみ

岡田源重　岡本多藏　加藤宇一　廣瀬元猷　鈴木ゆう　廣岡よね　小幡敏子　水野蓬雨　水野千代子　青木錄次郎　森本ちゐ子　齋木りゆう　白井喜一　木村市太郎　加藤弘太郎　戸田正一

とほつ祖ゆつたはるつるき身にはきて君のみ楯と出てたてる我
大神のはかせましたるみつるきのくしきいさををあふくけふ哉
兵士の大和こころとみかかるるつるきはくにのほこりなりけり
外革はたまにきつけとみつるきはほまれをひめて曇りたになし
みつるきを祝ひまつらむ神居ますみにはに松のさかえあふきて
くさなきの神みつるきの大みいついよいよ高くあふかるるかな
ちはやふる神の佩かししみつるきは千代も輝やくくにの内外に
かしこくもたかきみいつを仰くかな熱田の宮のかみのみつるき
勝いくさきく度毎にみつるきのたかきみいつのあふかるるかな
みつるきのみいつはいよよあらはれて海の外までひかり輝やく
さやはしりしこくさなきて御劍のおさまるみよをかねて祝はん
しこくさをなき拂ひてそ唐土にやまとかたなのいさをたてませ
神寶おほきかうちにみやしろのみたましろなるつるきたふとし
すすみゆけすめらみくさの益良夫は大和かたなにたましひ籠て
たちさはく波をしつめしみつるきは我日の本のたからなりけり
かりこものみたれをきりて劍太刀さやかに進むみよそたのしき

回春堂　繁　三輪信清　宮田春子　杉村みさを　水野重行　川本なを子　館野正　岡本千代子　杉浦守之　佐藤鉦之助　菊池亮三郎　鬼頭又衛　鬼頭冨美子　鬼頭千賀子　木村廣吉　鳥山吉次

みつるきのしつまり給ふ大前にいやさかえゆくよをいはふなり
召れたる友へわか家につたはれる祝ひてをくるこのつるきかな
草なきの劔のひかりいまさらにてりかかやきぬきみかおほみ代
たくひなき國の光もかかやかむいつくつるきのまさむかきりは

長くもあつ田のみやにしつまりて國まもりますかみのみつるき
なき伏せし御劔の加護かしこみて佩き征く太刀をいはひ念しつ
劔太刀み佩ひろらにうちきため御代うらやすとほきまつるかな
神代より世よにつたへてすへらきのみくにを守る草なきのたち
國のためいのち惜しまぬ益良夫かかさすつるきに月はさえたり
益良夫のつるきたふとく見ゆる哉大き亞細亞の成らんこのとき
武士のほまれをのこすいさをこそみかくつるきの光りなりけり
唐くにのはてのはてまてうちふるふわかむこかねの劔めてたし
御つるきのいはれたふとしもろこしの醜の醜草なきやはらはむ
日の本の猛夫のこころたとふれは研き上けたるつるきともかな
醜なきて四方をしつめのたちつるきくにの千年と共にことほく

静岡縣

正七位勲六等 高須房吉
勲七等 都築吉藏
勲八等 佐久間俊廣
勲八等 青島傳三郎
土屋武夫
加茂義雄
三田久太郎
澤木久吉
藤田光吉
坂下茂八郎
須山孝子
篠瀬德松
服部初司
中江豊造
田島博道

久しきにわたるいくさもつるきたちさやに收めて共に祝かなん
大みやにいつきまつれるみつるきは國を守りのたからなりけり
かみいます熱田のみやのみつるきはくにのしつめの寶なりけり
日の本のおほみたからと仰かれてつるきたふとしあつ田の宮は
しこ草をはらひましけんみ劔もとはにおさまるみよそ目出たき
すめかみのまかをふせきしみつるきは國をもとはに守給ふらむ

山梨縣

勲八等 青柳鳳作
數野惣吉
守家啓作
高原一道
石川俤都
鎮目一男
赤尾梅宇
赤尾小三郎
窪田八代子
桔川順波
五十嵐直喜
加茂のぶ
加茂ゐん
德永壽々
金原加茂平

おのつから草薙きはらひくもなひくみつるきまもる世を祝ふ哉
つつよりもあたのをそるる日本のつるきそ國のたからなりける
召されゆく吾子のかとてをいはふかな家につたはる劔はかして
草薙のいつのつるきのみひかりはやまとをの子のみたまと輝く
神にますそのみつるきのまもりにてやまと心はゆるまさりけり
四方八方にその名はたかく轟きぬわか燒たちの刄さきするとく
きたへたる人の名もなきつるきすらことある世には光かかやく
世のちりにそまぬを神のこころとやみまへの劔とはにかかやく
すめかみの代よにつたへて畏こしなあつたの宮の天のみつるき

かふとさへきることときも血をみすて仇退そくる大和みつるき
吾か脊子をいくさのにはにまもりてし劒そ家のたからなりけり
日の皇子につたへつたへてかみ代よりさひぬ劒の光りたふとき
くさなきのみつるきまつる大前に國のいやさかいはひとそ祈る

滋賀縣

竹内爲三郎　塚田良作　久保國光　中川玄隆

しこ草をたほさて活かすつるきこそ我日の本のほこりなりけれ
もののふの思ひやとほる一筋にはけるつるきのするときかこと
御劒のみいつはいよよかかやきてなひかぬ國はあらしとそ思ふ
神代より國をまもらすみつるきのひかりまさしき君かみよかな
皇國のひかりと共にかかやくはあつ田のみやのかみのみつるき
醜草をなきたふしたるつるきこそみ國をまもるたからなりけれ
たくひなき國のたからと仰くかな千代に輝やくかみのみつるき
よこしまの道にしけれるしこ草をなきしつるきを仰くめてたさ
千早ふる神代からなるみつるきの御稜威は今そ世にしられけり
あた雲もつるきの風にはらはれて波しつかなり御代のうなはら
ちはやふる神世つたへていまもなほ國のしつめの大和みつるき

（従四位 功四級 五等位）佐々高裕　（従六位 勲六等）平田昱雄　（従六位 勲六等）岩谷良藏　大口善音　中村晴子　水本光寛　山本富子　佐々直枝　嶋村金治　平木幸　西川長三郎

岐阜縣

みつるきの光りはよよにかかやきてみいつかしこきかみの御社
とことはにかかやきわたる草薙のつるきの光り世にたくひなき
すめ國はつるきのひかりいかめしく御稜威とともに千代も輝く
もののふのはけるつるきの太刀風に向ふ敵なきかみよかな
國擧げていはひまつらむなきはらふ世の醜草をたつみつるきと
みいくさにあたをなきたるつはものの劒は神といつきまつらむ
みつるきの光とともにおほきみのみいつやます時はこのとき
わ子のはきしつるきかさりて靖國の宮に鎮まる日をいはふかな
たくひなき國の光はみえにけりとはにくもらぬかみのみつるき
あら波もよれはつるきの露とちり門出をいはふこころなりける
まつりますしこくさなきのみつるきはすめらみ國の御寶にして
仇の野はなひき伏すらん草薙のつるきのみいつとこしへにして
みはかしのつるきのやきはさやかにも國のみいつそ輝きにける
かしこきや燒津の原のおほみいつ今もかかやくかみのみつるき
生ひ出てしうまこの幸をいはふかなつるきの宮にはつ詣てして

（従五位 勲五等）柏木龜藏　（従六位）福手喜之助　（正七位 勲八等）富田豐彦　（正七位 勲八等）岩井健之丞　（従七位 勲七等）杉原秋之助　（従七位 勲八等）大河内三郎　（従七位 勲八等）尾藤段四郎　（従七位 勲八等）藤掛治郎吉　（従七位）平光季松　（勲八等 功七級）赤堀鍵二　（勲七等）戸田水脉三郎　（勲七等）深川淳一　（勲七等）谷口兵吉　（勲八等）粟田嚴穗　（勲八等）仁科宮之丞

醜草をなきはらひたるみつるきのひかりは四方のうみ照すらん　勳八等　先山金八

ぬきはなす我たちかせに大き陸の草みななひくみよにさりける　勳八等　岩井半助

すめみおやつたへたまひし神つるき年ふるままに光りいやます　勳八等　乾常次郎

みつるきのひかりをうけてうれしくも礎かたきやまとくにはら　墨賴太郎

大御代のさかえおもへはみつるきの神の守りとあふきことほく　矢野寅三郎

事あれはことあることに我くにのつるきのひかりいよよ輝やく　吉見門也

みたまなるつるきのひかりかかやきて國の榮のいやまさりゆく　關壽太郎

みつるきをかみとまつりし大宮のなかき榮えをみよにたくへむ　大野勝一

遠つ祖のみたまのこもる太刀はきていて征く猛夫神やまもらむ　伏見源次郎

みつるきは神代なからのうつたから代よの帝のまもりなりけり　高木萬治郎

みつるきのかみのみいつは益良夫のとる太刀ことに輝きわたる　高橋一隆

天の下ひかりわたらぬくまもなしみいつことほく神のつるきは　山田孝一

すめらきのつたへたまへるみつるきを心ひとつに祝ふたみかな　勝見有義

しこめける國の内外にくさなきの大きつるきやふるひますらむ　馬場淺次郎

つるきたちはかぬ我身もあさゆふにさやに納るみよをいのらむ　稻垣鴻仙

打ちはらふ光りするときみつるきのぬかて守となるそたふとき　山本正治郎

武夫のいたたきもてるみたまをは太刀にもこめてふるひ戰かふ　縣秀滿

みたまをはこめていなせる燒太刀にかみの力もそふるなりけり　鹽谷滿

つるき太刀かみのみよよりつたはりて今も輝くおほやしまくに　鹽谷雲州

神寶みくさのうちのひとくさのつるきのみいつはふとしかな　伏見武次

たまこめてたくみきたへしみつるきを神の寶とささけことほく　伏見すみ

國の爲いさををたてしますらをの用ひしつるきたからなりけり　堤武雄

外國にかかやきわたるつるきたち祝ふはたみのまもりなりけり　今井源九郎

くにたつるつるきを祝ふたいりくに國威ひらめく日本たましひ　三川角次郎

いやさかの日の本聖しみつるきのたかきひかりに幾千代までも　岩佐郁子

劒太刀ときてみかきてもののふのかへり見はせぬみよそ尊とき　柏淵需

もののふの魂のつるきのかかやきになひけとそ思ふ支那の國人　井倉志穿子

ならひなき國のたからとここしへに仰きてまつる神のみつるき　加藤文久

武士のこしにはきたるつるきたち事あることにひかりそふなり　小栗盛

友ともの思ふことのはを寄せられてみつるき祝ふ神かきのうち　林道助

名のたかき大宮しろにともものきてたふときつるき祝ひ初めかな　林喜代

ちはやふる熱田の神にまつられしたふときつるき祝ふひろまへ　林淳一

草薙のたふときつるきおさめしてあつ田の神もことほきにけん
日の本の國のさかえはちはやふる神のつるきのつよくたふとし
御社にしつまりましししみつるきのとはに守らんきみか代のくに
神世よりつたへまつれるみつるきの光そふらんやまとますら夫
たたかひにいさをくらへしつるき太刀燈火あけて床に立ておく
千早振神のみいつのかかやけるたちのひかりをあふくみよかな
大神のいつこそにほへかちすすむやまと武夫のかさすつるきに
ちはやふる神のみつるき今の世は燒津の野邊にかきらさりけり
すめらきの熱田の宮にしつまりしみいつかしこきみつるきの神
唐草もなひきふすらむやまとたまこめてきたへし太刀の光りに
みつるきをまつるたふとき大宮にうたを捧けてまつりいはひぬ
みつるきをまつり給へるこのみやにすめらみ國の榮えいははん
外國につるきはあれと日の本のつるきにまさるつるきなからむ
劒太刀さやにをさめていやかたくむつみかはして暮す日そまつ
すすみ行く世を祝ふなり日のもとのつるきの光かかやかしつつ
召さるたひ佩きしつるきにわか家のさひぬ光の添ふそめてたき

寺澤幸太郎　永井右平　大島銀五郎　肥田ひで　鈴村岸郎　古川[illegible]江　土屋悅造　岩井健次郎　塚本太吉　菅谷とし子　石原龜三郎　井上靜高　安藤金市　神田鉄藏　松田治一　三谷元一

我家のたからとひめしつるきをは吾子に佩する今日そめてたき
雲見山かみとしつまるみつるきのみいつついよいよ仰かるる世や
あらかひのつるきはとらしみおやより遠く傳へて曇りなきよに
まつろはぬものなかりけり天降ますふつの靈のつるきたちはや
廣前にあふくもかしこひのもとをまもらせ給ふかみのみつるき
神代よりたけきみたまのこもるてふ太刀こそ國の守りなりけれ
安らけく皇國は伸ひむかみにます大みつるきのいかしみいつに
くなたふれ仇もなさけのつるきには矛うち伏てしたひよるなり
仰かむもいかしかしこし草なきのみいさを高きかみのみつるき
益良夫のこころにはけるつるきこそくにのたからの寶なりけれ
敷島のやまとたましひ打ちこめしつるきは國のまもりなりけり
今もなほ關のかぬちのうつ太刀のひかりは國のひかりなりけり
世をすふる力いみしきみつるきのいつのひかりそ尊とかりける
みつるきに寄るたたかひのををしさは國の譽といはふもろひと
みたからの一つなりけりよろつよの國のしつめと仰くみつるき
みつるきは神のたからとをさめてもさやをはらへは光するとし

三谷くら　淺井高信　宇野喜登　片桐景好　中村菊枝　井深ゆた　有賀保市　松浦潮　寺澤茂市　堀莞翁　三輪勝四郎　三輪豊郎　三輪まさ　兒玉義憲　五島三樹　五島智佐子

君のためいのち惜しまぬ武夫の太刀にはたまもかひなかるらむ
神寶たかくきこえしくさなきの名こそかしこきつるきなりけれ
もののふの荒魂そとたたへけるつるきはみよのひかりなりけり
みつるきを神にをさめつみいかりをときてや祝ふ世も近からし
よろこひの色は熱田のもりにみち祝ふつるきのかみのやえかき
みつるきをかみにまつりし古のわかくにふりのゆかしかりけり
いつきまつるみつるきのこと君か代は常磐堅磐にみいつ輝よふ
あれしこにつるきおくりて皇國の干城となれといはふけふかな
上代よりやまとこころのみつるきを神とあかめてここに祀りぬ
くもみ山神としつまるつるきにはすめら御祖のみたまこもれり
にきたまのこもるつるきは自らともとなるくにまもりゆくらむ
大和魂こめてきたへし利つるきに國のひかりはかかやきにけり
天の下すふるわれらのとりはきし太刀になひかぬ仇ひとそなき
勝軍きこえあけむとまうて來るますらたけ夫のつるきかかやく
大めくみあつ田のみやに鎮めますつるきは神のみひかりにして
天地のかみのさきはふみつるきは國のまもりのたからなりけり

西尾健市　林丑之助　坂倉松濤　山田三秋　高木勝一　武山桂一　石田敏信　石田枝南子　伊藤隆造　菱田重直　中村和夫　篠田耕堂　塚本清　脇田有年　鳥居行空　野田勘右衛門

好きな者寄りあつまりていかめしく劒かさりてたまいはふなり
葦原の國をしつめのみつるきにむかふあたなしみいつおそれて
いにしへも今もかはらぬみつるきの光たふときかみのみよかな
たたかひの庭にひらめく軍刀のひかりたふときしもの夜のつき
つるき太刀ひかりいやます日の本のみいつやどはに照渡るらん
くもりたる心も晴れてすかすかしきたへたへなる太刀に向へは
武夫をひきしたかへてつるきたち事あることによをまもるかな
草薙しかみのつるきは日のもとの國をしつめのたからなりけり
いにしへのふみやたふとしかこしみて輝やく御劒ことほき奉る
武士かとりはくつるきとことはにくもりなきこそ尊とかりけれ
すめくにをまもるつるきのみひかりに外國迄もなひく御代かな
君か代は八千代といのるあつ田なる宮のみつるきいとも畏こし
いにしへゆ我たたかひにほこれるは利きみつるきの力なりけり
むかふ仇みなきりふせしこのつるきいへの寶とつたふめてたさ
しこくさは刈りつくされてみつるきの影も曇らぬよをそ祝へる
つつしみて高くあふかむ雲見山しつまりいますみつるきたふと

伏見利吉　武藤友三郎　安田慶子　大野喜平　日野智運　平田平市郎　森長光夫　加藤定正　堀江太門　中村英夫　服部定之助　服部壽久　水野森吉　横田萬峰　安部清雄　水野時四郎

尊とくもたふとかりけり熱田なるみやにまつれる神のみつるき
大君のみいつとともにみつるきのひかりいやます大和くにはら
益良夫のとりはくつるきくもりなく輝きまさる御代そめてたき
國まもる神ともなりていにしへのつるきは千代に輝やきにけり
咲きにほふ大和をのこの和魂のこりてつるきとなりにけるかな
いにしへのゆかりたふときみつるきは皇御國のたからなりけり
あたなきしつるきやたふと恐こくも熱田の宮のかみとあふきて
ゆかりある熱田のみやのみつるきに榮えしみよの祝ひささけて
しこくさをなき拂ひたるみたからの劔やくにのひかりなりけり
雲見山おほみつるきのくもりなき御代の光りは千代に八千代に
うへなりとみよの光のかかやきを研き澄したるつるきにそ知る
しき島の歌をあつめてくにたみのけふを祝へりみつるきのもと

長野縣

取り佩かていつきまつれる寶劔のひかりあまねき君か御代かな
大和男のすさみ魂なるみつるきのひかりかはらぬ世こそ安けれ
くさなきのゆかりも深きみつるきを祝ひまつりぬ神のみまへに

渡邊直子
小池繁太郎
蘆田たゑ
松原八登
廣瀬彰巳
坂井文三
岩佐久子
佐藤友次郎
鈴木正俊
今井利一
淺野敬芳
田中紋七

從五位勳四等 飯沼準一郎
正八位勳七等 富岡守造
勳七等 日野守人

匂よくするとく折れすたわまさるつるきはみよのすかた成けり
みつるきのやきはにこりし霜のこと清くいかしき國はわかくに
ゆるひたる民のこころをひきおこすつるきは國の守りなりけり
くにまもるいつのつるきをとりはきてみよはいよいよ光輝やく
すめくにをおかす仇なし永久にかみのみつるきみよをもらせは
西東しつめしかみのみつるきはみいついやますきみかみよかな
村雲をきりはらひたるみつるきのひかりは永く世をてらすらむ
すめみ子の身をまもりたるみつるきを祝ひ奉れり國のしつめと
都牟賀利のつるきをいつくみやはしら動きなき世の鎮とそ仰く
み軍に吾子かかとてをいはふかな家のたからのつるきさつけて
父上か支那いてたちのかたみにと吾家にのこるつるきひとふり
かみくにのかみのうつはとまつられる草薙の劔たふとかりけり
かしこきや熱田のみやのみつるきの光はくにのひかりなりけり
神代よりつたへつたはるつるきには世にたくひなき魂そ宿れる
神世よりつたへられたるみつるきの光かかやくときにあひつつ
たふとしやしつまりませるみつるきは國の光のもとゐなりけり

勳八等 佐々木浩一
勳八等 槇石武五郎
勳八等 上田海三郎
青木大亮
坂下作雄
馬場悅堂
池上久太郎
千葉田六郎
佐藤源吾
丸山宇門
大川學治
大川三都留
中澤善市
上島良作
川手賢十
高木すま

四方の國そきたつかきりみつるきのにえは匂はむみいつ遍ねく
出征のかと出をいはふ親こころたまふつるきにこころふるひぬ
草薙て仇をふせきしみつるきはくにのしつめのたからなりけり
かしこくも草薙まししみつるきは熱田のみやのしつめなりけり
いかしくもつるきの宮のみつるきのとはに曇らぬみよそ畏こき
名もたかき塚よりいてしみつるきを神にそなへていはふけふ哉

宮城縣

野林庵守
德永不言
宮坂與平
濱龜吉
望月照司
山岸忠主
齋藤藏之助（正七位勲五等）
笠原良保（正六位勲五等）
宮城左橘（勲八等）
畠中正作
曾根正一郎
金大吉
三迫俊祐
千葉柳吉
熊谷賀平

勝軍つつく四とせをいはふかなぬきしつるきをそのままにして
日の本の寶なりけりたふとくもやまとたましひこもるつるきは
つるきたちさやにをさめて日の本の光あまねきときそまたるる
みつるきの光りと共にしきしまのさかえ行く世を猶いはふなり
草薙のつるきやひかりそひつらむわか日の本のくにのみいつに
大和魂こもるつるきのたふとしやたちすち薫るみいくさのあと
國のため君のためとてもののふかおふるつるきを祝ふけふかな
皇軍のむかふ國には野もやまもつるきのひかりひらめきわたる
大宮にしつまり給ふみつるきのひかりは代代のみいつなるらむ
くさなきのみたちのひかり輝やきて四方の仇草根をやたつらん
皇國のみいつとともにみつるきのひかりいやます代を祝ふかな
大宮のみやのみはしらみつるきのみひかり永久に仰きまつらむ
すめくにの千代のしつめと仰く哉ひかりたふときみつるきの宮
くさなきのつるき守るらんあた人の從ひくたるときそちかけれ

福島縣

庵原壽賀
加藤東助
佐藤味之助
菅野圓藏
佐藤民助
秋月次三（勲八等）
秋月まし子
金澤六郎

焼太刀のもろはにくまのあらされは我日の本はひかりさやけし
とほつおやのはきしと傳ふ一ふりのつるきそいへの寶なりける
くさなきの神のまもれるみいくさの太刀風烈しもろこしの野邊
みつるきをまつるあつ田のおほ神のみいつになひく四方の國國
まつろはぬ國こそなけれ荒みたまこもるつるきのみいつ稱へて
みつるきの神にいのらむあめかした覆ひて宇となしたまふよを
皇國のひかり見えけりもののふのやまとこころの宿るつるきに
つるきもて八またのをろちきりふせて神のみ劒護らむとすらむ
草薙のつるきのかせに千代八千代なひき伏すらむ醜のしこくさ

岩手縣

齋藤松次郎（正七位勲七等）
石川敏藏（從七位勲七等）
河田千代子
新沼競
伊藤六郎
辛島小四郎

遠つ代にうけてきませるつるきこそ動かぬ國のまもりなりけれ　佐々木富藏

よこしまをはらひきためて正しきを守るつるきの色のするとさ　大友忠太

たましひを神にまつりしみつるきは國の守りとなかくさかゆる　細谷勇吉

いはをきるやまと劍にもろこしのかれし八千草よみかへりゆく　新沼三郎

このつるき家につたへてとり佩きし吾子か勳のしるしにはせむ　佐藤幸八

日の本の三つのたからのひとつなる劍はくにのまもりなりけり　宮城隆規

しこくさを打ち拂ひたるくさなきのつるきはくにの寶にはして　宮城隆峻

醜草の生ゆるひまなしおほやしまたからのつるきあらむ限りは　宮城はし免

彈丸つきてきりこむやかてみ軍のつるきより湧くかちときの聲　新沼勇

いささかの曇たになきつるきこそ輝やくみよのすかたなりけれ　新沼みちえ

事しあれと熱田のみやのみつるきのさやにをさまる君かみよ哉　新沼英

さきにほふさくら花にも似たる哉わか日の本のやきたちこそは　齋藤富太郎

神代より仇打ちはらふみつるきのあつたの宮にみいつたふとし　鈴木貞吉

はけめよと神のたましひみつるきの光ましゆくみよにもある哉　長野ぬを子

みつるきの光と共にすめくにのみいつはいよよ四方にかかやく　古玉啓三郎

まかつみは寄りもつかしなくさ薙の劍のみいつあらたかにして　古玉りやう

四方八方にかけてみいつを仰きつる祝ひましけむ草なきの太刀　松橋德太郎

まかかやく國の光をまのあたりすすむみくさのつるきにそ見る　新沼のぶ子

神代よりまけたることのなしと云ふみ國の守りみつるきのくに　天童金市

勳たててわか子と共にかへりきしつるきは家のたからなりけり　天童春子

青森縣

かみよより國のまもりのつるき太刀光いやそふきみかみよかな　木村治郎（從七位勳八等）

みいくさの勝を祝ひぬたたかひのにはにふるひしつるき飾りて　尾坂泰（勳七等）

つるき太刀さやにをさまる大御代を祝ひ稱へん千代に八千代に　宇野要七

日の本のつるきに國はまもられてもろこし人もいはふみよかな　大道寺進

山形縣

みつるきのしるきみいつに日の本のくにの光はいよよかかやく　長澤信次郎（從六位勳六等）

つはものの身の護りなる劍太刀さやにをさまる御代そめてたき　森田玄鐘（從七位勳七等）

混沌と宇内のものはみたれたり正義のつるきふるへとそおもふ　荻原重逸（勳八等）

しきしまのやまと魂うちこめしつるきのひかり世にそかかやく　島貫良松

天降りし遠きみ代よりうけつきてひかりいやます神のみつるき　佐藤芳松

草薙しつるきの功德史にしるくくにのまもりといつきあふくも　高野瀬芳夫

眞心をこめてきたへしつるきこそくにを護りのたからなりけり

藤倉富藏

くもりたるためしをきかぬみ劍はけにすめ國のひかりなるらむ

秋田縣

從七位勳八等　龜井恂

醜草をきりなひけてしみつるきのひかり輝やくくにのうち外に

勳八等　下遠武助

ぬかすとも大みつるきに天の下ひとつやとならん醜はらはれて

大井永信

神代よりつたひきにけるみつるきの光そひゆくきみかみよかな

相馬甚助

益良夫かとりはく太刀のつかのまもたち榮えゆく君かみよかな

荒谷翠嶺

唐國とけつるしのきもしらさやにをさまるみよのすかた尊とし

横山敬英

神居ます熱田のみやにまつりあるみつるきこそは國のたからそ

菅生和治

草なきのみつるきこそは日の本のくにの内外をまもりたまへる

菅生周子

神代より輝やきそめしみつるきのひかりは國のひかりなりけり

櫻庭花香

ますらをのぬくや劍のするときにむかふ仇なし支那のくにはら

櫻庭喜惠子

打なきししこ草なきのみつるきの光りかかやくくにはわかくに

櫻庭庄市

曇なきつるきのにえをみてもしれ仇にはするきやまとこころを

櫻庭歌子

仇ひしくますらたけをのみつるきのさやにをさまる御代祝ふ哉

花岡義道

あたひしくつるきのにえのくもらぬは我益良夫の大和たましひ

花田とし子

むかしより家につたはる黄金丸みいくさひとにいはひて送らむ

福井縣

立山千枝

大神のいさをしこもるみつるきの光りは永久にさえまさるらむ

塚崎澄子

かみよより永久につたへて日の本のくにをまもりの御劍たふと

西澤卓馬

神代よりみくにまもりのみつるきは畏こきかきり最もたふとし

西澤卓哉

御劍のまもりはしるし日の本のみよのさかえはいやとこしへに

西澤經雄

みつるきのみ德によりて國の仇くにのなやみもはらはるへし

石川縣

正六位　矢部彌太郎

治まれる代も怠るな佩くつるきときてことあるときのそなへに

勳八等　藪野賴映

ますらをか動たてたるつるきをはなてていくさの勝いはふらん

渡邊とよ子

神としていつきまつれるみ劍のひかりをおほふあたなかりけり

江戸さい子

みつるきの光にみ代はかかやきて千代に八千代に榮えゆくらむ

富山縣

正六位勳四等　沼田布之

やむなくもぬきたまひけむみつるきの光はいよよたちまさる哉

正七位勳八等　吉田薫

敷島の大和しつめのみつるきは千代ろつふともひかり消なくに

勳八等　野村助治

くさなきのみつるき宮にをさまりて國を鎮めのたからなりけり

上關健次郎

醜草を薙きたまひたるつるぎこそすめらみ國のたからなりけれ
勝軍つつくみよこそみつるぎのひかりかかやくしるしなりけれ
みつるぎのくもらさるこそめてたけれ世の醜草を薙つくすとも
みつるぎのみしるしたふと皇國はよろつ代かけていや榮ゆかも
日の本の國の芽出度きとしにしてつるぎの宮にまうつるこころ
めてたかる年にしあれはみつるぎの宮に詣てていははむと思ふ
あな尊ふと草なき給ふみつるぎは國のまもりとまつられにけり
わたつ雲はらひしつるぎをさまりてくにの寶とつたふめてたさ
萬代にかかやくものは日の本のくもることなきかみのみつるぎ
大戰かちときあけしいはひとていへのつるぎをかみにささくる
そのかみはまつろはぬものなひかしし御劍宮にまつられにけり

鳥取縣

まこころをつるぎにこめて益良夫か國のさかえを守るををしさ
まかねもてうちきたへたるみ劍はわか大みよのまもりなりけり
日の本のたけくたふときみつるぎは仇の廣野をくさなきにして
醜草をなきつくしたるつむかりを國のまもりとことほかひせむ

上田彌三郎
鹽川美津子
沼田ゆき
大木保芳
黑田義則
黑田れい
吉本寛運
清水治之
西村藥磨
若林常太郎
南本祐心

勅任等 田中嘉榮吉
小森道造
安藤松
井上康博

しこの野の火中に立ちし日本のくにのみたてといはふみつるぎ
天地にたたひとふりのみつるぎのみいつ畏こきみよにもある哉
戰につとめはたししつるきこそわか日のもとのほまれなりけれ

鳥根縣

草なきのたちもてなかむ醜草のたえしみよこそめてたかりけれ
國民か一つこころに研きすますつるぎは錆ひし日のもとつくに
しこくさは薙き仆されてみつるぎのさやにをさまる時は來けり
劍太刀飾りてかとてをいはふ哉召されてそ征くものふのため
しこくさをなきふせまししみ劍のみいつ輝やくくにいはふかな
くさなきのつるぎの光さしそひてみいつついやますおほやしま國
いつきまつる熱田の宮のみつるぎの光くもらぬ日のもとつくに
つむかりの御太刀のひかりいや映えて唐草なひくみよの輝やき
いく久しさやにおさめて劍太刀ときめく御代となりにけるかな
神代よりみいつ熱田のみつるぎは國のたからとはにかかやく
かみ代よりいつきまつれる草薙のつるぎ尊とくあふくみよかな
劍てふつるぎはあれとくさ薙のつるぎはくにのみたからにして

從五位勅六等 佐藤重治
從七位勅七等 吉松吉樹
勅八等 成瀨岩太郎
奥村久太郎
糸原道矩
平井常四郎
平井千代枝
堀龜五郎
伊豫つる
山根清定
大久保秀雄
大久保澄江
市川美佐代
森田壽津
井上鶴枝

物のくの何はあれともつるきこそひかり輝やけもののふのたま
ますら夫の魂とみかけるつるきこそやかてみ國の守りなりけれ
つたへ來し三つのたからのみつるきそ國の光と永久にかかやく
天地の神ちはひますつるきこそけにもののふのまもりなりけれ

大久保和子
大久保章子
山内健七郎
和田守鐐子

岡山縣

仇うてと出て征く吾子につたへきし劒さすけてはけましにけり
こと國の人こそ仰けふつみたまちはへましつるやまと太刀はも
いにしへも昨日も今日もとこしへに國守りますかみのみつるき
外國にはよしさわくとも何かあらん國に守りのつるきありせは
この宮にいつきまつれるみつるきのたふとき光まつあふかるる
しこくさを薙拂ひつるみつるきのひかりは永久に四方を照さむ
窮みなく世よつたへゆくみつるきの守り畏こしすめらみくには
とこしへに民や守らなむみ劒のみいつかしこきかみのこのくに
我國の鎮めとあふくくさなきのつるきは御代のひかりなりけり
日の本の寶となりてかしこくもかみとあふけりたふときつるき
ますら夫の身にきすなきを祝ふ哉はのこほれたるつるき守りて

内藤萬太郎（正七位 勳六等）
田中直章（勳八等）
矢野茂平
矢野多免
桐野房太郎
守屋糸子
間野尙明
安原榮三郎
岡田諒
中村保野
松本壽惠

草なきの大みつるきのとこしへにさやに治まるきみかみ代かな
みつるきを寶の國のますらをはたけきいさををかかやかしつつ
手向はむ百千のあたのをののくは大みつるきのみいつなるらむ
つきつきに起ることこときりさはく劒そみよのたからなりける
草薙のつるきまさすは大くにのみいつは四方にひひかさらまし
大みよの榮えしるしも天つかみのたまひしつるき曇りなくして

岸本正嘉
岸本繁子
河合茂一郎
小松壽治
末田淵吾
綱島壽子

廣島縣

くさなきのかみの太刀かせ八紘のむたきはみなくはらへくも霧
佩てゆくつるきたふとしつはものかよに輝やかむいさを立へく
草薙のつるきの光りいちしるくみいつは世よにかかやきわたる
あなたふと國の鎮とこのみやにしつまりませるくさなきの太刀
家いへの寶とひめしつるき太刀くにのひかりとなるそめてたき
我國のたからとあふくみつるきはいく千代ふとも曇らさらなむ
みつるきのみいつは四方にかかやきて動きなき國すめらみ國は

板原良槌（正七位 勳八等）
猪原幸太郎（勳七等）
小田善之（勳八等）
猪原慥爾
猪原イヱ
松本庄次郎
西原善平

山口縣

みつるきの神の御稜威はもののふの魂ともなりて世よに輝やく

高橋本四郎（正五位 勳三等）

とこしへに我が日の本はくもるましときし劔のひかるかきりは　正六位勲五等　福永阜四郎

しこ草を刈り拂ひてしその上のかみのみつるきいまにたふとし　勲七等　弘中忠彦

みつるきのみいつたふとし支那の野の醜草全くなきはらはれむ　勲八等　矢田部與市

尾羽張のつるきのみいついたたきて向ふ方にはあたなかりけり　末田三枝

萬代に動かぬくにのしつめそとあつ田のみやにあふくみつるき　井澤岸造

たくひなく名の輝くもみつるきのちからと祝ふくにそたふとき　福富福平

み軍のかさして進むみつるきになひかぬくにはあらしとそ思ふ　中島光子

もののふのみたまとあふくみ劔に恐れてあたはふしにけるかな　柳井蔦子

大みいついよよかかやく醜草をきたにみなみにはらふつるきに　飯田道治

ますらをかはけるつるきの光こそわか日の本のたからなりけれ　福永舒子

日の本の清きつるきのきつ先はいかなるてきもうけ得さらまし　三谷玄珠

打ちむかふ敵はのかさぬ腰かたなさすか大和のくろかねの太刀　福谷懐德

つむかりの太刀うちふれはひかりある國のみいつのさえ渡なり　福谷チカ

和歌山縣

神代よりつたへましますみつるきのいやかかやける君かみよ哉　正七位勲五等　木村嘉四郎

み寶のつるきのひかりさしそひて國のひかりもいやまさりゆく　從七位勲八等　大久保豐之助

ますらをか腰にはくてふみつるきは神の給ひしたからなりけり

神代より動かぬみ國まもりますみいつかかやくくさなきのたち　勲八等　萩野德種

みつるきを神とあふきて永久にくにのしつめとなすそたふとき　勲八等　中島常善

いつきまつる熱田のみやのみつるきと共に輝やくきみかみよ哉　勲八等　石井德三郎

みたからのみつるきよりそたくひなき國の光はひかりそめけむ　勲八等　江尻一枝子

しこ草を薙き給ひにしみつるきのひかりは今の世にもかしこき　林善六

くもりなき熱田のみやのみつるきのみいつを仰くみよそ尊とき　山本啓藏

しこ草もなひき伏すらむ草薙のつるきのひかりいちしるくして　和田靜海

かしこしや天地のむたかきりなくくもらぬみ代の神のみつるき　岩崎平助

高木繁子

德島縣

敷島の大和男の子の太刀かせになひかぬものはあらしとそ思ふ　勲七等　前野則之

八紘にひかりかかやきわたるかなみいつ熱田のかみのみつるき　東條宏安

劔太刀さやにをさめていはふ日をあけくれ祈るまことささけて　東條種夫

ますらをかふりかさしゆく劔こそすめらみくにの光りなりけれ　近藤濱子

醜草をなき平らけしみつるきはくにのたからと永久にのこれる　安藝由利

清き赤きやまとこころにきたひあけし劔こそ世の守りなりけれ　天野香山

みかかみとみ玉とともにみ劒のきよきひかりをあふくみよかな
みつるきの光は代よにかかやきていよよのひ行くみよ萬萬さい
あしあおこすみいくさ人のとる太刀の光そ國のひかりなりける
したかふは仇もにくまぬみめくみに劒はさやにをさめられつつ
動きなき國のしつめと雲見やまかみのつるきをあふくかしこき
磨きてし大和男子のとこころはつるきにまさるつるきなりけり
みつるきのひかりもそひて大御稜威かかやき渡るきみか御代哉
神代より國のまもりとあふきつるつるきは千代に光りますらん

香川縣
従五位勳五等 石井朝太郎
従六位勳六等 石井數市
従六位勳七等 請川新次郎
矢野英三郎
石井雄三
石井フサ子
石井初子
平尾直道

愛媛縣
武田常磐
中尾久元
二宮泰子
石村清一
竹田企一郎

天つ神のさつけたまひしみつるきの光はみ代とともにかかやく
神やとる國のみつるきかかやきてかきなき世をてらしまもらむ
皇神のさつけたまひしみつるきのたふときみいつとはに輝やく
益良夫のいつのみたまとはく太刀は仇のひかみもため直すらむ
くもりなき神のみ劒よろつよにたみやすかれとまもりますらむ

福岡縣

大君のみ前かしこみしあひなすつるきのみちそいやさかえゆく
千早振るかみとしつまるみつるきはみ國と共にひかりますらむ
つつみてもなほもれいつる燒太刀のきよき光は四方にかかよふ
劒太刀くもる事なきひかりこそわか日のもとのほこりなりけれ
まかかやくつるきの太刀の光こそみくにを守るみたまなりけれ
外國につるき進めしいさをしをいはひて千代のひかりあふかむ
たまはりし神のみつるきとこしへに動かぬ國のまもりなりけり
とりなれし鍬をつるきにもちかへて祝ふ門出のいさましきかな
みやしろに納めまつれとみつるきの光そくにのまもりなりける
くもりなき國をしつめのみつるきはみいつと共に世に輝やかん
あまてらす神のさすけしみ劒はつきせぬみよのまもりなりけり
神代よりつたへ來りしみつるきのちからそ國のまもりなりける
北支那の醜のしこくさなきはてし大和男の子のつるき太刀かな

大分縣
正六位勳六等 後藤由男
正八位 大島重雄

劒もてさへきるものをなくかこと國のひかりのひてゆくかな
古ゆいつきまつれるみつるきのいよよかかやく日のもとのくに

江藤眞弓
吉田利七
安井始幸
宮小路雪野
山崎和三郎
大塚悠次郎
牧野榮子
大塚しづ
大塚速水
原田房太郎
宮城くまを
竹林喜代志
山本喜代嘉

みつるきのみいついよいよ輝やきてそむきし國も終にまつろふ　甲斐近藏
四方の仇うちまつろへてさかえゆく皇國を守るかみのみつるき　藤永宣義
仇をやきうちて尊かくさなきとよひあらためしつるきかしこき　林貞太郎
平けくはた安らけくおほみよをときはかきはにまもるみつるき　松崎秀子
みあらかにしつめまつりし劍もて支那のしこ草かりはらふらむ　野尻馬太郎
みあらかにしつめまつりし草薙のつるきは國のたからなりけり　野尻惟直

佐賀縣

みつるきのみいつ輝やけ敵の目はみなくるめきてまつろはむ迄　從六位勳六等　於保謙孜
年ふれと神のみつるきめてたかり國をしつめのいさをひかりて　稲葉誠月

熊本縣

御劍のたふときひかりあふきつつみよのさかえを千代祝ふなり　從七位　古閑五八郎
いはひまつる熱田の宮のみつるきの光そくにのひかりなりけり　岩下八東
みつるきの光とともにおほ君のみいつもいよよ四方にかかやく　岩下つぎえ
長もちの底に久しくひめおきしたちもまた世にいてはたらく　岩崎もとむ
宗近かうちしつるきのひかりこそくもらぬみよの榮えなりけれ　和田勝茂子
石の上ふつのみたまのかみつるきのみいつ輝やく君かみよかな　宇野廉太郎

利心をかけし大和のつるきこそくにをまもりのたからなりけれ　出口市藏
日の本の玉ちるつるきさやはしりとつ國くにもあふくみよかな　山田懇

鹿兒島縣

すめらきの大み寶のみつるきのひかりはとはにくもる世そなき　正七位勳六等　岡留照本
くさなきの神のみつるき永遠にかかやきわたるおほやしまくに　正七位勳七等　海江田榮藏
天津日の光とともにとこしへにくもることなしむらくもの太刀　從七位勳八等　堀虎千代
事しあれはいよよ輝やくみ劍のひかりそみよのすかたなりける　勳八等　中村平輔
かむたからこのみつるきを蛇より得たるも畏こいくよへぬらむ　竹添强
傳はりてあふくもたかき叢雲のつるきそくにのひかりなりける　木原泰藏
曇りなき大和つるきはまさみちをつらぬく國のひかりなりけり　檜原正助
火にもゆる草なきはらひ中つくにさかゆるみよをひらきける哉　大館晴村
草薙のみつるきにあふく神のみいつ日本武夫のたまとかかやけ　森田梅子
たましひにこもる日本の劍太刀おそれぬくにはあらしとそ思ふ　嶽野盛夫
熱田宮あふくみたまはいにしへのたけきひかりの草薙のつるき　中村武二
軍立ちの門出いはへりもののふのおふるつるきに思ひよせつつ　藥丸百二
くさなきの稜威のつるきのみ光に亞細亞の空のくもそはれゆく　鶴田正義

大君の守りとなりてみつるきのくもる日もなき代をいはふかな　龜澤弘倫

代代木野にみそなはしますもののふの劍は國のひかりなりけり　勝目琢磨

國民か磨きあけたるつるきこそわか日のもとのひかりなりけれ　勝目久麿

みやしろにいつきまつれる劍こそわか日の本のまもりなりけれ　勝目トシ

ひろまへによきとし祝ふ益良夫の腰矢におひしつるきかかやく　黑木正德

つるきたちさやにをさまる大御代のおほみ光をあふくけふかな　河内茂吉

むらくものみ劍こそはすめろきの代よ傳へますみたからにして　禰寢琴子

みたからのつるきかかやく皇國の堅きもとゐはとはにゆるかし　岡留梅子

ことしあらは劍のことくかかやきて仇もなひかす日のもとの國　湯地恒也

皇國にあたなす仇をなきふせしつるきはみよのまもりなりけり　木佐貫ゑい子

天津日の出てんかきりは大みいつかかやくつるき曇らさらまし　種子島時美

日の本の大和つるきのひかりこそ永久に輝やくみいつなりけれ　八尾かね子

むらくもの劍かかやくみくにには双向ふあたもなき世なりけり　濱田左二郎

草薙のつるきのひかりかかやきてあたてふ仇はみななひくらむ　森田彌兵衛

なひかさる仇やなからむぬきはなつ我日の本のたちのひかりに　牧野一雄

まもります神のつるきはすめらきのみいつにそはる光なりけり　鮫島宗容

戰にかちしほまれのつるき太刀さやにをさめて世をいはふかな　北海道　齊藤二三男　從七位

いさをたてし劍をさめて君か代のいやさかえゆく世をいはふ哉　齊藤榮吉

醜草を薙しつるきもことやめてみいつになひくよをいはふかな　齊藤八壽子

ちはやふる神にいつきて燒太刀のみいつ目出度御代にもある哉　井上近藏

天降してあらふる神をことむけし布都のつるきのみいつ尊とし　遠山能保留

もの皆をいかせと神の授けまししつるきは國のたからなりけり　朝鮮　杉野清造　從七位勳七等

ぬきはなつ時したかへぬ日の本の國のつるきそ世のたからなる　花田金之助　從七位勳八等

つはものか手にとりもちて唐の野の醜草はらふつるきたふとし　小林鄕一　從七位

浦安の國こそいはへ布都みたまこもるつるきのくしきみいつに　杉野千秋

もののふか仇うつ太刀のつかの緒の亂れもみえぬ國のめてたさ　上野吉三

雄こころをきたへきたへし日本刀いくさの庭にはなとかほるも　中田みゆき

みつるきの御光とむた大きみのみいつかかやくみよいははめや　臺灣　中治稔郎　從七位

みつるきの清き光のよろつ代にかかやきわたるしきしまのみち　吳淵春

西北のしこの唐くさみつるきの威とくにいまはなひかぬそなき　勅七等　高橋源吉

醜草もなきたてられてすめ國のつるきのひかり四方にかかやく　田邊房子

麻をみたす世もみつるきの光にてたたしき道はひらけ行くらむ　山崎照子

職員

みめくみの熱田の宮居千木たかくあふきまつらむ大みつるきを　主典正八位　松岡隆彦

神代よりうけつきまししみ劒のたかきみいつにくにはさかゆく　主典從八位　牧野建通

いむかへる醜草なきてみつるきのみいつ輝やく代をいはふかな　主典正八位　久米武一

新しきくにもしつめてみつるきのみいつかかやくおほやしま國　宮掌　武田憲一

たたならぬみよにあふこと日の本のみいつかかやくいつの劒に　宮掌　伊藤清一郎

御劒のみいつそしるしみいくさの征き征くちまた上るよろつ代　宮掌　喜田川清香

みつるきのみいつあまねくかかよひて我葦原のくにはさかえむ　宮掌　諫見豊彦

佩く太刀にきはなき御代を守らむとふつのみたまに祈る今朝哉　衛士長正五位勲四等　木村綱芳

かみいくさ熱田の宮のみつるきに祝ひおろかむ日のもとのたみ　衛士　加納淑秀

ますらをのたかきいさをしのひつつ劒のみいつ永久に稱へむ　衛士勲八等　鈴木京治

事のあることにみいつの輝やきぬ醜くさなきしおほみつるきは　衛士　小森英夫

みつるきのかかやくかまに隆隆と東亞新秩序はきつかれむとす　技手　栗山豊

學校献詠

東京府

東京府立第五高等女學校

生徒　川島美津子
同　湯淺惠美子
同　鈴木潮子
同　山下綾子
同　神部和子
同　富田嘉子
同　本多澄子
同　衞藤玲子
同　中山忠子
同　和田やすゑ
同　高橋朗子
同　正木翠

みつるきをまつりし宮はいやさかえ外國までもまもるかしこさ

かきりなきあめつちと共にむら雲のつるき輝やく國まもるかな

神代よりけかれしこともなき國をまもらせたまふ清きみつるき

神代より唯ひとすちのわかみよをまもりて久しも神のみつるき

榮えゆく大和のくにのまことなるすかたをうつすつるきなる哉

佳き年を皆ことほきていはふときかみのつるきも光りいやます

日の皇子を守りたまひしみつるきは萬代までもくにのしつめそ

天津神くしきみつるき手にとりてうましみ國をつくりたまへり

醜草をなきししいさをとこしへに國のひかりとまさり行くかも

あもります神のみよより幾千年みつほのくにをまもるみつるき

いくちとせへつれとなほも曇りなき劒はたみのこころにもにる

日の本のしこくさなきしみつるきのしつもりゐますこのみ社に

みつるきの光四海にあまねきてわか日のもとはとはにやすけし

日の本の國を守りしつはものつるきのほまれ永久にかかやく

國のためいさみてゆけるますらをのはかせまつれる劒たふとし

ふるきより清き心のあらはれとよはれしつるきよよにかかやく

しけりたる世のくさくさを劒にて薙きはらひてそ東亞明け行く

あらたなる永久の平和をきつかんと草なきふせし年をいははむ

そのかみに賊ををさめし劒をはまつりて祈らむくにのさかえを

かみよより大和心のあらはれとたたへられたるつるきたふとし

出征の旗立ちなひくそのなかを太刀にきりしめをの子いてゆく

天地ときはまりのなき日のもとの國まもりませおほみつるきは

ゆかりある熱田のみやのみつるきを永久にまつりて共に祝はん

日の本のまもりかためむ武夫のこころなりけりこのみつるきは

武士のたまのこもれるみつるきは國のまもりにさえをみせつる

いのちをはすくひたまひし靈劒のあつ田のみやに吾等はいせん

そのかみの勳をかたるこのつるきとはに我家のほこりと成けり

君のためいのちささけし益良夫は神のつるきのすかたなるらむ

同　野村敏子
同　林孝子
同　千場京子
同　藤井志奈子
同　山川泰子
同　橋詰義子
同　安西芳江
同　竹原正子
同　岩田和子
同　助川光子
同　尾上千鶴子
同　香椎ひろ子
同　加茂靜枝
同　花房耐子
同　神垣玲子
同　吉原文子

みつるきの清きつたへにかたふきて昔をしのふくにそめてたき　生徒　冨永澄子
みつるきは熱田の宮にしつまりて榮ゆくみよをいよよまもらん　同　堀武子
永遠にあつ田のみやにしつまれるいさをし高きみつるきのあり　同　鈴木いと子
葦原のしこ草なきしみつるきをこのみやしろにをろかみにけり　同　兒島敏子
その上にみこと守りしくさなきのつるきそ今はみくにもるらん　同　増田靜江
草はらふつるきはとはに國民のしたひうやまふかみにまします　同　糟谷あい子
とこしへに外國までも輝やけるほまれはたかき御劔にこそあれ　同　佐野智子
光輝あるとしのいはひにみつるきも見まもりたまへ東洋へい和　同　小向美代子
みかかれし清き劔のひかりこそわかものふのまことなりけり　同　桐野靜子
そのかみの國はしめたるますらをの榮あるつるきいまそ祝はむ　同　袖山文子
今もなほあめのむらくもさんせんと榮えある御代に光かかやく　同　高田貞子
みつるきはいともかしこし醜草をからにかしこにいまもなく哉　同　清宮德世
敷島のやまとこころを思はするあつたのみやのみつるきの冴え　同　大野行子
みつるきの守るかきりは日の本になとかうれひの晴れぬ事なき　同　小林郁子
みつるきを心のちからと祈りますますらをのとも神まもりませ　同　柳瀬安子
しこくさをなきたまひたるみつるきの守りの固き御代をは祝ふ　同　冨川喜久江

神代ふるみつるきのさえいやまさり守りもかたき三千とせの國　同　平岩政子
みつるきの直き心をこころとしわかみいくさはたたかひかてり　同　石原愛子
皇國のまもりと果てしますらをのすかたは猛きつるきなりけり　同　柳澤良子
すめらみくにかみ代もいまも聖戰に仇を鎭めにたてるみつるき　同　杉井滋子
いにしへのみことの偉業そのままに劔のひかり永久にさかえん　同　大塚雅枝
とこしへに直く光れよみつるきと佳き年むかへいのらるるかも　同　中原叶子
そのむかし御子をまもりし草薙のつるきのほまれいとも尊とし　同　岡澤幸枝
燒津野の草薙きたまふみつるきのみとくあまねし外くにまて　同　南部紀子
みつるきのまもりかしこき大やまと千代に傳へて榮えゆくらん　同　内田明子
みつるきの清き光はさかえゆくわか日のもとのかかやきにこそ　同　木曾治子
榮えゆくすめら御國のいしつゑとなりにし神のつるきたふとし　同　小倉さゑ
大神ののこされましししみつるきを祝ふなりけりはえあるとしに　同　中川孝子
とことはに榮あれかしますら夫のこころをうつす神のみつるき　同　酒井アサ
その上に草なきたまへるみ劔のとはのみいつをことほきまつる　同　伊藤登代子
そのかみの國をまもりしみ劔にいま日のもとのさかえますらむ　同　石井耀子
叢雲のこころの闇もたちぬへしまなひのみちにきたふ太刀かせ　同　古館禮子

みつるきの代よのさかえをいはふかな豐榮登る日のもとのたみ　生徒　麻生眞子
古のたふとき皇子をもりしことみくに護るらんみやのみつるき　同　神津美智子
武士のこころあらはすみつるきにけふも祈れりしゆせいのひと　同　佐藤綾子
千萬ののちの世までもさかゆなりみつるきおはすこのすめ國は　同　菅野ミッ
かみ代よりみ國まもりしみつるきはいよいよさえて輝きにけり　同　可兒みめ子
まかつ火を拂ひたまへるみつるきの永のよはひをことほき奉る　同　佐久間稻子
ゆるきなきすめらみくににしやくせんと光輝やくつるき尊とし　同　服部幸子
代よをへてつたへは永きみ劒をひとしくいはへはえあるとしに　同　五味英子
萬代のくにのさかえをいはふなり正義をかさすみつるきのもと　同　齋藤眞佐子
そのかみにみ國にまもりしみつるきをはえある年に一しほ思ふ　同　長谷川千惠
その上の草薙ふせしみつるきによりよきれき史あれといのらむ　同　時女延子
年としにすみまさり行くみつるきの草なきふしし事のいくたひ　同　名古則子
おや國の道をひらきてすすめかし草なきふしししみつるきのこと　同　森本泰子
神代よりやまと心をしめしつるみつるきこそはわかまもりなれ　同　廣川輝
空蟬の世のしこくさをなきたまふみつるきの榮いまそいのらん　同　庄司靜枝
しきしまの清く氣高きみつるきの永久のさかえを祝ひまつらむ　同　大谷光樹

みつるきは千代を守りてゆるきなき皇かみよをいはふなるらん　同　中村百合子
三千年のなかきに渡るいにしへのつるきのみとくわれは祝はん　同　森　涼子
葦原の國をまもりしみつるきの千代よろつ代にさかえあれかし　同　須藤岑子
みちとせの榮えたふとしみつるきの曇らぬ神をあふきまつりて　同　武石梅子
とこしへに光かかやくみつるきはすめらみ國のひかりなりけり　同　永井愛子
類なき歴史のほまれみつるきによきとしいはふこころささけん　同　波脇靜江
みいくさに立つもののふの力みよしこ草なきしみつるきのこと　同　大森節子
草なきしみつるきをもて守りませ大和のくににあたせしものを　同　下坂敬子
躍進のやまとのすかたそのかみにつけたてまつる神のみつるき　同　佐藤幸枝
古にくさをなきたるみつるきのまもりのあれはつよきみいくさ　同　日比野泰乃
そのかみの草薙の地にめくり來てつつしみ祝ふかみのみつるき　同　伊藤節子
ちかちかに吾等もむら雲はらうらむ草を薙たるみつるきあれは　同　齋藤ハナ子
破邪の劒こころにおひて行くところいや榮えゆくすめらみ國そ　同　須藤喜代
草薙のかみのみつるきうけもちていま啓きゆくすめろきのみち　同　杉山知子
そのかみの尊ときみつるきいたたきてみよそ祝はん國の榮えを　同　始關公子
むらくもの由來そとほきみつるきの永久の輝やきいはふなる哉　同　中島杉子

神代より皇みくにをまもりましし榮あるつるき今日そいははむ　生徒　蟻川光子
あなたふとみくにの劔神代よりまもりのかたくかかやきてあり　同　川島ふみ子
かみよより國のまもりのみつるきはいや輝やけりいとも尊とし　同　可兒綾子
みやふかくみつるきおはす日の本は神のわさもて榮ふるくにそ　同　關口量子
かみ代より國の護りのみつるきをめてたき年にいはふなりけり　同　川目雅子
三千年もたえすつつきし日の本のつるきの宮のいやさかえませ　同　原田迪江
とこしへに大和の國はさかえ行く神のまもりのみつるきあれは　同　堀田都紀子
かしは手に興亞のひかりさしそへて守りのかたき神のみつるき　同　倉瀧あい子
日の本のいや榮えゆく代をまもりとはに曇らぬかみのみつるき　同　渡邊靜惠
佳き年のさかえある國まもりませその名ゆかしき草薙のつるき　同　松本道子
くもりなき太刀に映してうち建てし東のくにのさかえいははん　同　田村淑子
君のため四方のむらくも拂ひたるいさをしいよよ輝やきませり　同　鹽塚みどり
八百萬代ちとせのはてもことほくは野火の草なくつるきなる哉　同　森谷領子
みつるきの守りたふとくいくちとせいや榮えゆく國そめてたき　同　高橋惠美
三千年よもにかかやくみつるきそ大和しまねのうこかぬもとゐ　同　玉井はる子
邪のさかゆくとしにあたれともみよをまもらんかみのみつるき　同　黒川淑子

そのかみにいさをたてにし御劔を今日のよき日に祝ひまつらん　同　下平百合子
皇國のさかえかしこしくさなきのつるきの御魂四方をまもれは　同　内田綾子
大君に仇なすやから薙きはらふつるきのほまれよよにつたへむ　同　湯川光子
そのかみに國のしつめとなり給ふみつるき今そいはひまつらむ　同　藤原彰子
たふとしや熱田のみやのみつるきは大和島根のこころなりけり　同　酒井慶子
もゆる火のほなかに立ちてくさなきし神の劔そめてたかりける　同　名井郁子
とこしへに輝やきたまへみつるきの國のもとゐの高きいさをし　同　米山良枝
いにしへに尊を護りしみつるきの末なかきまてかかやきてあれ　同　永野百合子
大神の授けたまひしみつるきのいさをはなかくよろつ代までも　同　安河内雅子
日の本のたまうち込みてつるきには神代なからのひかり輝やく　同　田端千技子
とほつ祖のはきたる太刀を手にとりてその雄をしかる心思ひぬ　同　平尾知子
とことはに護りましますみ劔にいやさかえなむおほやしまくに　同　志垣陽子
もののふのかかみとなりてまつられし草薙の太刀の譽たたへむ　同　中垣幸子
劔てふつるきにこもる御魂こそくさなきし世のみちからとしれ　同　水野惠美子
草なきて世靜まりましぬその上の御劔のいさをたふとくもかな　同　三井恭子
くさなきてあしきを討たせし御劔の光いまなほ世をてらしませ　同　田島靜子

大和魂言あげすへくかしこくもかみのみよよりつるきたまへり　生徒　岡崎ひさ
とこしへに幸あるくにそ大和の國は國の始めのみつるきのもと　同　太田愛子
その上に賊をはなきしみつるきの榮えあるほまれなほ輝やけり　同　山本綾子
神世より傳へたまへるみつるきはやまとの國をもりませるなり　同　坂本昌子
むらくもの劒のまもりよ幾千代もわか日の本のくにはやすけれ　同　池園恵子
大陸の野に駒はせるますらををまもらせたまへかみのみつるき　同　荻原愛子
その上に醜草なきしみつるきのとくをしのひむわれまゐりては　同　谷　京子
ゆかりある劒まつりて諸ともにすめらか御代をいはひまつらん　同　中楯幸子
もののふの魂とうたはるつるきをはまつれる社のほまれ稱へむ　同　齊藤淳子
あらたけきみたちのしるし今更にしのはるるかな榮あるとしに　同　赤堀和子
よろつ代の帝まもりし草なきのみつるきのたましのひまつりぬ　同　高口純子
日の本の永久のさかえをくさなきのつるきによせて尙いのる哉　同　二見順子
天つ日のみことかしこみ征きませし皇子の御劒ひかりあまねし　同　福田絢子
御劒のきよきひかりは神代よりやまとしまねのまもりなるらん　同　山田壽子
とこことはに榮えゆくらむ大八洲かみのつるきのまもりたまへは　同　大類美代子
神國のもとゐ定めしつるきこそきよきいくさのしるしなりけり　同　木村祝子
天の下安らになりぬくさなきて皇子をまもりしつるきかしこし　同　鷲尾かをる
武士のいさをたてにしみつるきを國のまもりとはにたたへん　同　小關美智子
すめろきの日つきのしるしみ劒は熱田のみやにいとたふとかり　同　三宅美那子
神さひていやまさり行くみつるきの光あまねき日のもとのくに　同　田中和子
みつるきの光いやます大御代をことほきまつる今日そうれしき　同　齊藤万壽子
とことはに國守りゆくみつるきの正しきちからなほもいははむ　同　新海とめ子
永久に榮ゆるくにのまもりかみこそりてたたふきよきつるきを　同　丹羽道子
日の本の心をしめすみつるきにさかゆくみよをことほきまつる　同　石川正子
君かもと召され行くあさつはものか劒にちかふかたきまことを　同　鈴木幸子
御劒のくもりなき世をことほかむ三千年とほきかみよなからの　同　岩崎ぬま子
すめらきのみくにまもりて幾千年ふりけんつるき共にいははん　同　福井敏子
みつるきのたるるか如き清さこそ大和のくにのこころなりけり　同　神宮芳子
かみ代よりつたふ劒そ日の本のよよにかかやくやまとたましひ　同　横井靜子
その上に命まもりしくさなきのみつるきまつるみやそたふとき　同　竹内充子
おこそかに劒まつれるみやしろのとはのさかえを祈るわれかも　同　寺平婦美榮
日の本の國のたからとあふきつつよよ傳へ來しくさなきの太刀　同　成島富子

世をしつめくにを守りて來し劒なほよろつ代のさかえいははん　生徒　小林千枝

日のもとに仇なす國のあたくさをなきたひらけし太刀そ此太刀　同　松本八重

武士の魂とあふかるつるき太刀くもりなき身をとはにたたへん　同　尾崎美知子

草をなきあしきをうちしみつるきは國の守りそとはにたたへむ　同　砂田泰子

くもりなき正義のつるきゆくところよの國もひかり輝やく　同　濱田美代子

草をなきみくにしつむるみ劒をことほきいはふ日のもとのくに　同　野口慶子

よはうつり人はかはれとその上のみことのいさをとはに輝やく　同　川手冨士子

みつるきはいや神さひぬいにしへゆ國を守りて來にしすかたそ　同　合田禎子

うなちこえかの大りくに聖戰をすすめしつるきは尊とかりけり　同　平城美代子

とこことはにいはひまつれと下されし神のつるきそ尊とかりける　同　河村葉子

新しき平和のためとみつるきはあたなすひとをうちしつめます　同　酒井英子

いにしへのみいくさ人の劒見て我は祝はん紀元二千六百年の年　同　森田清子

千代八千代さかゆくみよの守りなる劒のいさをいまそいははむ　同　進藤光子

神代より日の本もりしみつるきを萬世へし今日ここに祝ふなり　同　常野秀子

天津日のひかりとともにあふくかな神代なからの草なきのたち　同　稲垣庸子

そのむかし民をしつめし劒こそやまとこころのしるしなりけり　同　木本信枝

いにしへのよしあるつるきいたたきて永久に榮ゆる日の本の國　同　田代常子

草深きあつたのみやのとことはに國のまもりとしつまりてあり　同　廣瀬靜子

國あけて正義のつるきせんとうにいさやすすまん興亞のために　同　佐藤千代子

とことはに守らせたまへくさなきの劒はくにの御たまなりせは　同　吉田和子

神代よりつたへまつりし草薙のつるきはいまもきよくかかやく　同　宮野貞子

そのかみのいはれも深きみ劒のまもりはかたくみくにはさかゆ　同　淺見テッ子

草薙てみこと守りしみつるきはとはにやまとのひかりなるかな　同　辰見愛子

久さをなき大和をたてしみつるきの守りそ國のさかえなりけり　同　古瀬良子

仇なきしかみのみつるき年ふりて今日そ見るらむ國のみさかえ　同　安齋彩子

幾千年あつ田の宮のみつるきはこのよきとしにかかやきませり　同　鹿島富美子

くさなきて尊すくひしつるきこそかみもる國のしるしなるらん　同　中津海甲子

燒津野に皇子をまもりしみつるきはよよの仇をも鎭めたまはん　同　神林美津子

關東高等女學校

唐國の草木もなきてつるき太刀おさまらむよをまちいはふかな　校長　松平濱子

ますら夫が劒をさめて四方のうみしつかなる世を神にいのらむ　教諭　羽田野繁子

大神の御裔のたみか佩きて征くやき太刀にほふすめろきのみち　同　甘利實

天つ神まもりたまへるみつるきは熱田のみやにとはにかかやく　生徒　荒島多磨子

征ましてつひに歸らぬもののふのつるきは永久にいつき殘さむ　同　早川時代

劒太刀かさすひかりにますら男はいにしへ忍ひいさをたつらむ　同　淺子好江

みいくさにいさをあらはす劒こそ我もののふの友にはありけれ　同　澁川明子

國のためつくす心はもののふかおひしつるきにかかやきて見ゆ　同　鈴木美保子

みいくさにつるきふるひて早四とせ我益良夫のすすみたゆます　同　石井敏子

あすは征く大和をのこかさけ佩ける劒にこもるやまとたましひ　同　人見淑子

みやしろにしつまりゐますみつるきは大和男子のかかみ成りけり　同　加藤美子

大くかをちしほに染めしつはものか譽のつるきとはにかかやく　同　中川冨美子

ますら男かおへる劒のかかやきをやまとこころの光りとそ見る　同　矢島幸枝

みつの中の一つといつくこのつるきみ國を守るみたからにして　同　戸田澄子

みいくさに劒をみかくますらをのこころはよよに輝やきにけり　同　永房はつ子

ますら男かかたへはなたぬこの劒さよきこころの守りなりけり　同　成田美恵子

古ゆつたへきにけるつるきこそやまとこころのかかみなりけれ　同　嶺岸一子

一ふりのつるきにこころうちこめて我ますらをは戰かへるかも　同　小宮良子

光ある國のむかしをものかたるあつ田のみやのつるきたふとし　同　藤川ヒロ子

日の本のますらたけをかかさしますつるきの光亞細亞てらさむ　同　白須まさゑ

はこほれのつるきをみても武士のいさを語れるつるきなりけり　同　佐賀政子

その昔父のたまひしこのつるきいまそかささむくにのみために　同　飯田愛子

かたはらにつるきそなへて荒鷲もつはさをさめしかみやしろ哉　同　酒井瑞子

とこしへゆつたへられたるみつるきにいよかかやくやまと魂　同　柳原喜美子

みやしろにしつまりゐますみ劒はすめらみ國をまもりたまへり　同　松尾信子

いにしへのいさをかたる軍刀にそへてかくはししらきくの花　同　野田滿喜子

もののふか命とめつるつるき太刀ひかり輝やくみいくさのには　同　小澤ひろ子

百錬のつるきのいろにおもふかなあしあを興すやまとこころを　同　長門さゆり

神代よりまもりつたへしみつるきは後の世までもみ國まもらむ　同　秋山きみ子

かみよより今につたはるみ劒にわか日のもとのたからなりけり　同　栗原米子

ますら夫かいさをたてにし片身そと劒をとはにはひまつらむ　同　大朏益美

戰場にふるふつるきのいさましくひかりを放つやまとたましひ　同　菅沼君子

かみ代よりいまにつたはる草薙のつるきは國のたからなりけり　同　師岡ふみ子

我子をは劒をもちていましめし母ありしくにはいまにつよしも　同　宮永のぶ子

しき島の大和男の子はつるきをはおのかいのちとなして尊とふ　同　山田まり子

神代よりつたへきにける丈夫のつるきのひかりいよよさやけし　生徒　柳川美枝子
益良夫かまこころこめてみかきたる劔のひかりさやけかりけり　同　阿曾かほる
大君のみよの守とますらをは太刀はきていつるおほみいくさに　同　盧長緑
おほきみのみたてとかさすこの劔そのもののふのいさを輝やく　同　鍵田つや子
おほ君につくすは今とますらを男かかさすつるきのひかり彌ます　同　岩田玉子
わかほこる大和心のあらましはおへるつるきにいちしるくして　同　吉田千代子
みいくさにつるきかさして死を思ふわかもののふの動たふとし　同　小林セキ
神さひし熱田の宮のみつるきはつたへこしよをまもりきつらむ　同　神野道子
唐國の露ときえにしもののふのかたみのつるきよよにかかやく　同　朝倉濟枝
心こめてときしつるきとみいくさに命もささくますらをのとも　同　相原英子
眞心をつるきにこめてますらをかあたに向はむこころ雄をしも　同　長谷川千鶴子
ますらをかたてしいさをもかかること刄こほれ見ゆる劔尊とし　同　片山榮
國の爲花とちりにしますら夫のつるきのひかりかかやきわたる　同　横田春子
日の本の男の子のいさをとこしへにこのみ劔にうつるとそ見る　同　種田恭子
もののふかいくさの庭に輝やきていさをあらはす此つるきはも　同　龜山和子
かすかすのいさをかたりてとこしへに光輝やくつるきたふとし　同　星川和子

ますらをかいさををたてし戰場に今もかかやくつるきのひかり　同　村瀬富美子
戰にはいてぬもののふいさましくつるきを佩きて國をまもれり　同　高橋武代
すめらきの遠つみおやのたまはりし劔のひかり四方にかかやく　同　余氏汝
つはものか心をこめてみかきたるつるきの光りいよよさやけし　同　後藤君子
もののふかたてしいさをし忍はする劔をまつる今日のみいはひ　同　上原てる子
ますら男のおひてすすまむみいくさに劔のひかり輝やきてゐぬ　同　金子直子
益良夫かいさををたてしこの劔やかてみくにのたからなりけり　同　今政百子
いさきよくつるきをかさすますら夫のうてにこもれるやまと魂　同　渡邊勝子
たたかひにいつるますらをいさみつつ輝やく劔はくもいさまし　同　松野千代子
もののふかかねてまちにしこの劔今もちゆへきときは來にけり　同　佐竹はる子
みいくさにゆきにし人のまもりなるつるきの光さやけかりけれ　同　牧原彌生
けかれなき劔のこときこころにて國につくさむわれらみたみは　同　田中泰子
いにしへゆみかきつたへしみ劔はくにのひかりと尊とまれけり　同　青山幸子
日の本の國のまもりとみつるきは熱田のみやにいまもかかやく　同　柘植山文江
くにのためつるきと共にもののふは重きつとめを身に帶てゆく　同　青木ふく
臣の道ふみたかへしとますらをか今あらはさむつるきのひかり　同　大澤とよ子

草をなき國をやすけくしたまへるみことのつるき今もかかやく　生徒　宇都宮知子
ますら夫かきよき心をあらはしてつるきの光りさやけかりけれ　同　野中昌子
すめ國のみ楯となりてもののふのおへるつるきは腰にかかやく　同　三觜てる子
みいくさの花とちりにしますら男の片身のつるきとはに輝やく　同　光末あき子
もののふかときすましたる劒こそ國をまもらむたましひにして　同　大月幸代
御劒を熱田のみやにおろかみてみよのさかえをいはふあさかな　同　佐藤治子
ゆるきなきみことつたふる御劒はくにをまもりのたから成りけ　同　島崎静江
もののふの劒かかやく唐野にもしつけきあきややかてちかつく　同　村川壽江
どこしへに國のまもりと神やしろしつまり給ふつるきたふとし　同　佐野智慧子
ほのほなす火をなきふせてふせきつる尊忍ひてつるきたふとし　同　吉田信子
醜草を薙きましつるきよよへても光たふとくあふかれにけり　同　柿沼貞子
神代よりかたりつたへしみ劒はいまもみくにのまもりなりけり　同　伊集院邦子
どこしへにあふかるるかな御戦の野にかさしたる是のつるきは　同　富樫光子
ますらをの劒かさせるかちときにあめつちふるはんさいの聲　同　大貫静子
今もなほみよをしつめの神としてあつ田の宮のつるきたふとし　同　松本孝子
もののふか腰にさけたる劒こそわかしきしまのやまとたましひ　同　太田静江

ものふかこしの劒のはこほれはたてしいさをのしるし成けり　同　谷本利子
外國にたくひもあらぬつるきそとかさして進むますらをのとも　同　持田初音
ありし日のおもかけしのふ太刀こそは主なき後も輝やきにけれ　同　山中律子
みつるきの光たふとしものふのきよきこころの輝やきとみて　同　縣　小夜
かしこくもよよにかかやく劒こそまことに國のまもりなりけれ　同　仙葉郁子
ますら夫の大和たましひひそめたるみつるきこそはわか寶なり　同　渡邊八重
丈夫かみ國のためにかさしもつつるきたふときたからなりけり　同　茂呂月子
よよへてもこの草薙のつるきこそあつ田の宮にたふとまれけれ　同　荒井百代
御社にしつまりゐますみつるきはみよを祝はむしるしなるらし　同　伊藤房子
もののふのたまやどるなるにの劒いくさの様をものかたるなり　同　田代公子
はるはると海を渡りてこのつるきいさをたてけり唐のすゑ野に　同　秋場きみ子
神代よりよよにつたはるみ劒としのふもかしこあつ田のみやに　同　貫井惠美子
かみよよりつたへかかやくみつるきは國の榮をまもるなるらむ　同　英　郁
敷島のとほつみよよりつたへきてとはに輝やくつるきのひかり　同　飯塚泰子
かしこくも國をしつめのみ劒はあつ田のみやにいまもかかやく　同　佐々木睦子
みつるきの清き光はかみ代よりかはらぬくにのひかりなりけり　同　富澤美津子

ますら夫のかさすつるきにくまもなく光輝やくやまとたましひ　生徒　城間初江
かみよより光かかやくみつるきはこれそみ國のたからなりける　同　吉見治子
もののふのまけし心をあらはして腰のつるきそひかりかかやく　同　林　靜子
ますらをの命にかけしつるきをはかしこしとこそ仰きたりけれ　同　梅本泰子
みいくさにてからたてつるますら夫の勳を語るかかやくつるき　同　小林芳子
むらくもの劍まつりしみやしろをここと拜かむ汽車のまどのへ　同　鈴木良子
みいくさのいさをかたりてこの劍大和をの子のうへにかかやく　同　杉浦冨子
かみよよりつたへきにけるみ劍の清きひかりはとこしへまても　同　尾崎フミ子
大君のみたてとなりてもののふかつるきかさむ時そきにけり　同　渡邊房子
みいくさにいさをたてにしつるきにそ今も輝やく大和たましひ　同　宇都野竹江
みいくさに一人の兄のいてたつとみやのみつるきをろかみ奉る　同　太田英子
見かへれはとほき神代のはしめより劍にこもるやまとたましひ　同　戸島涼子
ますらをの寶なりけれたましひのこもりて清きこのつるきこそ　同　立川美福
大御代のたからとなれるこの劍いよよはえあるさかえいのらむ　同　飯田淑子
大神のみことかしこみみつるきは今もみくにをまもりたまへり　同　千葉佐喜
いにしへゆかたりつくなる草薙のつるきのひかりよに輝やく　同　垣堺はつ子

世のみたれふせくとおへるますら雄のつるきそ國の寶なりける　同　角田敦子
神代よりつたはりきつるみつるきは國のたからと尊とまれけり　同　三浦ふき
みかかれて光そはれるつるきこそますら武夫のこころなりけれ　同　若村マキ子
みいくさにつはものと共にたたかひし劍も今はいへのたからそ　同　吉澤澄江
國まもる神ともなりてかかやけるみつるきこそは尊とかりけれ　同　山田美登利
いにしへの人の殘ししこのつるき今とのるへくよにはえにけり　同　梅木はる子
ますらをの手にかかやける劍こそみよさかえゆくかさし成けれ　同　酒井節
ますら夫は日の本の光あらはさむたふとく清きつるきとともに　同　今井壽子
民草か神にささけしみつるきはよよへてのちもひかりかかやく　同　祐島智賀子
もののふの鏡とよよにつたへたるつるき輝やくみやしろのうち　同　清水喜美子
すめらきのみことかしこみますら男はきよき劍を帶ていてたつ　同　佐々木玲子
日の本のつるきの光そひゆくはたみのこころにならふなりけり　同　高間蔦子
輝やけるつるきをもちてますら夫か戰のにはにたつそををしき　同　福永愛子
つはものみちのゆくてをてらせかし社にいつく此のみつるき　同　宮崎幸子
もののふのたましひこめてきたへあけし劍の光よよにかかやく　同　村松幸子
草なきてみことたすけしみつるきはとこしへによの寶なりけり　同　高山智恵子

敷島のやまとこころのあらはれそたたしくむかふますらをか劍　生徒　石澤芳子
遠つみおやもちたまひつる劍そとかたるおうはの面かかやきぬ　同　大塚直子
もののふのたまとつたへしこの劍きよきひかりは世よを照さむ　同　栗木道子
神代よりつたへしつるきまつりたる熱田の宮そたふとかりけれ　同　村上玲子
千萬のつるきのひかりいやまさむみいつあまねきくんこくの秋　同　城田茂セ子
大陸の仇にむかひてつるきもつやまと男の子のすかたををしも　同　和田幸惠
天津日のひかりかかやく太刀もちてすすむ武士いさましきかな　同　齋藤喜久江
ますらをか腰にたはさむ名刀のひかりそ平和のしるしなりける　同　金木愛枝
草薙しつるきのひかりいにしへゆ今にかかやくくにをまもれり　同　長尾愛
しきしまの大和心のあらはれはきよくかかやくつるきなりけり　同　萩原久子
人心きよくたたしくまもりませあつ田にいつくかみのみつるき　同　下前三千枝
もののふはいのちささけむ時きぬとたまちる劍ふりかさしゆく　同　小林美惠子
ますら夫の心そのままあらはししつるきのちからあやに畏こし　同　水谷美智子
戰にゆきてふるひしますら男のつるきはとはにかかやきにけり　同　水川のり子
ますら夫か仇をうちつつゆく道につるきの光りあらはれにけり　同　久留一子
ますら男かまことこもりし劍太刀くにのさかえとともに輝やく　同　加部幸子
古もいまもかはらす世をてらせこのみつるきのひかりきよらに　同　大城まり子
をたけひて戰のにはにますら男かふるふつるきは輝やきにけり　同　小澤幸子
ますら夫はいくさの庭に門出しぬ仇をうたなむつるきとりつつ　同　小川みよ子
みいくさのにはのますらをいさみつつ劍とる手にちから滿たり　同　鈴木幸子
白金をちりはめしことかかやけるつるきそ人のこころなりける　同　常岡和子
しきしまの大和男子のこころこそつるきとりにし時にしるけれ　同　加勢美雪
昔よりいはれたふときみつるきを國のたからとあふくわれらは　同　藤川はるゑ
いさきよく戰の庭につるき太刀かさしてすすむますらをのとも　同　菱川明子
よよなかくひめし劍はますら男のやまとこころとひかり輝やく　同　伊藤禮子
いにしへゆつたへし劍今もなほきよきひかりをとどめたりけり　同　長谷川秀子
もののふか手に取もてるつるきこそ我日の本のすかたなりけれ　同　狩野知子
ますらをかいてたつ朝の軍刀に日のてりそひていさましきかな　同　中路綾子
みつるきは清き光を世にはなちわかもののふのみちてらします　同　田村文子
誠こめてうちきたへたるつるきには大和こころの清くかをれる　同　中條一江
しきしまのやまと心をそのままに清くかかやくかみのみつるき　同　古田萬壽江
神代より世につたへこし劍にはもののふのまことと現はれにける　同　清水淑子

いにしへゆ國をまもりのみつるきは今も輝やくますらをの心　生徒　小野木すみ子
とこしへに國の守とみつるきはいつかれにけりあつたのおほ宮　同　和田静江
大君のみよのしつめとみやしろにつるきの光りかかやきにけり　同　清水清子
もののふのまもりとなりて劔太刀いくよをかけて輝やきにけり　同　島田幸子
鶴亀のさかえはいはしいまのよは君かみいつをそへよみつるき　同　横川高子
もののふかおへるつるきの光こそみくにの楯とかかやきにけれ　同　澤　くれは
國のため召され出たつつはもののつるきは今そきよくかかやく　同　笠倉あほ美
もののふの帶てはなたぬ劔にそたたしきおもひひめもたれける　同　川並展子
昔よりつたへられにしたからそと大和をの子はつるきたふとむ　同　五木田芳子
もののふはとき輝やけるつるきをは肌身はなたす身の守りとす　同　河野利子
丈夫はしまねをひろくきつくとき清きつるきをかさしてたちぬ　同　片山一榮
しきしまのやまと心のたふときにおひしつるきもひかり增けり　同　新井澄子
みつるきの光のことくとこしへにつよくをしきくにそわか國　同　宮下泰子
いにしへゆいひつたへこし御劔のみいつはよよに輝やきにけり　同　稻葉静子
神代よりつたへられにし劔にはたましひをさへうちこまれけり　同　小林イキ子
天地の神をまもりとこのつるきくにのうち外にかかやきにけり　同　長谷川里子

黒金にきたへられたるこのつるきいつのよまても國をまもらむ　同　矢部まさ
つるきこそわかもののふの鏡そと清水のことくきよくみかけり　同　深澤みさき
國の爲おひしつるきのかかやきはますらをと共に國のみたから　同　中島花子
我力しめすときそとものふかつるきかさしてふるふおたけひ　同　東條百合子
とこしへに輝やきませるみつるきの光はくにのひかりなりけり　同　佐々木クニ
いにしへのもののふかもちしこの劔千歳の後もかかやきにけり　同　狩野榮子
いときよき劔を人のかかみとし千代よろつよにつたへたまへり　同　佃　禮子
もののふのさかえ久しく祝ふなりみつるきまつる熱田のみやに　同　三島英子
あなかしこ神としいつくみつるきの清きひかりはよよに輝やく　同　許氏彩鸞
益良夫はきよき心をそのままにかかやくつるき身のまもりなる　同　森塚千津子
床のまにかさりし劔もののふかなきよみまもるひかりなりけり　同　竹川簾子
いにしへのもののふのうへしのはるる今も輝やく床のつるきに　同　林　千枝
しきしまの大和心のますら男はおひしつるきそたからなりける　同　福室スヾ子
大君のみたてになりて召され行くつるきにこめぬ大和こころは　同　村川耕子
ますらをかはれの門出に輝やくはときしつるきのひかり成けり　同　瀬戸康子
もののふか清き劔をかさしつつすすむ地にみいつかかやく　同　武藤　巴

年へてもいよよ輝やくみつるきよ草なきふせしむかしおもひて　生徒　上田幸子
國のためををしくちりしもののふの劒はとはにひかりかかやく　同　海井玉江
熱田の宮おくにかかやくみつるきのことあるときそ光かかやく　同　藤原千鶴子
日の本のこれのみつるきとこしへにきよき光をよにととめけり　同　樋口キヨ子
ますらをの力のかきりつるきたちいさふるはなむ時はきにけり　同　原ゆう子
くにのためあたにむかひてもののふかおひし劒は家のみたから　同　岩崎登美子
國のため召されゆきますもののふの心ときよくつるきかかやく　同　西村千鶴子
いにしへゆ今もかはらぬ草薙のつるきはよよにかかやきにけり　同　村田初江
しきしまの大和の國のつるきこそいくさの庭にかかやきにけれ　同　川瀬由美子
たふとくも戰にちりしもののふのつるきはよよにひかり輝やく　同　梶滿里子
長船の名にたつつるきいにしへも今もかかやくよのたからなり　同　後藤千枝
もののふかおひし劒はよろつ代もみたまと共にひかりかかやく　同　三井福子
天津神おさめたまひしこの大和みつるきと共にひかりかかやく　同　伊藤光子
ますらをかいくさにいてしその時そ清きつるきをとり戰かはむ　同　町田光江
しきしまの大和男の子のいさましく腰につるきの輝やきてあり　同　青柳福子
ますら夫のたけきこころをあらはすはときし劒のひかり成けり　同　藤井友子

その昔仇をはらひしこのつるきいまみやしろにまつられにけり　同　佃和歌子
くもりなき大和心とうたはれてつるきはいまもよよにかかやく　同　佐藤二里
醜草をなきたまひにしみつるきのみいつをとはに仰くみやしろ　同　丸山芳枝
いにしへの草薙ましましみつるきのみいつに仇をまつろひたまへ　同　中島年子
日の本の輝やきみゆるみつるきをあふきてとはにあれと言ほく　同　小島芳江
今日も亦すすみすすみてますらをの心はかたしつるきふりつつ　同　千葉美枝
たましひをこめてうちたる劒には我もののふのみちそかかやく　同　濱田日出子
もののふの誠あらはす時きぬとつるきをぬきてこころをとりぬ　同　長田房江
しき島のやまと心とかかやけるつるきのひかりよよにくちせす　同　宇田川正子
もののふかふるひし劒ささけけりとほきむかしのたたかひの跡　同　田村市子
もののふのおひし劒をまもりつつとくおさまらぬ世をいのる哉　同　菊地敏子
みいくさにめされし兄の劒をはくもりなかれとちちはねきつつ　同　鈴木美津子
さかえゆく我日の本のいしする忍はつるきを取てたちしますらを　同　鈴木幸子
ますら夫の劒とる手のいさましきみ國のために身をはささけて　同　大川ナッ子
もののふの心ときしこのつるきかたきいはほも一うちに斷つ　同　中里光子
日の本にけかれなかれと祈れかしたましひ籠るつるきかさして　同　建部綾子

いくさ場に大和劒をさしかさしすすむすかたのいさましきかな　生徒　井上華子
鶏の聲たかたかに夜はあけぬみつるきのまへにおろかむあしたし　同　櫻木絹子
きしまの大和心はあかくしてつるきにはゆるあさ日のことし　同　新田豊子
ますらをかかさす劒そふるけれとこころはをし日の本のため　同　相澤章子
かしこくも社にいつくみつるきはいつのよまても國をまもらむ　同　宮師喜志子
みいくさにほまれの劒うちふりてはけましつつも部隊長すすむ　同　桂田智恵子
わか心つるきと共にみかかすはわか日のもとのひとといはれし　同　伊藤静子
もののふかささけし劒日にはえて清きひかりのかかやきにけり　同　秋元房子
もののふのいさを輝やくこの劒かみにささけてとはにいはむ　同　白井孝子
空高き秋のそらにも似たるかな清くさえたるみつるきのひかり　同　權　正淑
劒をはふりかさしつつむかへともわかますらをはまゆも動かす　同　高橋トシ子
神の御前いたたくつるき身につけて大和をの子の胸そおどれる　同　木澤愛子
仇うちし太刀のはこほれ其ままにいさをは今もよよにつたへぬ　同　若松うめ
輝やける朝日のこときみつるきを國のひかりとあふきいはひぬ　同　木村絹子
ますらをの帶しつるきにあらはるる仇を恐れぬやまとたましひ　同　青野英美子
日の本の光かかやくつるきこそおほくかの野にひかりかかやく　同　中村伊佐子

しこ草をなきはらはれしみつるきはちよとこしへによの守なる　同　高田裕子
御戦にほまれのつるきかかやきてますらをと共にいさを語りぬ　同　西嶋喜久子
もののふの心をしのふこのつるき日の本の國のまもりなりけり　同　鈴木春枝
古ゆちりたにすゑぬつるきたちいまかかやかすときはきにけり　同　杉原松ヶ枝
もののふかいくさのにはにたつる時かさす劒もひかりかかやく　同　榎本綾子
みつるきのきよき光のありてこそわか日の本はけかれさりけれ　同　遠藤初子
おほ君のまもりとなりて御劒はあつ田のみやにさかえひさしき　同　鈴木郁子
神代より國のまもりとみつるきの輝やくひかりたふとかりけり　同　小野正代
その昔仇なきふせしみつるきのひかりはくにのひかりなりけり　同　岡野香菜子
日のもとのくにの寶とみつるきはとはにあまねく輝やきにけり　同　下村照代
戦ひてふるふつるきに日の本のくにのひかりもかかやきにけり　同　鹿野ふみ子
千早振る神代なからのみつるきは今もかかやくきよきひかりに　同　西山初江
其昔かみのとらししみつるきはことあることにたふとさをます　同　大井岑
あまつ神あもられましし始よりたふとみつるき代よをてらしぬ　同　吉川せつ子

かみつよの大和心のここもりてしつまりませるみつるきのみや　生徒　桐山静代

千代田女子専門學校

三重縣

四日市市立第一小學校

生徒　竹腰新次
同　池内悠紀夫
同　有竹辰郎
同　服部一民
同　堤捨雄
同　梅山三郎
同　岩本春吉
同　上杉龍夫
同　矢田武
同　松浦幹夫
同　倉田豊
同　伊藤幸和
同　羽田邦男
同　伊藤治郎

召されたる赤きたすきもいさましく劔たつさへたいりくへ征く
秋の夜のさえて拔きたる日の本のつるき手にしてにらむたい陸
荒波の立たまほしきにみつるきのみ國のために出ててはたらく
みつるきは此のみやしろにまつられてとはに守らん日の本つ國
日の本のつるき捧けてつはものつくすこころは同しなりける
くにいててていさををたてしこの太刀の幾代のほまれ祝ふ今日哉
わらはへの身健かになりなりてみつるき提けていまそいて行く
このつるきぬきてそ月にいてらせは氷のことときこころうつれり
日の丸を端にそつけて征きし日を今もわすれぬつるきささけて
いててゆくまもりに受けし劔をははきいさみたる兄のおもかけ
ますらをのまもりとなりて國のためいさををつくす我つるき哉
日の本のつるきかさして仇をなすとりてに今そかちときをあく
戰のにはをしりへにかへり來しほまれのつるきかみにささけぬ
神棚につるきささけていはふなりいくさに勝しあとをたたへて

同　市川博康
同　水谷博
同　寺尾冨次郎
同　内藤美智男
同　絹笠實
同　伊藤貞夫
同　伊藤武雄
同　池内利彌
同　藤井毅
同　坂倉登
同　堀田伸夫
同　山下龍生
同　黒川愛久

壕にゐてつるきうちぬきつきかけにてらして明日の突擊を待つ
大陸にやまとたましひうゑんとてかかよふつるき取出して見る
仇人をたたにみつめてこのやいはふりかささなむ仰せを待ちて
兵のつるきとともにこのいのちささけてぬかむきれあちを知れ
ひのもとは劔をもちてさかえあれ熱田のみやにこころきよめる
日の本をまもる刀のいさ立ちて征きてをしきたましひを持て
いさましき我か日の本のみひかりをかかやかすらんくもらぬ劔
大君の召しにいまこそよろこひてたちまち集ふつるきのまとゐ
日の本の刄のすこきれあちをためしても見んたいりくの野に
この門をいて征く人のつるき見てあたをそ斬れと祈るなりけり
日の本の刀のちからつはものおやはやからにみせかたらひし
大君に召されていましたい陸につるきをはきて征くゆうしかな
劔もて國をまもりのますらをのこころゆくまてはたらきてかも

愛知縣

愛知縣立國府高等女學校

教諭正七位　大村重由

大御代は千代に八千代にみ劔のみひかりさやけく榮えますらん

ますらをか拔くや太刀風支那の野の醜草なへてなひきふすらん　生徒　廣濱秋子
みつるきの高きいさをを偲ひつつあつ田の宮居あふくなりけり　同　矢田みち
ますらをか腰にはきたる日本刀しこのしこくさみなはらふへし　同　富田せつ子
みつるきの鎭りいますかみやしろいつきて國はいやさかゆなり　同　寺部八千代
榮えゆくみくにの姿あふきつつつるきのいさをしのふ今日かな　同　近藤好子
みつるきは熱田のみやにしつまりてみ國を永久に守り給ふなり　同　西山ハル
悠久にさかえゆくなるひのもとのくにの守りといつくみつるき　同　村田綾子
むらくもの劒のひかりはてしなく國のうちとにあまねきにけり　同　曾田信子
くさなきの劒のひかり常ならぬみよのまもりとあふくかしこさ　同　森田喜代江
みいくさにいてたつ君が腰にはくつるきやみよの守りなるらん　同　水藤愛子
つはものの家につたはる劒こそみよのさかえをまもるなりけれ　同　河合克子
太刀とりてとはにさかえん大御代のみたてたるへく出立つや君　同　伴禮
ますらをかたてしいさをの輝きて太刀の緒長くよにのこるらん　同　平野安江
みつるきを神といつきて日の本の千代の榮えをいはふくにたみ　同　高橋淑子

名古屋市立名古屋商業學校

みつるきのみやのひろまへ世を祈る人の多きにいとしつかなり　生徒　西田贊

みつるきを御手にとらして大神はたえすみ國をまもりますらむ　生徒　杉浦文子

愛知國學院

神劒のみいつは永久にかかやけりなひかさらめやからの八十國　講師正六位勲六等　武笠敬介
叢雲のつるきのみいついやたかに仰くもかしこいまのよにして　生徒　荻野正美
今年とて熱田のみやにしつまれるみつるき祝ふことの目出度さ　同　工藤英雄
神劒はあまてらす日のおほかみのあらみたまとて畏こかりけり　同　加藤一郎
昔よりすめらみくにのみひかりとかみのつるきのみいつ輝やく　同　宮澤重文
いむかはむ仇こそなけれみつるきのみいつ輝やく日の本つくに　同　吉澤菊之進
みかかみの光とともに日の本のくもりなき世をてらすみつるき　同　成田錄郎
みつるきのみいつによりて昔より犯されさりしくにのたふとき　同　熊谷晃
みつるきの光あまねくかかやきて永久に榮えむおほやしまくに　同　梅本進
神代より日の本まもるみつるきに征くつは者のいのりこめたる　同　万澤晶彦
この宮にしつまり給ふみつるきを今こそいはへこのとしにして　同　西宮久泰
しきしまの大和の國はみつるきのかかやく國そしれやとつくに　同　石黒宏
とつけきのその寸前にわか武士はみつるき拜みふるひたつてふ　同　細川巖

名古屋市立第一高等女學校

日の本の男の子かつるき映ゆる時惡魔のすへて世よりひそまむ　生徒　高橋路郎

つるきもつわか武士のゐけんには花も實もありやまとたましひ　同　市村操

あしはらの中つみ國のみつるきのいつにたとへむ物なかりけり　同　橋本正雄

外國の平和のためにみつるきのひかりとともにいてゆく大丈夫　同　西村兵衛

大八洲さかゆるみよとみつるきのいよよ輝やくことのかしこさ　同　辰時芳

あつたなる宮にみつるきしつまりて榮ます代のまもりとそなる　同　長友茂清

昔よりつたへはとほきみつるきのするときひかり今もかはらす　同　村松政美

くさなきの劍のひかりいやさえてなひかぬ仇のなとかあるへき　同　森井卓藏

ちはやふる劍の神にいのるかなすめらみくにの永久のさかえを　同　河合在久

ちはやふる神のみつるきとこしへに熱田の宮にひかりかかやく　同　荒木孝二

神劍のみいつはよよにかかやきていむかふ仇のなきそめてたき　同　藤原岳始

むかしより仇薙きはらふみつるきのみいつは四方に輝きにけり　同　野々村卯平治

四方の海光かかやくみつるきにいまこそおもへかみのみいつを　同　堀田源三

ちはやふる神のみ劍このとしをむかへていよよかかやきにけり　同　西井憲三

むかしよりあつ田の宮にしつまりしつるきよ光れ國のさかえを　同　半田寛

あしはらの神の心はちらねともつるきとほしてかみにいのらん　同　齋藤豐

四方の海八十禍津日のなかれとてすめらかみよのつるき輝やく　同　早川忠夫

神劍のみいつかしこしおほかみの御神勅かしこむ今の世にして　同　增田忠一

仇人をうちたひらけむますらをのつるきそ國のひかりなりける　同　岩田周次郎

相山第一高等女學校

大宮にいつきまつれるみつるきのひかりめてたくふし拜みけり　生徒　横山政子

關西尼學林

手なれたる大和男子のみつるきはくにのひかりか四方に輝やく　教授　加藤眞成

外國のあたもよりこす神代よりつるきのいつのかきりなけれは　書記　番清禪妙

神代よりすめらみかとのみたからとあふく劍のひかる今日かな　生徒　丸山孝祐

とこしへにわか大八洲まもりますあつ田の杜のつるきたふとし　同　堀場昭光

永久に動きなき世をまもるらむあつたのみやにまつるみつるき　同　石田俊晃

波こえて興亞のためにみつるきはつはものの手に强くひかりぬ　同　飯島禪道

雲見山熱田のみやのみつるきはとはにひかりてやしままもりぬ　同　岡田宏峰

なき兄の佩きしつるきを今日も又なかめて偲ふたてしいさをを　同　高橋樹心

靖國のやしろにねむるますらをと共につるきもひかるみよかな　同　吉本全孝

神さひしあつ田のみやに大御代をとはに守れるくしきみつるき　同　川添孝道

日の本の日毎につつくかちいくさ守るつるきのいさをなりけり　生徒　黄氏正相
ちはやふるかみのみよより草薙のつるきたふとし國をまもりて　同　夏目仙芳
神代よりしつもりいますみつるきは永久にうこかす熱田の大宮　同　山中玄隆
ふたつなき我か大君のいやさかをまもり給へるつるきたふとし　同　松田恵眞
荒ふるを治めたまふとみつるきをにきりて起てりすめら御軍は　同　島亮光
日の本の人と生れてみつるきをあかめまつるかうれしかりけり　同　荒瀬喜山
百々千年かみのましますおほみやにしつまる劒たふとかりけり　同　星野貞岳
かみよより熱田の宮にしつまりし劒のいさをそかそへかたしや　同　高橋祥海
神代よりいはれかしこきみつるきを熱田の宮にあふくたふとさ　同　酒井梅恵
幾度か國のさわきをしつめましししみつるきの動たたへまつらむ　同　岩田至孝
皇軍のほまれかかやくいさをしをたたへて仰くみつるきたふと　同　駒形性龍
大みよのみたてとなりしみつるきよなほとこしへに國を守ませ　同　藤田英順
尊しな永久にやしろにしつまりてくにもり給ふおほみつるきは　同　上田孝順
三千年をまもりましますみつるきは光たふとくよよにかかやく　同　山田智鏡
神代より波風しつめとこしへにくにもりたまへつるきたふとし　同　鈴木慈眼
しきしまの大和心のあらはれのあつたのみつるき尊とかりけり　同　山本秀英
かしこしな神代なからのみつるきに國守たまへとたた祈るかな　同　竹村泰仙
つはものの門出の姿いさましやとりはくつるき見るにつけても　同　鈴置得峰
日の本のいやさかえゆくみなもとは大和つるきのいさをなり鬼　同　高畑良圓
杉檜しけりにしけるあつたの宮にとはに祭れるみつるきを思ふ　同　吉枝良光
たたかひに勝閧高くあかれるもつるきのいさをたふとかりけり　同　田宮静芳
大八洲まもるやしろのみつるきは神のみよよりたふとかりけり　同　西木弘全
武士といくさのにはにいてし身をひまなく守るつるきたふとし　同　渡邊孝順
みいくさに召し出たされしつはものかかやくものは劒なり鬼　同　御子柴慶道
兵士のまもりの神といてたちにうけしつるきそたふとかりける　同　塚本梅芳
神代よりしつまりいます草薙のつるきそみよのまもりなりける　同　濱島良順
神代より今も熱田にまつりけるつるきたふとくその名もたかし　同　大島寛法
昔よりあつたのみやにまつらるるつるきは今もかかやきにけり　同　柏田順光
日の本のいや榮えゆく大み代をいのるあつ田のみつるきのみや　同　千田良禪
神代よりつたへられたるみ劒はわか日のもとのたからなりけり　同　田邊正淳
萬民あふきまつらむあしき世ををさめましたるかみのみつるき　同　平野鏡心
我國はたふときつるきおほみやにかみとまつらん世を守ります　同　大橋得成

みつるきは大和心のあらはれそあつたのみやにいまもましますの　生徒　平野淳蜂
日の本のさかえゆかむはたふとくも劔のひかりあれはなりけり　同　鬼頭春光
大宮のつるきそ國のまもりかみなほとこしへに御代をもりませ　同　林梅心
かみよよりたふとまれけるみ劔は熱田のみやにまつられにけり　同　仙田俊道
軍國の花とかをりしなきあにをのこせしつるきたふとかりける　同　古川雄峰
とこしへに動きなき世を守るらむ國のたからとあふくみつるき　同　早川蓮明

宗榮尼衆學林

みつるきの威德いよいよ顯はれてさかゆる宮のにきはしきかな　林長　余語宜陽
草薙のつるきを奉るおほみやはくにのほこりのかみにまします　舍監　木村祖禪
尾張なる熱田のみやのみつるきにくにのさかえの輝やきにけり　生徒　近藤文昌
皇國のかたきまもりと仰ふかるるほこりも高きく草薙のつるき　同　林淨月
雲見山まつるつるきのかかやきをすめら御國のうへに見るかな　同　岸成周
神代より國のまもりとなりにける熱田のみやのつるきたふとし　同　永田義宗
拜かみて神のすめらを仰くへしあつたのみやにひともまゐきて　同　矢野宗悅
日の本を守りまします大みやにいまもましますの草薙のみつるき　同　林禪明
その昔あつ田のみやにしつまれるつるきはいたく畏こかりけり　同　牛田宗春
草なきのつるきをまつる大宮にみよのさかえをいのるもろひと　同　萩野智照
我か國はあつたのみやにいつきまつるみ劔のことく光かかやく　同　岩田秀溫
幾千年いやさかえ行かむくさなきの劔のまもるすめらみくには　同　木村惠綾
光輝ある年をむかへていはふかなあつ田の神のみとくたたへて　同　紀藤宜清
永久にみくにをまもるみつるきはたかきほまれをいはふ今日哉　同　林玄瑛
草なきのつるきをまつるみめくみの熱田の宮のかみそかしこき　同　石田明禪
我くにはかみの劔のかかやきを千代に八千代に見るかかしこさ　同　酒井良彰
昔より熱田のみやに名もたかきみつるきあふくみよそやすけき　同　黃玄妙
千代までもたふとひまつる御劔は國のまもりのたからなりけり　同　林玄光
萬代にきみをまもるとくさなきの大みつるきのますかかしこき　同　近藤宗鑑
名もたかきあつたのみやにまつらるる劔のひかりよを照すなり　同　張德昭
みめくみの熱田の宮にいつきまつる草なきの劔たふとかりけり　同　武内宗純
千早ふる神のみよより受けませるつるきは國のたからなりけり　同　鈴木惠戒
天地にひかりかかやくみつるきのみいつに國はさかえゆくなり　同　莊明道
みつるきをはきてくまそを平けしみこと思へはやしろたふとし　同　伊藤曉彝
みつるきをまつりたまへる大宮のみまへにゆきて世をいのる哉　同　泉宜信

もゆる火のほ中に立ちて草なきしつるきは國のみたからにして　生徒　岩井完洲
みつるきの光のことくかかやきて我日のもとそたふとかりける　同　大籔宜明

岐阜縣

岐阜縣盲學校

とことはに光かかやく草なきの太刀こそくにのたからなりけり　生徒　後藤勝美

福島縣

會津產婆學校

世を守り仇うちはらふますらをのつるきは國のたからなりけり　校長　古川俊壽
支那の野の仇うちはらひたくひなきつるきの光いまそかかやく　生徒　山中妙子
神代より天津日つきのみくらゐにつたへて祝ふかみのみつるき　同　柳橋きく子
ますらをかたましひこめてはく太刀の光はやかて國のみひかり　同　新國江子
草を薙きあたをはらひしみつるきの光はとはに世をてらすらん　同　栗城タヶ子

廣島縣

廣島縣立廣島高等女學校

萬代の魂うちこみしみつるきは如何なるあたかくたかさるへき　生徒　久保郁代
まつろはぬ仇うちなひけ神州のかたきまもりはやまとみつるき　同　堀内智柄

神なからすめくにもれるみつるきに二千六百年はめくり來に鬼　同　佐伯美智子
大和魂こもりしつるきすめくにのゆるかぬかためと兵の佩たり　同　山西芳枝
みつるきの光つたへて日の本はあたらしき世を築かんとたてり　同　勝矢榮
神なから神のみつるき靜もりてやまとうからのみちしめすなり　同　三澤純子
そのかみに草なきまししみつるきは榮ある年とともにかかやく　同　大江輝子
ますらをのかさしし太刀のきらめきと共に輝やくみいつの御光　同　內田美惠子
太刀はきて港征てたつますらをのいさを高かれと祈りたりけり　同　早稻田美知子
永久に我日の本をまもりますあつたのみやにかかやくみつるき　同　永峰佐榮子
三千年の神こもりますみつるきに尾張のみやのそらたかからむ　同　丸岡喜久子
山河にそもいくたひのいさをしをたてかへりしそ腰のみつるき　同　竹本冷子
大神のゆつりたまひしみつるきのま白きひかりいまさやかにも　同　松浦寛枝
破邪の劍拔きてアジヤのあたしくさ薙きゆく皇國に榮あらなむ　同　片桐五十江
邪をはらひ正をひらきしみつるきにこの佳き年はめくり來りぬ　同　吉村令子
御劍はいまもむかしもくにまもりきみの守りそこの日のもとに　同　若松靜子
仇波をふせきしみつるき今ここにつたへて大き代をまもります　同　板野幸子
すめくにの大き御楯と日のもとのかみのみつるきいや光りませ　同　森文枝

いかならむ邪をもはらはむ國民のこころにとりし此つるきもて　生徒　三澤純子
敷島のわか日の本はみつるきのひかりかかやくきよきくになり　同　今井美津子
さやけくも匂ひ立ちぬるつるきこそ我日の本のすかたなりけれ　同　田中佐喜子
熱田なる神のみつるき常にほひとはにさかゆる日のもとのくに　同　吉田幸
御劔に邪をなきはらひすすみ來しわか日の本はとこわかのくに　同　野崎好子
大陸にくんとうかさしつはものの、さけふはんさい聞ゆることし　同　永井久子
邪をはらふつるきをうちかさし千代にさかゆくくにはわかくに　同　扇元壽美子
みつるきの下にかかやく皇國の世よのれき史はきよしかりけり　同　宮川幸枝
草なきて賊平けしみつるきのまもれるみくには千代にさかゆく　同　池内明子
たふとしや劔のひかりかかやきてみよはんさいをいはふくに民　同　富士井悅子
丈夫か手に取り持ちてすすみゆくつるきの光に亞細亞晴れ行く　同　森敏子
外國のよもやまてもいさをしをのこしてすすむ聖のみつるき　同　龜井文子
大陸につるきのひかりさしそひて我おほやまといやさかえゆく　同　鈴木敏子
邪を拂ひひかりますめるみつるきのこころ仰かむこのよき年に　同　板野八重子
草薙の聖きみつるきよよにほひみくにさかゆくあめつちと共に　同　俵須美枝
用ひたる人のこころのほとしれて高くきよらにほふみつるき　同　三宅德

大いなる年を迎へてみつるきのひかりいやます日のもとのくに　同　土屋京子
古ゆたたしきみちをまもり來てやまとつるきそたふとかりけり　同　大石澄子
わか皇子の惡人うちしみはかしは興亞のわさをみそなはすらむ　同　猫本芳惠
みつるきはくまなくすみて神代よりいや榮えゆく日のもとの國　同　代田芳子
ちよろつのみよの榮を祈らなむあつたのみやのみつるき仰きて　同　阿部房子
國のため召しいたされし子の上をつるき贈りてちちははけます　同　中野蔦枝
眞直くなるつるきのまことあれはこそ我日の本は榮え行くなり　同　增田智子
榮えゆくみよのまもりのみつるきは熱田の森にしつもりませる　同　河合みち子
いにしへゆさやけくひかる御劔をいたたきしより國はうこかす　同　甲田靜枝
神代よりつたへ來れるみつるきのひかりに榮ゆおほやしまくに　同　林千鶴子
昔よりかはらぬものは國たみのつるきのこときこころなりけり　同　眞野松枝
ちはやふるかみのつるきは幾千年つたへられつつ國まもります　同　安川美江子

福岡縣

幸祝女塾

どこしへに我すめくにを守ります神のつるきそ世にもたふとき　教師　松岡信子
益良夫はかみのつるきに神ならひしこの小草をなきつくすらむ　生徒　松岡美

くさなきの劔のひかりくもりなく永久に榮ゆる日のもとのくに　生徒　福井百代

曇りなきつるきのことく日の本のくにのさかえはきはみなき哉　同　末安正榮

かしこしや熱田の宮のみつるきはくもらぬ國のしつめなりけり　同　川上喜代子

永久にくもることなきみつるきのひかりの如くくにはさかゆく　同　原田志ほ

みいくさにかさすつるきの光こそわかゆるきなき國のいしすゑ　同　三村かすよ

くさなきの劔はとはにくもりなく熱田のみやにしつまりいます　同　若林緣

天皇のくにのまもりとこしへにつたへきたりしくさなきの劔　同　兒島喜美子

とこしへに劔のひかりくもりなく永久に輝やくひのもとのくに　同　田中操

草をなきて仇をはらひしみつるきの光とともにくにはさかゆく　同　佐々木幸子

くもりなき劔の如く日のもとのひとのふみゆくみちそあかるき　同　大隈洋子

つるき太刀とはにくもらぬ光こそわかくに民のこころなりけれ　同　西村絹子

くもりなきつるきのひかりとこしへに輝やくか如さかえゆく國　同　樋口君代

草薙のつるきとともにとこしへにいやさかえゆくすめろきの國　同　田中ひさ

やき太刀の劔のひかりくもりなく永久に榮えむすめろきのくに　同　武末とし江

燒太刀のつるきの光くもりなくのひゆくくにそ日のもとのくに　同　武末あや子

我國は神代なからにやき太刀のつるきのことくくもりなきくに　同　山川るゐ

永久につるきのひかりかかやきてわか日の本はうましくにかも　同　加藤碩

燒太刀のつるきのことく萬代にいよかかやく日のもとのくに　同　直江千里

たくひなきわか日の本のつるき太刀くもらぬかこと榮えゆく國　同　古賀惠美子

永久に世をてらしますみつるきはすめら御國のかかみなりけり　同　蒲池葉滿代

くもりなき劔のひかりとこしへに國のかかみとかかやきわたる　同　白壁ちゑ子

やき太刀のつるきの光とし〻にいよよ輝やくすめおほみくに　同　中村弓子

くさなきの劔は代代にかかやきてすめらみ國のまもりなりけり　同　豐村喜久枝

草薙のつるきはとはにくもりなくわか日の本のしつめなりけり　同　多田芳枝

くさなきのつるきの光くもりなくともに輝やく日のもとのくに　同　西　文子

いくちとせ光かかやく日のもとの國のすかたのつるき太刀かな　同　小野笑子

すめろきの御國のしるしやきたちの永久にくもらぬかみの神劔　同　小金丸節代

燒太刀のつるきのひかりくもりなくいよよ輝やく日の本のくに　同　加藤禮子

くさなきの劔のひかりとこしへにくもることなき國のみまもり　同　加藤よし子

ますらをかとりはくつるきくもらぬそ我敷島のやまとたましひ　同　手島いつよ

わか國はつるきのひかりとこしへに輝やくかことくもりなき國　同　長田史子

くさなきのつるきと共にとこしへに光りかかやく日の本のくに　同　西川やす子

草薙のつるきと共にくもりなくよよにさかゆくひのもとのくに　生徒　岡留恭子
外國のくにのはてまてすめろきのつるきのひかりかかやき渡る　同　上野初代
くもりなきつるきの如く清らかにひかり榮ゆるすめろきのくに　同　武末信子
やきたちの光のことく我くにはよろつ代まてもくもりなきくに　同　八尋田鶴子
いはまくは畏かれともすめろきの國のまもりのかみのみつるき　同　青柳美知子
くさなきのみつるきの光くもりなく永久につたはる日の本の國　同　永田あや子
すめろきの國のしつめのみつるきは清く尊とくひかりかかやく　同　脇野節子
とこしへに劒のひかりくもらぬそわかすめ國のしるしなりける　同　益田信子
永久にくもる事なきくさなきのつるきのことくくにはかかやく　同　峰松時代
とこしへに光かかやくくさなきのつるきは國のまもりなりけり　同　長濱すみ江
燒太刀のつるきのひかりくもりなく輝やくみよを祝ふたみくさ　同　石橋周枝
やきたちのつるきと共にくもりなくとはにかかやく日の本の國　同　西原美惠
燒太刀のつるきとともにくもりなくわか日の本はゆるきなき國　同　竹重ヱ代子
神劒のくもらぬかこと日のもとのくにのさかえは永久に變らす　同　占部睦子
すめろきの國のたからのつるき太刀くもらぬ御代をいはふ國民　同　伊藤彌生
やきたちのつるきのことくとこしへにわか皇國はくもりなき國　同　福澤紹子

臺灣

臺北州立臺北第三高等女學校

高照らすみいつかけときたち風になひかぬはなし四方のしこ草　校長（從四位勳四等）　小野正雄
ちはやふる神のみよより國守らすみつるきの稜威遠光代をほく　教諭（從七位）　嬉野悌興
みつるきの光とともに大御稜威よもにあまねく御代をことほく　教諭　稻葉久冨
うち進むほつつほつつのつるき刄に天つ御神のひかりてりそふ　同　川口正美
みつるきのかけいやさえて大御稜威四方照しますす御代を言ほく　同　土屋セツ子
いつきこしいかし劒をそのままの稜威になひかふ君か代ほかな　囑託（從七位）　野村ニシ
日の如く輝やくみつるき拜みてみいつかかやく世をいはふかな　生徒　張氏琤々
みつるきのたふとき宮を拜みてかかやくきみの世をいはふかな　同　李氏清花
みつるきの光たふとくかかやきていはふは紀元ふたちもとせ　同　洪氏王嬌
草薙のつるきの如くおほきみのみいつかかやく世をいはふかな　同　張氏巧
みつるきの光をあふきたてまつり千代に榮ゆくみよいはふなり　同　賴氏壽椿
みつるきの鎭まるみやを拜みていはふはくにのさかえなりけり　同　謝氏月娥
くさなきのつるきしつまるみやしろの榮きたるを祝ふ今日かな　同　余氏甚足
みつるきの光とともにすめくにのいやさかえ行く世をいはふ哉　同　林氏雲仙

みつるきの光と共にあしはらのくにのさかゆるよをいはふかな　生徒　高氏　寶桂
みつるきのしつまる宮居拜みてみよのさかえをいはひけるかな　同　鹽屋　幸枝
みつるきのひかりを受けて乙女等は國威いやますを世をいはふ哉　同　徐氏　梅子
みつるきの清く輝やくみひかりの大和をてらす世をいはふかな　同　王氏　淑媛
みつるきのひかりのことく榮ゆくすめらみくにの幸いはふかな　同　張氏　月嬌
みつるきのしつまりませる御社にみよのさかえをいはふ民くさ　同　蔡氏　嫩華
草薙のつるきのみやを拜みてみよのみさかえをいはひまつりぬ　同　陳氏　玉瑾
くさなきのつるき拜かみいはふかなみいつ輝やく昭和の御代を　同　陳氏　葇
みつるきの光あまねくすめくにのいやさかえゆく世をいはふ哉　同　洪氏　眞々
くさなきのつるきのことく輝やきていや榮ます世をいはふかな　同　陳氏　月英
神代よりうけつきまつるみつるきの光かかやくよをいはふかな　同　李氏　璧
みつるきの熱田の宮ををろかみてみいつかかやく世を祝ふかな　同　中山　年世
御劔のみいつかかやく大みやにみよのさかえをいはふひとかな　同　劉氏　敏
いはれあるみつるき拜み皇國のさかえ行く代をいはふなりけり　同　林氏　月嬌
みつるきの守ります宮に人しけくさかゆくみよを祝ふうれしさ　同　黃氏　碧杏
日の本にたふとき劔ありてこそ永久にくにたみさかえ行くらむ　同　陳氏　雪娥

草なきのつるきまつれるみやしろに榮ある今日をかしこみ祝ふ　同　張氏　美英
いにしへの歴史こもれるかみつるきみよを守りて國さかゆなり　同　蔣氏　碧雲
いそのかみの賊平けしみつるきのみいつ輝やくみやいはふかな　同　陳氏　詠美
みつるきの御光さえて四方てらしおさまるみよを壽くよろつ民　同　簡氏　阿扁
くさなきて國守りたるみつるきをあかめさかゆくみよ祝ふかな　同　陳氏　梅妹
みつるきのひかりをあふく國民はこくいかかやく世をいはふ哉　同　林氏　黛娥
草なきの劔もりますかちいくさたかさこしまにいはふたみかも　同　蔡氏　嫦娥
みつるきのたふときひかり守られつ伸ひゆく國をいはふくに民　同　郭氏　瑞
みつるきのひかりまはゆきみやしろのみさかえいはふ戰勝の秋　同　謝氏　圓
みつるきの輝やくことくすめ國のこくいやますみよを言ほく　同　黃氏　春子
みつるきの光の如くさかえ行くみくにのみいつことほきまつる　同　揚氏　志精
みつるきのみ光共にかかやけるすめらみくにのみよいはふかな　同　高氏　婉如
みつるきのひかりと共に大君のみいつかかやく世をいはふかな　同　陳氏　彩鸞
草薙のつるきのことくかかやける熱田のみやのいやさかを壽く　同　黃氏　淑貞
みつるきのひかりの如く榮えゆく君かみいつをことほきまつる　同　高氏　寶蓮
みつるきの光とともに大御代のいやさかゆるをいはひまつりぬ　同　陳氏　碧蓉

みつるきのひかりに四方の荒波のなこみゆく世を祝ひまつらむ　生徒　劉氏布妹
くさなきのつるきのいはれ思ひつつ千代の榮をいはふ今日かな　同　邱氏秀鄕
みやしろのつるきをかみてことほくはすめら御國の二千六百年　同　徐氏端妹
わさはひをよくるたふときみつるきの光輝やく世をいはふかな　林氏勝玉
み社のみつるきのことおほきみのみいつかかやくよをいはふ哉　同　高氏惠子
たいりくにつるきのほまれかかやきていはふは紀元二千六百年　同　蔡氏阿香
くさなきのみつるき光みやしろかとはのさかえをことほき奉る　同　崎山マサ
くさなきのみつるき永久に冴えませる宮の榮をあふきことほく　同　黎氏富美子
すめらきの清き劒のみひかりをあふきてわれらみよをことほく　同　内藤照子
くさなきのつるきと共に極みなくみいつ輝やくくにいはふかな　宋氏美霞
みつるきのたふとき光くまもなくかかやき渡るみよいはふかな　同　前田春子
御劒のふるきいはれそしのはれてみやゐのさかえ祝ふなりけり　同　中田艶子
みやしろの神代なからのみつるきのいやさかえゆく年祝ふかな　同　張氏素娥
くさなきのみつるきの如輝やきて永久にさかゆるみよいはふ哉　同　李氏映雪
そのかみのみ劒偲ひはらからとふるきれき史をいはふ今日かな　同　山本ナナ子
すめくにの四方に輝やくみつるきのひかりくもらぬみよ祝ふ哉　同　吳氏碧蓮

みつるきの光の如くさやかにもさかゆく御代をいはふ今日かな　同　李氏明女
とこしへに光りかかやくみつるきのかはらぬみよを祝ひ奉らむ　同　蘇氏月鳳
はるかなるやしろのつるきをろかみていはふは紀元二千六百年　同　李氏慰慰
みつるきの光あまねき天のしたさかえゆく世をことほきいはふ　同　張氏愛治
尊とくもみつるき祭るみやしろの千代のさかえをことほき奉る　同　富樫甲子
みつるきによりて伸ひ行く日本をとほきしまよりことほき祝ふ　同　魏氏元環
みつるきにみことのみたまやとります尾張の宮のみさかえ祝ふ　同　蔡氏翠雲
みつるきのみいついたたき外國にさかえましゆく君か代いはふ　同　黃氏月
つはものの戰の庭にたたかへる太刀のひかりにくにさかえゆく　同　張氏賢子
すさのをのたふとき御神のみつるきに國の榮をことほきまつる　同　揚氏鈴子
東路の亂れしつめしみつるきそとほくさかゆくみよいはふなり　同　林氏碧蓮
永久にしつまりませるみつるきとともに榮ゆくみよそうれしき　同　郭陳氏幼
もののふのつよき魂たちのことひかりかかやくみ世をいはふ哉　同　邱氏櫻梅
みつるきの光とともにとつくににみいつ輝やくよをいはふかな　同　詹氏準
神もりのみやにしつまるみつるきによよの榮をいはふくにたみ　同　鄭氏珠枝
神とますみつるきのことかかやける國のさかえをこそりて祝ふ　同　劉氏梅英

みつるきのしつまる宮ををろかみてみいつ輝やく代をいはふ哉　生徒　寥氏　素芬
天照らすたふときみいつのきはみなく輝やき光みつるきのこと　同　林氏　錦綉
みつるきのひかりさなから大君のみいつかかやくみよ祝ふかな　同　陳氏　玉瓊
みやしろのみつるきの如かかやける神代なからのみよを祝はん　同　呂氏　鑾娥
みつるきをまつりし宮を拜みてみよのさかえをいはひけるかな　同　陳氏　秀鶯
みつるきの神のみまへに大御代のみいつ輝やく世をいはふかな　同　黄氏　鳳妹
みつるきの光の如くとこしへにかかやくみよをを女らいはふ　同　洪氏　瑞園
もろこしに兵のつるきかかやきて國威いやますよをいはふかな　同　陳氏　碧森
神代よりたふときつるきいたける我日の本のさかえいははん　同　陳氏　秀鳳
くさなきの劒のことくかかやける昭和のみよのこくいいははん　同　吳氏　秀女
みつるきの光のことくとつくにみいつ輝やくみよいはふかな　同　江氏　紅緞
くさなきのつるきと共にすめらきの國威いやますよを祝ふかな　同　許氏　玉婧
みつるきのひかりのことく輝やける君のみいつをことほき祝ふ　同　鄭氏　緞妹
ちはやふる神のみつるきいや永久にひかりさしそふ日の本の國　同　沈氏　根
外國に類ひもあらぬくさなきのみつるきまつるみやしろいはふ　同　李氏　玉梅
草薙のつるきのはゆるかかやきはすめらみ國のひかりなりけり　同　蘇　雪子

年としに光いやますみつるきにいはひたたふるいちおくのたみ　同　林氏　登美
みつるきの床しき光かかやけるあつ田のみやのみさかえいはふ　同　洪氏　中秋
みつるきの宮拜みていはふかなひしりのきみの永久のさかえを　同　游氏　秀蘭
千早ふる神のみよよりみつるきのひかりかかよふ日のもとの國　同　蘇氏　岫霞
いはれある劒によせていはふかな神代なからのくにのさかえを　同　黄氏　岡市
みつるきの光のことく年としにさかえゆく世をわれいはふかな　同　李氏　阿燕
草なきしいさをし代よにかかやきて永久に守れる世をいはふ哉　同　陳氏　秀
みつるきの光のことくいやたかきみいつてりそふ世をいはふ哉　同　佐藤惠美子
御劒のひかりとともにさかえます大きみの代をことほきにけり　同　黄氏　祝
皇國のみくさのたからとあふかるるみつるきまつる宮を言ほく　同　蘇氏　秀蓮
大君のみいつと共にひかりますつるきしつまるみやいはふかな　同　林氏　雪子
みつるきのひかりはよよに輝やきてみよのさかえを國民はほく　同　劉氏　玉霞
いや遠き神代なからにみつるきのひかるかことき君か代いはふ　同　黄氏　玉鳳
唐土につるきのひかりかかやきてとはに榮ゆくよをいはふかな　同　廖氏　寶玉
草薙のつるきのことくすめらきのみいつ輝やくみよいはふかな　同　宋氏　秀霞
神代よりつたへ來にけるみつるきのひかりいやます皇國いはふ　同　陳氏　玉叙

みつるきの光はえあるみやまうてさかゆるみよの幸いはふかな　生徒　傳氏明珠

みつるきのみいつと共に四方の海ひかり輝やくきみか代いはふ　同　林氏腰

當座防空

大空のまもりかためて國たみのいそしむさまのいさましきかな　辰次郎

うみくかのそなへのみかは大空のまもりはかたしすめらみ國は　親弘

海陸のかたかきそなへはもてり共み空のまもりゆるふへしやは　平一

皇神のみいつに空はまもられてあたのとりふねおそふひまなし　陶英

大空のまもりも廣きたたかひをつはものにのみまかすへしやは　弓月

あまかけるいくさのうつは進む世は空のまもりにこころ盡さん　直寛

ともすれはあたの鳥船おそひ來む大そらまもれみたみこそりて　美

國民のおもきつとめとなりにけり我ひのもとのそらのまもりは　良吉

なほさりにいかてかすへき大空のまもりをかたく常にそなへて　恒比古

仇の入るひまやあるへき國こそりこころあはせてまもるみ空に　清音

ますらをはくもちる屍とかへりみて神のみ國のそらまもりてむ　良夫

みそらにも仇なすもののある世なり守れたみくさ老もわかきも　玉邦

いましめの笛のね高しみ空もるならしする夜のやみにひひきて　紫光

船空のわさもちからもくちかなむ科學にまさるやまとたましひ　康資
サイレンにおさなこころを引しめて防火又防毒につとめける哉　郷子
ものすこく仇のとりふねせめ來とも一つこころにまもれおほ空　兵一
仇の彈丸そらよりふらすひまもなしいましめ堅き國のまもりに　民子
人みなの心あはせてまもらなむそらよりせむるすへのなきまて　千代
ちからなきわれ女等もそらまもるすへをきたへむ國のみために　かな
おそひくるひまやなからむ日の本の國をあけての空のまもりに　たま
心してみそらをまもれ人よ皆しゆらのちまたとならぬいとまに　清十
みたみらは常ならぬ世をこころして空の守りのすへなわすれそ　助久
日のもとは海陸のみかさらにまた空のまもりのいやかたくして　秀月
脊の君の居まさぬ家をまもりつつみそらの敵をふせくををしさ　佐吉
人ひとのこころにそなへありてこそ空の守りもかためらるらめ　賢次郎
あたらしきうつはそなへてそらの敵防くならしのいさましき哉　隆彦
日の本の空のまもりはいや堅しならしする夜もならしせぬ夜も　義雄
雲風のたたならぬ世はくにつたみこころゆるめすまもれみ空を　正安
大砲をうちあふのみか國つたみそらをまもれいまのいくさは　昌年

大八洲かみのまもりもありてこそみ空のそなへなほかたからめ　情敵
ともし火をもらさすましとみな都市は心あはせてまもる大そら　琴海
空の仇おそはおそへうち落すうつはもすへもわれそなへあり　四方
くにまもる心にたれかひまあらんおそはおそへ仇のとりふね　信誓
國つたみ心あはせてまもるらむとりふねたえすそらをとふ見ゆ　鶴子
そらまもるとりては堅しいむかへる仇のとり船おそひくるとも　仙郎
ことしある時にそなへて勵めかし常ならぬ世のそらのまもりを　建通
おほそらを守る力のつよけれはみくにはとはにやすくあらまし　不惑
皇民みなこころひとつにそなへてそ空の守りはいよよかたしも　静磨
大空をともにまもらむにしひかしとなりの人とこころあはして　門平
住家のかまへよりして特さらにこそりてふせけそらのあたふね　成之
おい若きをとこをみなもいそしまむ仇のとり船ふせくならしを　清雄
よろつ民力あはせてゆるきなきやまとしまねのみそらまもらむ　正雄
とこやみの空を守りの飛行機はたみやすかれとふたつ三つ四つ　德松
隣とちこころあはせて國こそりそらのまもりをいよよかためん　義重
大空も水のそこつもゆるひなくこころあはせてまもれくにたみ　力

人里のともし火けちてやみの夜のそらを守りぬこころひとつに　豐秋
おそひくる空の大敵なにかせんまもれもろひとちからあはして　守國
おほそらのまもりかためよ女らかもんへすかたに水蓄へにける　和三郎
つねにかたく空をまもらん若人よてきの鳥ふねおそひくるまに　定正
そらまもるうつはさまさま進む世に科戸の神もまもりますらん　椋堂
ともすれは仇のとり舟おそひこむみそらを堅くまもれくにひと　守之
おそひくるすきまはあらしみ民みな心かためてまもるみそらは　弘子
せめ來へき仇はありともあらすとも堅めて置かむ空のまもりを　安兵衛
大空のまもりかためんさしなみのとなりの人とこころあはせて　香
ふろへらの音するかたを見あくれは空をまもりて飛行機のとふ　菊太郎
かけりくるあたの鳥船かさしとみみかまへなしてたてるををしさ　新三郎
萬民こころもやすくねむるなりそらのまもりのかたきひのもと　喜内
あたらしきいくさのみちも開かれて空の守りそたふとかりける　房太郎
古へといくさのすへはすすみけり空よりてきの攻めきたる世そ　風月
たたならぬ時にしあれは老人もをみなもいててそらまもらなん　色許若
みそらより仇のとり舟おそふともうち落してむまもりかためて　つね子

くろかねにひとしきそなへわれにあり仇の鳥船よしおそふとも　安
ことあらむ時にそなへて大空もかたきまもりをする世なりけり　千
民はみな心あはせてくにのためつくすまことはうれしかりけり　足
空防くすへはもとより國こそりこころにゆるみあらせすもかな　長年
一人たにこころゆるさすまもれそら事ある時もあらぬときにも　德篤
隣にも知らせて消さむともし火を仇のとりふねよせてこぬまに　やほ子
君か代のなかきためしもゆるみなく陸のそなへに空のまもりを　豐造
すはといふ時のそなへにまつそらをかたくまもらむ女なれとも　一太郎
身をきたえ心をねりてきはみなきみ空まもらむくにのみたみら　文子
仇國のとり舟きなはなにひともこころゆるすなそらのまもりに　力
はるかなるもろこしの野を思ふ哉空をまもりのいくさならしに　正德
いさといふ時のそなへに國たみよ空のまもりをおろそかにすな　和子
たたかひの場は空まてひろこりぬまもらせ給へとりふねのかみ　惠津
燈火を覆ふぬのきれをとのへて空のまもりにわれもそなへむ　正裕
大空を防せくそなへを國つたみこころあはせてつくすへきとき　鎌信

411
77

昭和十六年五月五日印刷
昭和十六年五月[illegible]日發行

〔非賣品〕

編纂者
發行者　熱田神宮宮廳
右代表者
慶光院俊

印刷者　岐阜縣大垣市南高橋町
西濃印刷株式會社代表者
河田貞次郎

發行所　名古屋市熱田區中瀨町
熱田神宮宮廳

終